

ETOSJX for UNICODE V5.0 導入ガイド

ご 注 意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは、禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一御不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたらご連絡ください。
- (4) 運用した結果の影響について(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

Microsoft、Windows、Windows Server、Visual C++、Active Desktop、Active Directory は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。ETOSJX、FontAvenue、PrintBridge、ネットワークマネージャは、日本電気株式会社の登録商標です。帳楽は、NEC ソリューションイノベータ株式会社の登録商標です。

本マニュアルに掲載されている会社名、商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。



警告

CD-ROM 媒体は、CD-ROM 対応プレーヤー以外では絶対に使用しないでください。大音量によって耳に障害を被ったり、スピーカーを破損するおそれがあります。

© NEC Corporation 2005, 2018

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は、外国為替および外国貿易管理法の規定により、戦略物資等輸出規制品に該当します。従って、日本国外に持出す際には日本国政府の輸出許可申請等必要な手続きをお取り下さい。

はしがき

本マニュアルは、NEC 製パーソナルコンピュータ上で動作する ETOSJX for UNICODE（以降 ETOSJX と称す）の機能について説明しています。

ETOSJX は、NEC 製ホストコンピュータ（ACOS-2、ACOS-4）に接続し各種オンライン処理を行う通信ユーティリティ (ETOS : Easy Terminal Online System) の一種です。

本マニュアルは、Microsoft® Windows Server® 2016 および Microsoft® Windows® 10 についての知識を前提にしています。各 OS 製品については、それぞれの説明書を参照してください。

ETOSJX は、「とりあえず使ってみる」タイプのプログラムではありません。必ず仕様をよく理解した上で、正しくインストールしてお使いください。

マニュアルの読み方については、[本製品のマニュアル構成] をご覧ください。

本製品のマニュアル構成

本製品のマニュアルは、導入ガイド、操作ガイド、リファレンスマニュアルから構成されています。目的に応じて、それぞれのマニュアルを以下のようにご利用ください。

導入ガイド

ETOSJX をインストールする

ETOSJX を購入されてから業務開始までに必要な作業について順を追って説明しています。

ETOSJX をインストールする前に必ずお読みください。

操作ガイド

ETOSJX を動かす

ETOSJX の基本的な操作方法と各機能の操作方法について説明しています。

ETOSJX を使用する前にお読みください。

リファレンスマニュアル

ETOSJX をもっと詳しく知りたい

ETOSJX の各機能について詳しく説明しています。

使用目的や業務内容に応じて必要な部分をお読みください。

本マニュアルの表記について

本マニュアルでは、本文中の字句の意味を明確にするために、次のような表記方法を使用しています。

表 記	意 味
Windows Server 2016	Microsoft® Windows Server® 2016 Standard を表します。
Windows 10	Microsoft® Windows® 10 Enterprise LTSC 2016 を表します。
Windows	Windows Server 2016, および Windows 10 を表します。
Visual C++ x.x	Microsoft® Visual C++® Version x.x を表します。
Visual Studio xx	Microsoft® Visual Studio® xx を表します。
ETOS データフォルダ	ETOSJX が初期値でデータ参照するフォルダを表します。 x:ProgramData¥NEC¥ETOSJX (x:システムドライブ) を指します。
<input type="text"/>	キーボード上のキーを表します。 例 <input type="text"/> キー、 <input type="text"/> キー
<input type="text"/> + <input type="text"/>	同時に 2 つのキーを押すことを表します。 例 <input type="text"/> + <input type="text"/> キー
<input type="text"/> + <input type="text"/> + <input type="text"/>	同時に 3 つのキーを押すことを表します。 例 <input type="text"/> + <input type="text"/> + <input type="text"/> キー
[]	ウィンドウのメニュー、ダイアログボックス、 ボタンなど、画面上に表示される文字を表します。 例 [送信] メニュー [コマンド入力] ダイアログボックス [OK] ボタン
△	スペースを表します。 例 「@PN△COPY」

表 記	意 味
英字（大文字・小文字）	<p>ファイル名、パス名、ドライブ名などは、原則として大文字で表記してあります。</p> <p>実際に入力するときは、大文字と小文字のどちらでもかまいません。</p> <p>例 C:\ProgramData\NEC\ETOSJX</p> <p>また、コマンドの構文規則やその例で、コマンド名などは、大文字で表記してあります。これも実際に入力するときは、大文字と小文字のどちらでもかまいません。</p> <p>例 /DSP</p>
入力可能な文字数	<p>入力可能な文字数は、半角文字相当で表記しています。全角文字を入力する場合は、半角文字2文字で計算してください。</p>

目次

はしがき.....	ii
本製品のマニュアル構成.....	iii
本マニュアルの表記について.....	iv
第1章 ETOSJX とは.....	2
1.1 ETOSJX とは.....	2
1.1.1 機能強化概要.....	3
1.1.2 機能概要.....	4
1.1.3 UAバスとCOMI-2バス.....	7
1.1.4 ETOSJXの動作モード.....	9
1.2 利用形態.....	10
1.2.1 ハードウェア構成.....	10
1.2.2 ソフトウェア構成.....	11
1.2.3 システム形態.....	12
1.3 インストールからETOSJXを使用するまで.....	13
第2章 動作環境.....	16
2.1 ハードウェア環境.....	16
2.2 ソフトウェア環境.....	17
2.3 SGファイル.....	18
第3章 インストール.....	21
3.1 ETOSJXのインストール方法.....	21
3.1.1 CD-ROMのインストーラを使用する.....	22
3.1.2 ネットワーク上のインストーラを使用する.....	23
3.1.3 Active Directoryのグループポリシーを利用する.....	24
3.2 ETOSJXの登録.....	25
3.2.1 管理者インストール.....	25
3.2.2 ETOSJXのインストール.....	29
3.3 インストール機能の追加と削除.....	38
3.4 ETOSJXの削除.....	41
3.4.1 CD-ROM媒体を使用する.....	41
3.4.2 コントロールパネルを使用する.....	44
3.4.3 グループポリシーを使用する.....	45
3.4.4 サーバイメージ（管理者インストール）の削除.....	47
第4章 PGパラメータ設定.....	49
4.1 パラメータファイルとは.....	49
4.2 ETOSJX-PGとは.....	49
4.3 パラメータファイルの作成手順.....	49
4.4 ETOSJX-PGを起動する.....	50
4.5 基本パラメータを入力する.....	51
4.6 拡張パラメータを入力する.....	54

4.6.1	初期動作を指定する	55
4.6.2	キーをカスタマイズする	56
4.6.3	ファンクションスイッチ機能を指定する	64
4.6.4	COMI-2 パス拡張機能を指定する	70
4.6.5	ID カードリーダ機能を指定する	82
4.6.6	回線接続に関するパラメータを指定する	83
4.6.7	プリンタ情報を設定する (COMI-2 パス)	84
4.6.8	プリンタ情報を設定する (UA パス)	97
4.6.9	ハードコピー機能を指定する	98
4.6.10	ETOSJX 起動時の表示情報を指定する	100
4.6.11	ETOSJX 起動時の画面補助機能をカスタマイズする	102
4.6.12	表示フォントを指定する	110
4.6.13	画面表示色を指定する	111
4.6.14	グラフの表示方法を指定する	112
4.6.15	データ連携の区切り文字を指定する	114
4.6.16	入力モードを指定する	115
4.6.17	マクロファイルを指定する	118
4.6.18	ブザー鳴動を指定する	120
4.6.19	ETOS 制御 API 機能を指定する	122
4.6.20	DCS プリンタの起動を指定する	123
4.7	リソースパラメータを入力する	124
4.7.1	ローカル画面機能の設定をする	125
4.7.2	UA パス機能を指定する	126
4.7.3	UA パスファイル受信終了時の自動起動アプリケーションを設定する	127
4.7.4	コード変換テーブルを設定する	128
4.7.5	DCS エラー鳴動を設定する	129
4.8	全パラメータに既定値をセットする	130
4.9	ヘルプを使う	131
4.10	作成したファイルを保存する	134
4.11	作成したファイルを開く	136
4.12	パラメータファイルを印刷する	137
4.13	ファイル作成を終了する	139
第5章	UA パスプリンタ設定	142
5.1	PGD ファイルとは	142
5.2	DCS プリンタとは	142
5.3	PGD ファイルの作成手順	142
5.4	DCS プリンタを起動する	143
5.5	PGD ファイルを新規作成する	144
5.6	パラメータを設定する	145
5.6.1	通信情報を設定する	146
5.6.2	プリンタを設定する	147
5.6.3	コード変換テーブルを使用する	164
5.6.4	オフラインビューファイルの出力先を指定する	165

5.6.5 エラー発生時の動作を指定する	166
5.7 ヘルプを使う	167
5.8 作成したファイルを保存する	170
5.9 作成したファイルを開く	171
5.10 PGD ファイルを印刷する	172
5.11 ファイル作成を終了する	173
第6章 パラメータファイルを変換する	175
6.1 PG コンバータとは	175
6.2 パラメータファイルの変換手順	175
6.3 PG コンバータを起動する	176
6.4 パラメータファイルを変換する	177
6.5 バージョン情報を表示する	179
6.6 PG コンバータを終了する	180
第7章 簡易操作ファイルを変換する	182
7.1 マクロコンバータとは	182
7.2 簡易操作ファイルの変換手順	182
7.3 マクロコンバータを起動する	182
7.4 パラメータファイルを変換する	183
7.5 マクロコンバータを終了する	184
第8章 ETOSJX のシステム設定	186
8.1 メンテナンスツール	186
8.1.1 メンテナンスツールを起動する	186
8.1.2 ETOSJX のログ採取を設定する	187
8.1.3 設定を保存して終了する	188
8.2 ETOSJX 専用プリンタ登録	189
8.2.1 ETOSJX 専用プリンタ登録を起動する	189
8.2.2 専用プリンタを登録する	190
8.2.3 専用プリンタを登録せずに終了する	193
8.2.4 出力先を変更する	194
8.3 9ポイント文字の印刷設定	195
8.4 PrintBridge を経由して印刷する	196
第9章 トラブルシューティング	199
付録	201
付録A 注意事項	202
付録B 障害発生時のお願い	212
付録C N5200 系コード対応プリンタ	217

第 1 章

ETOSJX とは

- 1.1 ETOSJX とは
- 1.2 利用形態
- 1.3 インストールから ETOSJX を使用するまで

導入ガイドでは、ETOSJX のインストール方法と端末システムの使用形態の設定方法について説明します。

まず、第1章で ETOSJX の機能を確認してから、第2章、第3章で使用する端末に合ったインストール方法を確認してください。

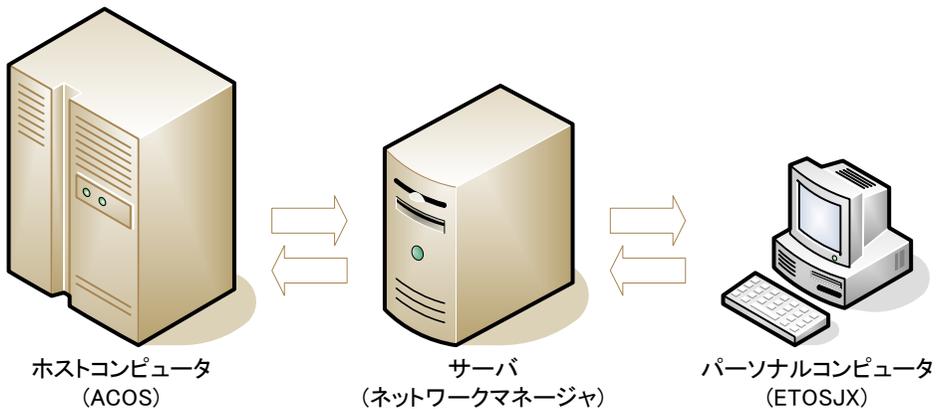
インストールが終了した後は、第4章、第5章に従い、端末システムの使用形態を設定してください。

第1章 ETOSJX とは

この章では、ETOSJX をインストールする前に知っておく必要のある ETOSJX の機能について説明します。

1.1 ETOSJX とは

ETOSJX は、各種の通信回線を使用してパーソナルコンピュータとホストコンピュータを接続し、オンラインデータエントリ、問い合わせおよび一括データ送受信を行ったり、ホストシステムの提供する種々の通信処理システム(リモートバッチ、タイムシェアリング、あるいはトランザクション処理)を利用したりするための通信ユーティリティです。



1.1.1 機能強化概要

本製品では以下の強化を行っています。

(1) Windows Server 2016, Windows 10 への対応

動作環境として、Windows Server 2016, および Windows 10 に対応しました。

詳細は「**2.2 ソフトウェア環境**」を参照してください。

(2) 分散処理機能の 64bit 対応

32bit 分散アプリケーションに加え、64bit 分散アプリケーションに対応しました。

詳細は、リファレンスマニュアル「**第 9 章 分散処理機能**」を参照してください。

1.1.2 機能概要

ETOSJX には、次の機能があります。

■対話通信機能

ホストで作成した画面フォーマットを使用して、対話形式で通信を行うことができます。

■画面フォーマット生成機能

ホストからの指示により、画面上の任意の場所に文字を表示したり、キーボードから入力する項目（フィールド）を生成したりすることができます。

なお、表示可能な文字コードは、Windows のフォントに用意された範囲のものとなります。

■ファイル転送機能

(1) UA パスファイル転送

バッチ処理で作成したデータを、フロッピーディスクやハードディスクから直接入力してホストへ一括送信したり、逆にホストから一括受信したデータをフロッピーディスクやハードディスクに直接出力することができます。

なお、PC 通信サーバ接続機能のクライアントまたは、WS 番号 0 以外でホストと接続している場合、UA パスを使ったファイル転送は実行できません。

(2) COMI-2 パスファイル転送

次に示すようなファイル転送機能をもっています。

- ・ホスト指示によって受信ファイルをアロケーションすることができます。
- ・読み出し、書き込み状態のチェックを行うことができます。
- ・可変長レコードファイルの転送ができます。
- ・バイナリイメージファイルの転送ができます。

(注 1) ファイル転送によって生成されたファイルは UNICODE (リトルエンディアン) で記述されています。また生成されたファイルをエディタ等で参照する場合はフォントに「F A JIPS 明朝」もしくは「F A JIPS ゴシック」を指定してください。それ以外のフォントを指定した場合、正しく表示されない場合があります。

(注 2) ファイル情報定義で指定するレコード長は、JIPS コードへ換算した長さになります。

UNICODE では、ANK 文字コードも漢字コード同様 2 バイトで扱われるため、コード変換によって端末側ではレコード長が変わることがあります。

結果、固定長でファイル転送したファイルが端末側では固定長になっていない場合がありますのでご注意ください。

上記理由より可変長でのファイル転送をお勧めいたします。

■プリンタ出力機能

(1) 2つのデータルート (UA パス、COMI-2 パス) を使ってデータをプリンタに出力することができます。

(a) UA パスプリンタ出力

ホストから一括受信したデータをプリンタに直接出力できます。

(b) COMI-2 パスプリンタ出力

COMI-2 手順の論理チャネルの 1 つを通して、プリンタに出力できます。

(2) フォームオーバーレイ機能を使ってプリンタ出力することができます。(UA パス使用時のみ)

■オフラインビュー機能

N5200 系コードでの UA パスプリンタ出力による印刷データを一旦ファイルに保存し、オフラインビューによりビュー表示・再印刷を行うことができます。

■ローカル画面ファイル機能

ホストが作成した画面フォーマットを、クライアントのフロッピーディスクやハードディスクのローカル画面ファイルに登録しておき、必要なときに目的の画面フォーマットを呼び出して表示することができます。また、拡張ローカル画面機能も使用可能です。

なお、PC 通信サーバ接続形態のクライアントまたは、WS 番号 0 以外でホストと接続している場合、ローカル画面の書き込みは行えません。

■マクロ機能

オペレータ操作をマクロファイルとして記録し、定型操作として実行することができます。

■簡易操作変換機能

従来ご使用の簡易操作ファイルをマクロコンバータにてマクロファイルに変換できます。

■データ連携機能

ETOSJX の画面上に表示されているテキスト文字、グラフなどを他のアプリケーションプログラムの画面にコピーしたり、他のアプリケーションプログラムの画面上に表示されているテキスト文字を ETOSJX の画面に取り込むことができます。

■グラフ表示機能

ホストからの指示に従い、グラフを表示したり、画面に表示したグラフのハードコピーをプリンタに出力したりすることができます。

■分散処理機能

アプリケーションプログラムは、ETOSJX の通信機能を利用してホストのアプリケーションプログラムと通信を行うことができます。

アプリケーションプログラムは、C 言語および COBOL 言語で作成可能です。

■ETOS 制御 API

ETOSJX の画面情報を取得／操作するための API を提供します。

アプリケーションプログラムは、提供された API を使用して、ETOSJX を制御することができます。

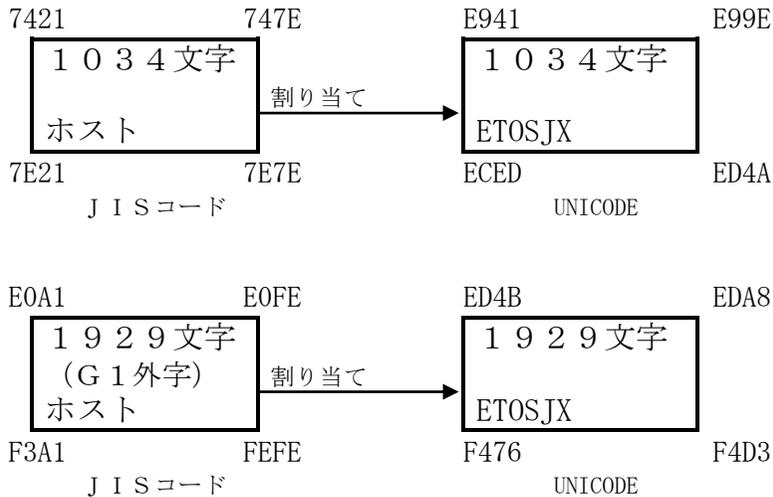
アプリケーションプログラムは、C 言語で作成可能です。

■表示色／ファンクションキーのカスタマイズ機能

テキスト／グラフ表示色を設定したり、ファンクションキーの機能を変更したりすることができます。

■ユーザ外字の登録

ホストの G0 外字 1034 文字、G1 外字 1929 文字を Windows の外字 3963 文字に割り当てることができます。
 ユーザ外字の使用については、リファレンスマニュアル「付録 E ユーザ外字領域」を参照してください。



■マルチ LU (Logical Unit)

同一端末上で同一ホストに対して 10 個の画面 LU と 10 個のプリンタ LU(UA パス)が使用可能です。

■マルチホスト接続

同一端末上から複数のホストに接続することが可能です。
 最大接続台数は、ネットワークマネージャの制限に依存します。

■PC 通信サーバ接続機能 (ネットワークマネージャ使用)

ネットワークマネージャの PC 通信サーバ接続形態(サーバ・クライアント形態)において、通信クライアントとしてホストと通信を行うことができます。
 なお、UA パスのファイル転送はサポートしていません。

■WS 番号指定接続

ネットワークマネージャの PC 通信サーバ接続形態(サーバ・クライアント形態)でホストと接続する場合、ETOSJX 起動時に WS 番号を指定することが可能です。

■Windows Server 2016 のソフトウェア配信対応

Windows Server 2016 Active Directory のグループポリシーを利用したソフトウェア配信(インストール)が可能です。
 グループポリシーに ETOSJX を登録すると、クライアント起動時にインストールが実行されます。

1.1.3 UA パスと COMI-2 パス

ETOSJX は、ホストと端末間のデータのやりとりを2つのデータルート

- ・UA パス
- ・COMI-2 パス

を使って行っています。

(1) UA パス

ホストと端末の各入力装置が UA(Unit Address)によって直接接続され、ホストがそれらの入出力装置を直接制御するデータルートです。

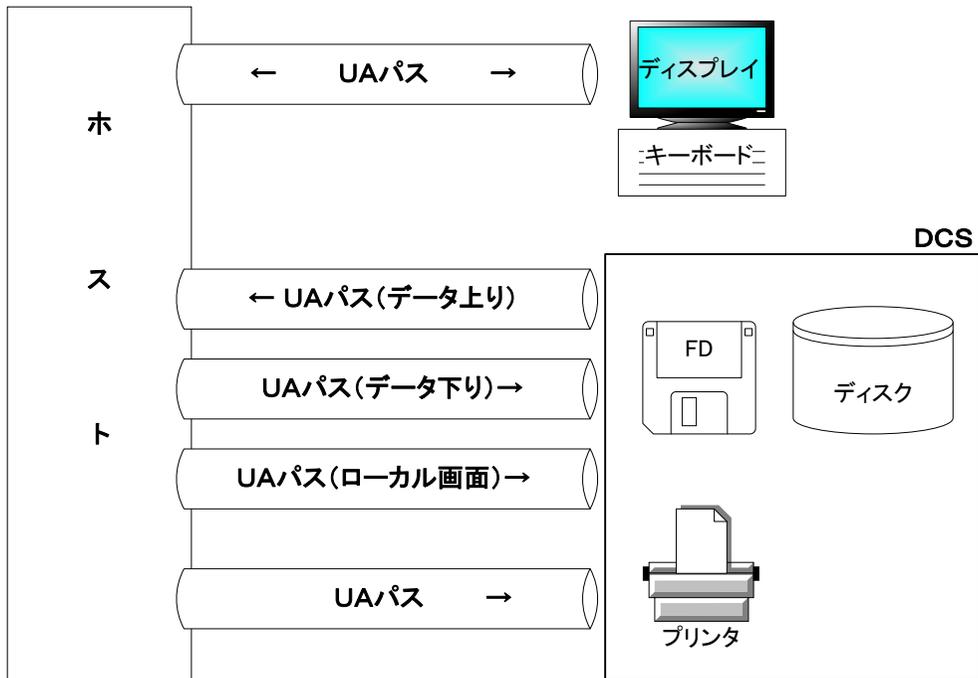


図1-1 UAパスを使ったデータルート

補足 DCS (Device Control Server)とは、ETOSJX と別プログラムで UA パスを使ってファイルの送受信、プリンタ出力とローカル画面の受信を行います。ETOSJX のバックグラウンドで動き、ETOSJX との並行動作が可能です。

(2) COMI-2 パス

ホストと端末が接続され、端末の各入出力装置が、端末により制御されるデータルートです。端末は、ホストから受信する COMI-2 コマンドに従い、データの受信を行います。このとき、端末は、入力送信ならば実際の入出力装置（ハードディスク、フロッピーディスク、キーボード）からデータを読み取り、それをホストから指示されたデータに編集して送信します。また、受信出力ならば、ホストから指示されたデータを出力装置に出力します。

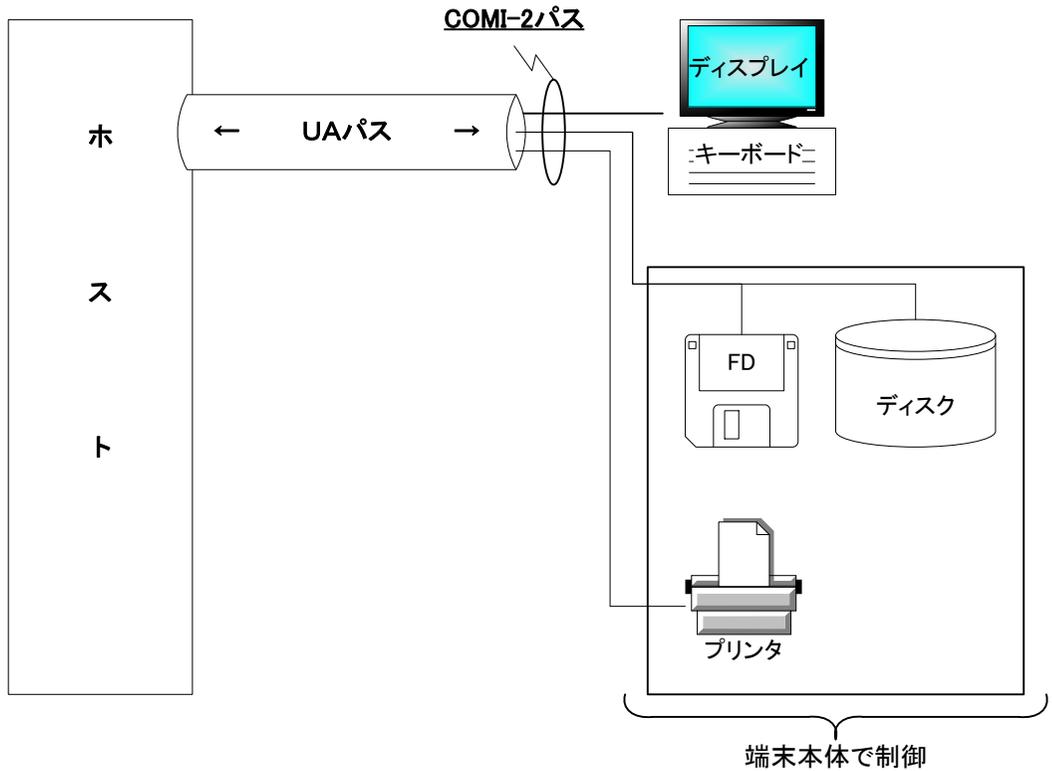


図1-2 COMI-2 パスを使ったデータルート

1.1.4 ETOSJX の動作モード

ETOSJX には3種類の動作モード

- FORM モード
- COMI-2 (FROM) モード
- COMI-2 (KB/PR) モード

があり、ホストからの指示によって変更されます。

なお、ETOSJX を起動したときの初期動作モードは、動作環境を設定する ETOSJX-PG によって決定されます。

各動作モードの詳細については、リファレンスマニュアルの「**ETOSJX の基本機能**」を参照してください。

1.2 利用形態

ETOSJX が動作するために必要なハードウェア構成とソフトウェア構成について説明します。

1.2.1 ハードウェア構成

ETOSJX が制御するハードウェア構成は、次の通りです。

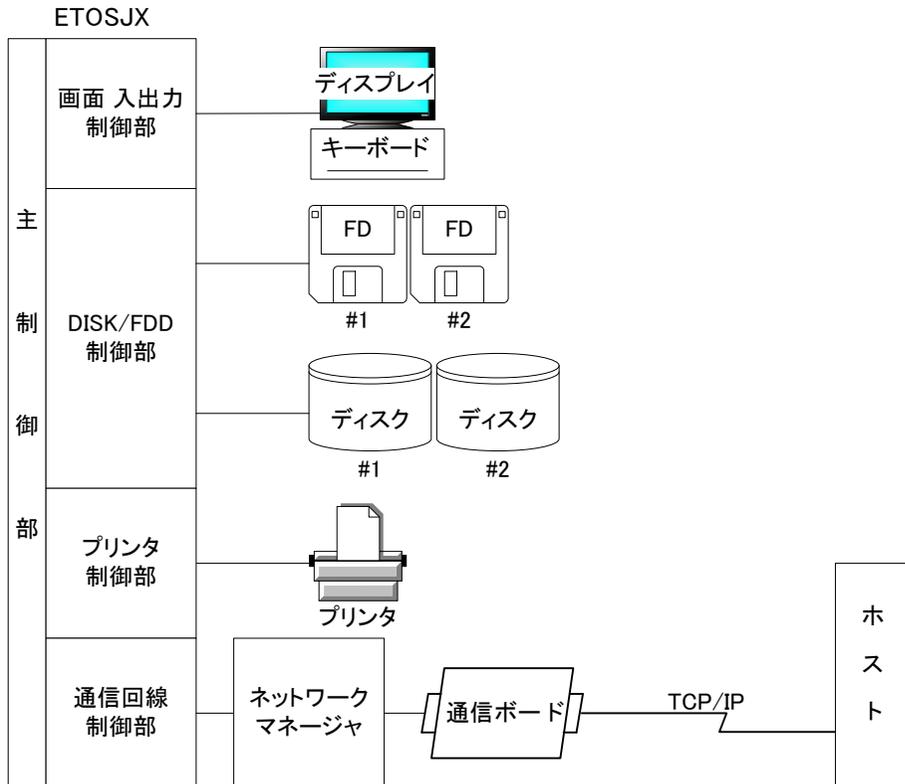


図 1-3 システム構成図

(1) 利用できるホストコンピュータ

ETOSJX では、次のホストコンピュータと接続することができます。

- ・ ACOS-2、ACOS-4、ACOS-6

(2) 利用できる通信手順

ETOSJX では、次の通信手順を利用することができます。

- ・ TCP/IP

1.2.2 ソフトウェア構成

ETOSJX は、次のプログラムで構成されています。

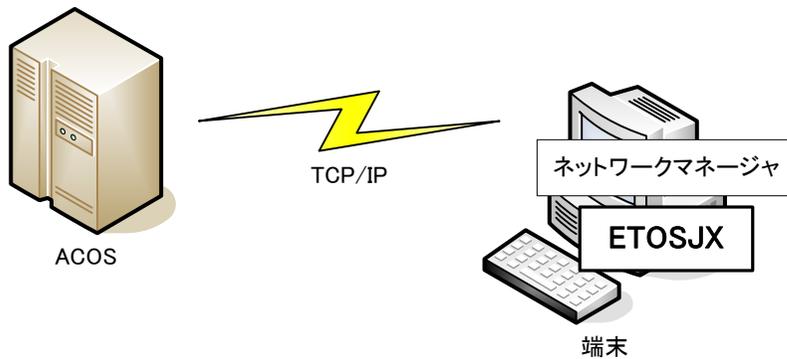
- (a) ETOSJX システムプログラム
ホストシステムと通信回線を介した種々のジョブを実行する ETOSJX システム本体プログラムです。
- (b) ETOSJX プリンタ制御プログラム (DCS プリンタ)
ホストシステムと通信回線を介したプリンタ出力 (UA パス) の設定および実行を行います。
- (c) ETOSJX パラメータジェネレーションプログラム (ETOSJX-PG)
ETOSJX システムを端末上で実際に使用する場合、端末の使用形態 (例えば、ホストコンピュータの種別など) を ETOSJX システムプログラムへ通知するための情報 (画面領域の確保、PF キーの動作指定など) の作成を行います。
なお、ETOSJX システムプログラムは、この ETOSJX-PG によって作成された情報に従って動作するので、この情報を格納したファイルを作成しなければ、ETOSJX システムを動作させることはできません。
- (d) ETOSJX ユーティリティプログラム
 - ・オフラインビュー
 - ・PG コンバータ
 - ・マクロコンバータ
- (e) ETOSJX インストールプログラム
ETOSJX システムを端末上に登録または削除するプログラムです。

1.2.3 システム形態

ETOSJX は、次のシステム形態で動作させることができます。

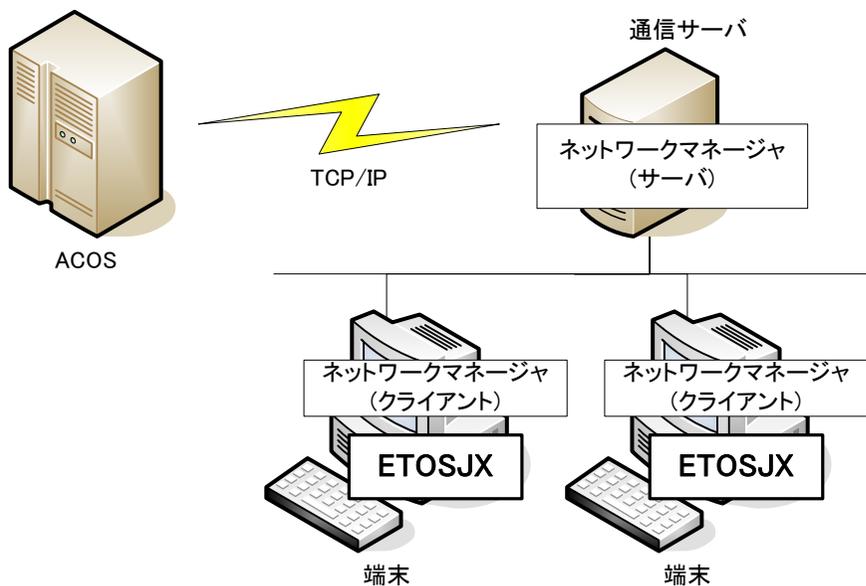
(1) スタンドアロン接続

スタンドアロンで動作する端末とホストを回線で接続する形態です。



(2) PC 通信サーバ接続(サーバ・クライアント形態)

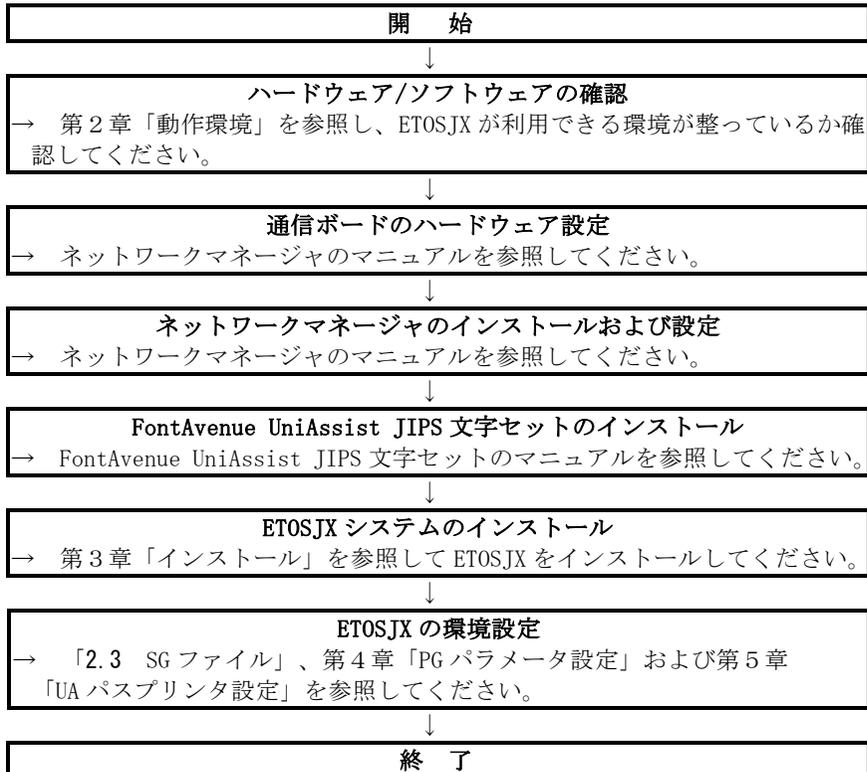
ネットワークマネージャの PC 通信サーバ接続形態において、通信クライアントとして動作する端末とホストとを接続する形態です。



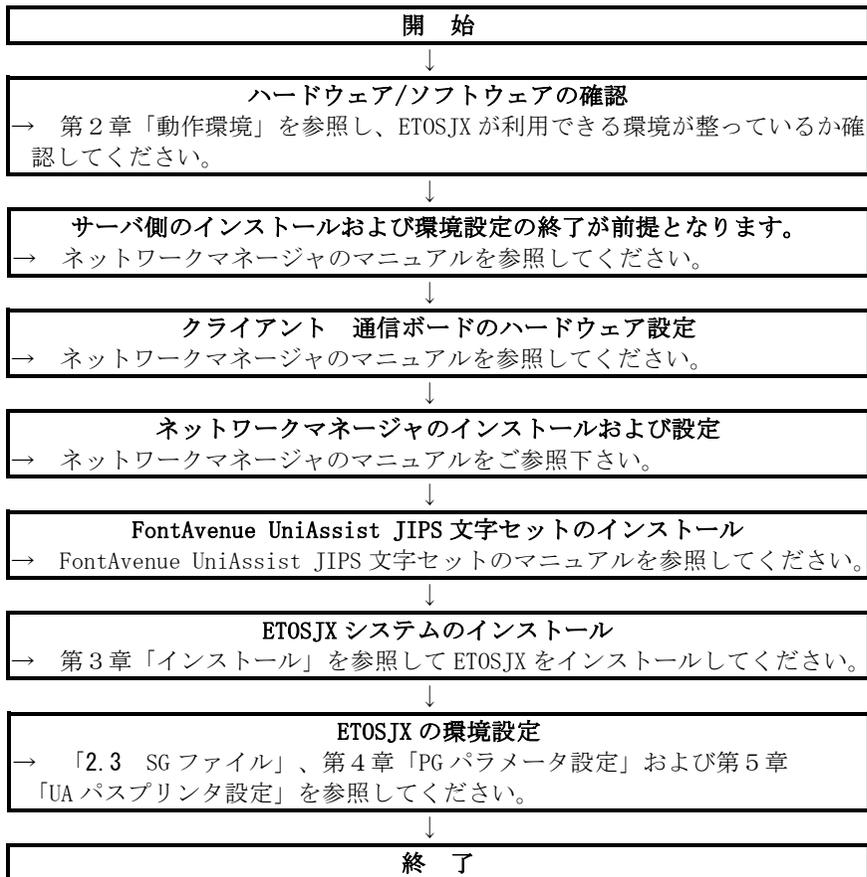
1.3 インストールから ETOSJX を使用するまで

ETOSJX の接続形態によってインストールの方法が異なります。
次に示す各接続形態のインストールの流れにしたがって、インストールを行ってください。

・ スタンドアロン接続形態の場合



・ PC 通信サーバ接続形態の場合



第 2 章

動作環境

- 2.1 ハードウェア環境
- 2.2 ソフトウェア環境
- 2.3 SG ファイル

第2章 動作環境

この章では、ETOSJX を動作させるために必要なハードウェア環境とソフトウェア環境および ETOSJX の SG ファイルについて説明します。

2.1 ハードウェア環境

- (1) コンピュータ本体
Windows 10 または Windows Server 2016 が動作する NEC 製ビジネス PC または Express 5800/50, 100, 600 シリーズが必要です。
ただし、タブレット PC 上での動作は保証しておりません。
- (2) メモリ
12MB 以上が必要です。
- (3) ハードディスクドライブ
空き容量 15MB 以上が必要です。
- (4) CD-ROM ドライブ
インストール時に 1 ユニットが必要です。
ネットワーク上の共有フォルダからインストールすることも可能です。
- (5) ディスプレイ
カラー表示可能なもの（800×600 ピクセル以上を推奨）が必要です。
- (6) キーボード
109 キーボード（106 キーボード）、または 98 キーボードが必要です。
- (7) プリンタ
画面のハードコピーまたは、ホストからのデータを印字する場合に必要です。
PC-PR201 互換のプリンタ、PC-PT05 対応プリンタが使用できます。
- (8) マウス
操作性をよくするためにご使用ください。
ETOSJX のデータ連携機能を利用するときは、マウスの使用が必須となります。
- (9) ID カードリーダー
ホスト側のアプリケーションプログラムで、ID カードリーダーを使用する場合に必要です。
次に示す ID カードリーダーが使用可能です。
 - ・ PC-9801-95
 - ・ MCT-1800また、使用する前にデバイスマネージャの通信ポート (COM1) の設定を ID カードリーダー機器の設定に合わせてください。

注1) 使用する端末が PC98-NX シリーズの場合、「変換コネクタ」が必要です。

注2) Express5800 上で ID カードリーダーは使用できません。

(10) 通信機器

ネットワークマネージャでサポートされている通信機器が使用可能です。
詳細については、ネットワークマネージャのユーザーズマニュアルをご覧ください。

(12) サウンド機能

WAVE ファイルでブザーを鳴らす場合（ブザー永久鳴動を含む）は、サウンド機能が必要となります。
なお、スピーカを内蔵していない機種の場合、外付けスピーカが必要です。

2.2 ソフトウェア環境

(1) OS

Windows 10 または Windows Server 2016 のいずれかが必要です。
ただし、Windows Server 2016 Minimal Server Interface、Server Core 上での動作は保証しておりません。

また、Windows 10 タブレットモードでの動作、仮想環境、ターミナルサービスクライアント環境およびリモートデスクトップ上での動作も保証しておりません。
お客様責任でご利用いただくことは可能ですが、障害等が発生しても、標準の利用環境（物理環境等）で同様の事象が発生しない場合は、問い合わせ対応等のサポートは行いませんので、あらかじめご了承ください。

なお、標準の利用環境における事象の再現確認については、お客様（または弊社担当 SE）で実施していただく必要がありますので、ご注意ください。

(2) フォント

FontAvenue UniAssist JIPS 文字セット V3.3 が必要です。
使用する文字セットは、ホスト環境に合わせて選択してください。

(3) 通信ソフト

スタンドアロン接続の場合、ネットワークマネージャ（スタンドアロン）または、ネットワークマネージャ（16 ユーザ）が必要です。

PC 通信サーバ接続の場合、ネットワークマネージャ（16 ユーザ）が必要です。

2.3 SG ファイル

ETOSJX をインストールして使用するには、ETOSJX の動作を設定する SG ファイルを作成する必要があります。

ETOSJX の SG ファイルには、ETOSJX の動作を定義する PG ファイルと DCS プリンタの動作を定義する PGD ファイルがあります。

PG ファイルは ETOSJX-PG、PGD ファイルは DCS プリンタで作成します。

また、使用するネットワークマネージャの通信リソース名(注 1)ごとに ETS ファイルと WS ファイルがあります。

ETS ファイルは、ETOSJX の情報を記録します。

WS ファイルは、ETOSJX 及び DCS プリンタなどが動作する WS 番号を記録します。

ETS ファイルと WS ファイルは、ETOSJX で利用するネットワークマネージャの通信リソースごとに作成します。

同一通信リソース名で複数の PG ファイルを作成(同一ホストに対して複数の PG ファイルを設定)する場合には注意が必要です。

ETOSJX で使用する SG ファイルをまとめると以下の通りとなります。

	ファイル名	ファイルの概要	作成ツール
PG ファイル	*.PG (注 2)	ETOSJX の動作を定義するファイル	ETOSJX-PG
PGD ファイル	(通信リソース名).PGD (注 3)	DCS プリンタの動作を定義するファイル	DCS プリンタ
ETS ファイル	(通信リソース名).ETS (注 3)	ETOSJX が通信リソース単位に使用する情報を定義するファイル(注 3) ローカル画面のファイル名やコード変換テーブルのファイル名等を記録しています。(注 4)(注 5)	ETOSJX-PG
WS ファイル	(通信リソース名).WS (注 3)	ETOSJX 及び DCS プリンタが使用する WS 番号の情報を定義するファイル(注 5)	ETOSJX-PG または DCS プリンタ

(注 1)通信リソース名の詳細については、ネットワークマネージャのマニュアルを参照してください。

(注 2)PG ファイルは ETOSJX-PG で保存時に任意のファイル名を作成できます(拡張子の変更できません)。

(注 3)ファイル名は、各作成ツールで定義したネットワークマネージャの通信リソース名となります。ファイル名の変更はできません。誤ってファイル名を変更した場合、ETOSJX の動作が不正になりますので注意してください。

(注 4)コード変換テーブルは「FontAvenue UniAssist JIPS 文字セット」で作成します。詳しくは FontAvenue のマニュアルを参照してください。

(注 5)ネットワークマネージャの通信リソース名毎に作成されるため、複数の PG ファイルで同一の通信リソース名を使用する場合、ETS ファイル及び WS ファイルは共有されます。

次に SG ファイルの格納ディレクトリについて説明します。

ETOSJX や DCS プリンタは、起動時に PG ファイルや PGD ファイルを指定し、これらの SG ファイルを読み込んで動作を開始します。

この時、PG ファイルや PGD ファイルに定義されている通信リソース名から動作に必要な ETS ファイルと WS ファイルを読み込みますが、ETS ファイル、WS ファイルは、PG ファイルや PGD ファイルと同一ディレクトリに存在する必要があります。

なお、ETOSJX-PG や DCS プリンタで SG ファイルを作成している限り、PG ファイルや PGD ファイルと ETS ファイル、WS ファイルは同一ディレクトリに保存されます。

複数のユーザで ETOSJX を共有するなど、複数の PG ファイルや PGD ファイルを利用者ごとに異なるディレクトリに作成して利用する場合、ETS ファイル、WS ファイルの扱いに注意する必要があります。

異なるディレクトリに格納されている PG ファイルを使用して ETOSJX を複数起動した場合、ETS ファイルや WS ファイルに矛盾があると ETOSJX は正常に動作しません。

第 3 章

インストール

- 3.1 ETOSJX のインストール方法
- 3.2 ETOSJX の登録
- 3.3 インストール機能の追加と削除
- 3.4 ETOSJX の削除

第3章 インストール

この章では、ETOSJX のインストール方法について説明します。

3.1 ETOSJX のインストール方法

ETOSJX は、通常の CD-ROM からのインストール以外に、ネットワークインストールや Active Directory のグループポリシーによるソフトウェア配信を利用すると、ETOSJX のインストールを効率良く行うことができます。

次ページ以降に、ETOSJX の基本的なインストール手順を3通り説明しますので、システム環境に合わせてインストール方法を選択してください。

各インストール方法の特徴は以下の通りです。

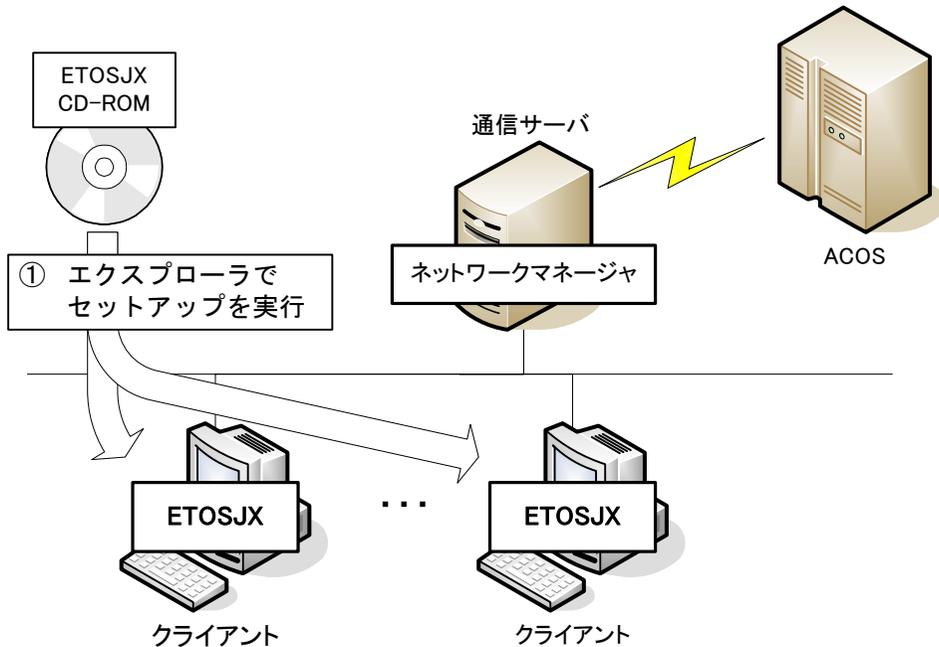
インストール方法	利点	条件
CD-ROM のインストーラを使用する	・全てのシステム構成で可能	なし
ネットワーク上のインストーラを使用する	・クライアントでのインストール作業を軽減	なし
Active Directory のグループポリシーを利用する	・クライアントでのインストール作業が不要 ・クライアントのインストール／アンインストールをドメインサーバで管理	Active Directory ドメイン環境が必要

なお、ETOSJX のインストールに関して、以下の内容に注意してください。

- ①ETOSJX および ETOSJX 関連モジュールの動作中にはインストールができません。
 - ②ETOSJX のインストール終了後、OS を再起動してください。
 - ③インストールは Windows 10 、または Windows Server 2016 をインストール済みの端末に対して行ってください。
 - ④旧製品 (ETOSJX for UNICODE Ver4.0 以前) がインストールされている場合は、本製品をインストールできません。旧製品をアンインストールしてから本製品をインストールしてください。
- ETOSJX のモジュールが何らかの原因で不正になった場合は、ETOSJX の再インストールが必要となります。**

3.1.1 CD-ROM のインストーラを使用する

製品の CD-ROM を使用して各クライアントにインストールを行う方法です。



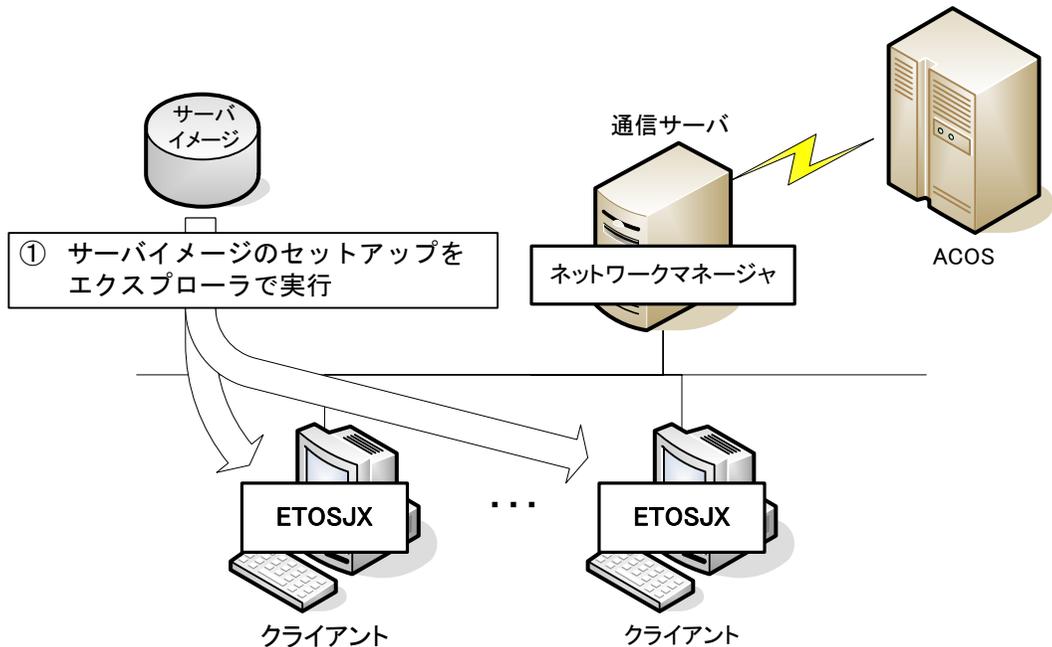
以下の手順に従ってインストールしてください。

CD-ROM を使用して、クライアントに ETOSJX をインストールする。
「3.2.2 ETOSJX のインストール」参照

3.1.2 ネットワーク上のインストーラを使用する

このインストール方法では、Express サーバに共有フォルダを作成し、ETOSJX のインストールイメージをコピーします。クライアントは、共有フォルダに保存したインストーラを使用して ETOSJX をインストールします。

ETOSJX のインストールイメージを Express サーバの共有フォルダにコピーするには、管理者インストールを使用します。



以下の手順に従ってインストールしてください。

ソフトウェア配信サーバに ETOSJX を管理者インストールし、サーバイメージを作成する。

「3.2.1 管理者インストール」参照

サーバイメージを使用し、クライアントに ETOSJX をインストールする。

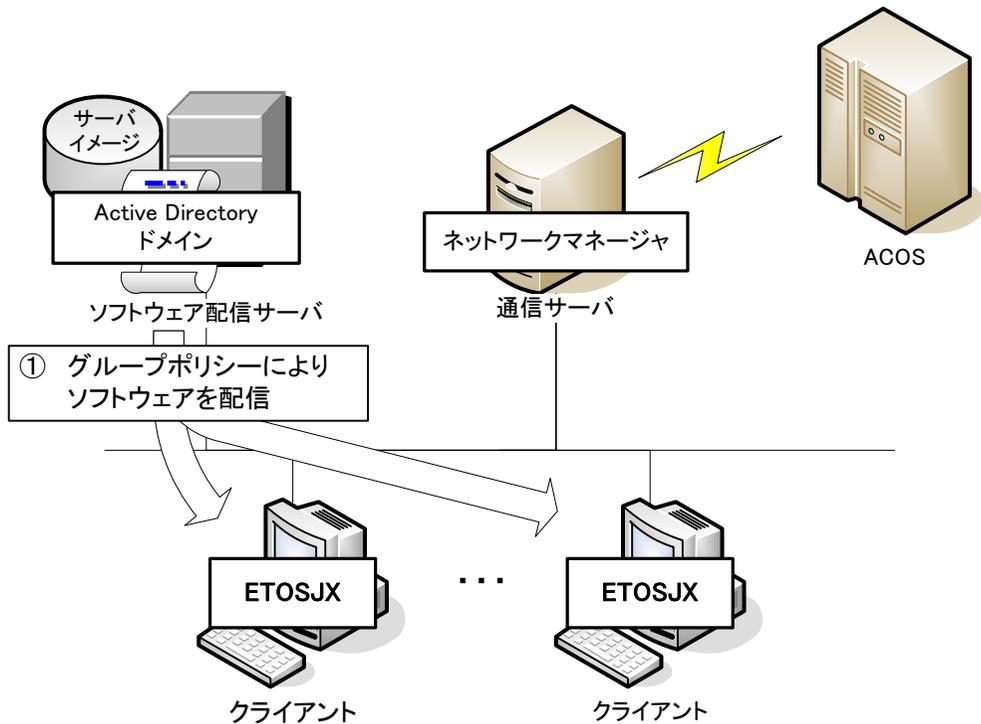
「3.2.2 ETOSJX のインストール」参照

3.1.3 Active Directory のグループポリシーを利用する

Windows Server 2016 の Active Directory ドメインが構築されている場合、このインストール方法が利用できます。

Active Directory のグループポリシーに ETOSJX のインストーラを登録すると、クライアントの起動時に ETOSJX がインストールされるため、クライアントでのインストール操作は必要ありません。

グループポリシーを使用して ETOSJX をインストールするには、ソフトウェア配信サーバのハードディスクに、ETOSJX のインストールイメージをコピーするための手段である管理者インストールが必須です(管理者インストールによりコピーされた ETOSJX のインストールイメージをサーバイメージと呼びます)。



以下の手順に従ってインストールしてください。

ソフトウェア配信サーバに ETOSJX を管理者インストールし、サーバイメージを作成する。
「3.2.1 管理者インストール」 参照

ソフトウェア配信サーバのグループポリシーに ETOSJX を登録する。
「3.2.3 グループポリシーの設定」 参照

クライアントのコンピュータを再起動すると、ETOSJX がインストールされます。

3.2 ETOSJX の登録

3.2.1 管理者インストール

管理者インストールとは、ETOSJX のインストールパッケージを Express サーバのハードディスクにコピーする機能です（管理者インストールでは、ETOSJX のセットアップは行われません。そのため、管理者インストールだけでは、ETOSJX は使用できません）。

管理者インストールは、Windows Server 2016 のみ実行可能で、かつ Windows Installer が必要です。

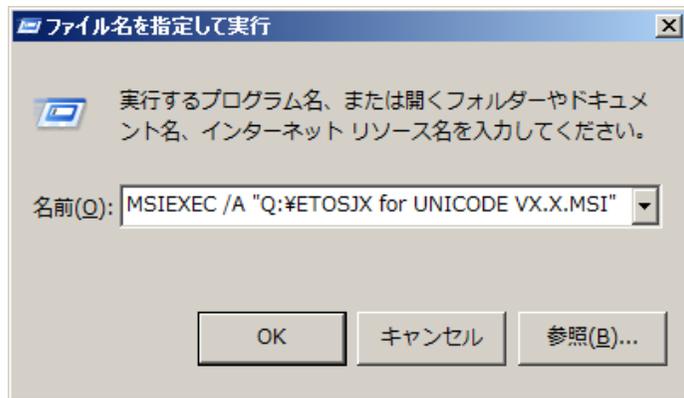
なお、Active Directory のグループポリシーを使用したソフトウェアインストールを利用する場合、管理者インストールは必須となります。

- (1) 『ETOSJX for UNICODE V5.0 CD-ROM』を、Express サーバに挿入します。
- (2) Windows の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、ETOSJX の管理者インストールを実行します。

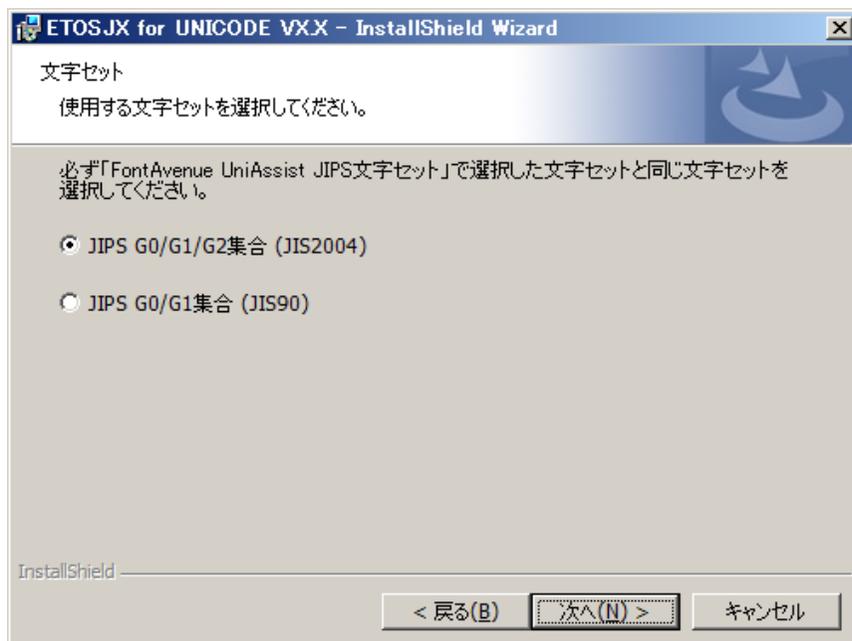
管理者インストールは以下のコマンドで実行します。

```
MSIEXEC /A "Q:%ETOSJX for UNICODE V5.0.MSI"
```

(Qドライブは、『ETOSJX for UNICODE V5.0 CD-ROM』が挿入されたドライブ名です。
ご使用の環境に合わせて変更してください。)



- (3) 使用する文字セットの選択を行います。
使用する文字セットを選択します。必ず、ホスト環境および「FontAvenue UniAssist JIPS 文字セット」の設定と同じ文字セットを選択してください。



- (4) インストール先フォルダを指定します。
サーバイメージを作成するフォルダを指定してください。
サーバイメージは、クライアントに ETOSJX をインストールする時に使用するため、ネットワークから参照可能な共有フォルダとする必要があります。

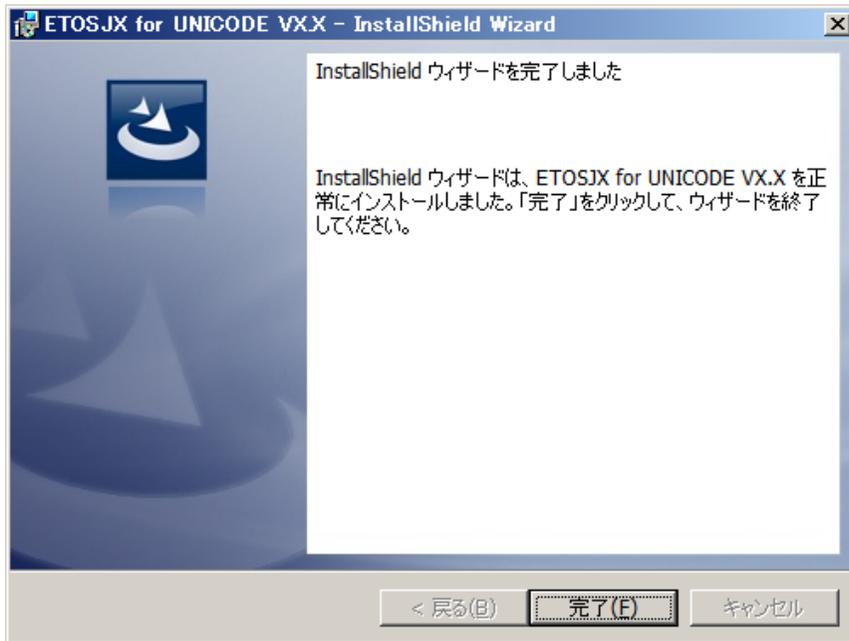


サーバイメージとは...

管理者インストールにより、サーバマシン上に作成されるインストールパッケージのことです。作成されたサーバイメージを使用して、ETOSJX をインストールすることができます。

- (5) [インストール] ボタンを選択すると、インストールが始まります。

- (6) セットアップの完了画面が表示されます。
[完了] ボタンを押してください。



- (7) サーバイメージのフォルダを共有フォルダに設定します。
サーバイメージは、クライアントに ETOSJX をインストールする時に使用するため、共有フォルダとする必要があります。フォルダのプロパティを表示し、共有フォルダに設定してください。

3.2.2 ETOSJX のインストール

(1) インストーラを起動します。

インストーラは、CD-ROM、または管理者インストールで作成したサーバイメージから起動できます。

- ・ CD-ROM から起動する場合

『ETOSJX for UNICODE V5.0 CD-ROM』を CD-ROM ドライブに挿入し、エクスプローラから SETUP.EXE を実行してください。

- ・ サーバイメージから起動する場合

共有されたサーバイメージの SETUP.EXE を実行してください。

セットアップの初期画面が表示されたら、[次へ] ボタンを押してください。

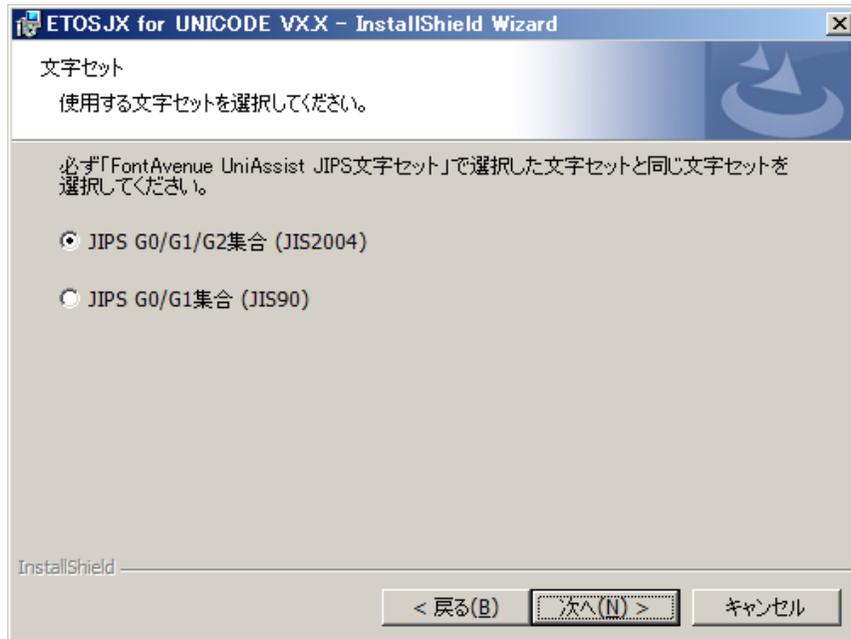


(注意)

インストールを行う場合、権限の昇格を要求されますので、管理者権限を持ったユーザ名、パスワードを入力し、権限の昇格を行ってください。

(2) 使用する文字セットの選択を行います。

使用する文字セットを選択します。必ず、ホスト環境および「FontAvenue UniAssist JIPS 文字セット」の設定と同じ文字セットを選択してください。



(3) セットアップタイプを選択します。

ETOSJX の全機能をインストールする場合、「完全」を選択します。

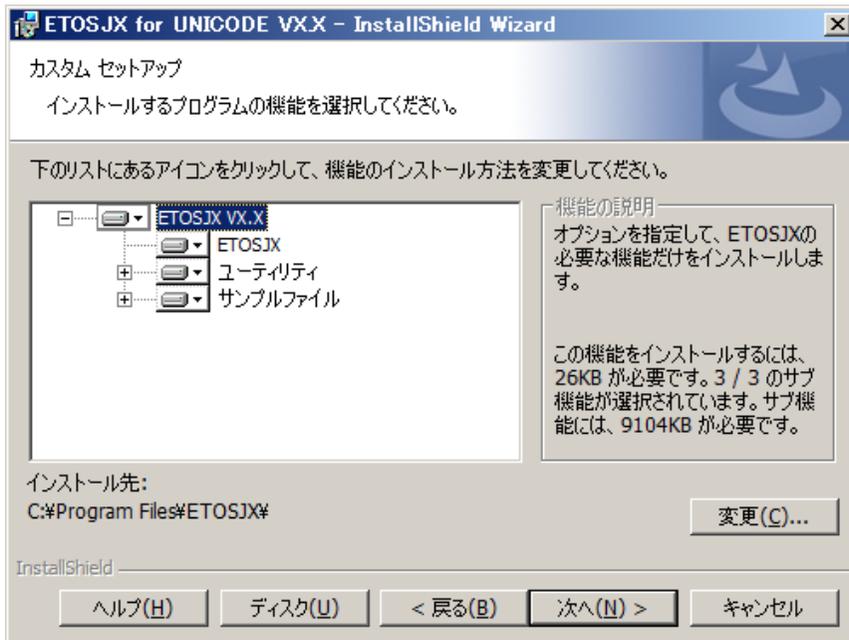
インストールする機能、およびインストール先フォルダを選択する場合、「カスタム」を選択します。

「完全」を選択し、「次へ」ボタンを選ぶと、インストール準備完了画面が表示されます。

「カスタム」を選択し、「次へ」ボタンを選ぶと、カスタムセットアップ画面が表示されます。



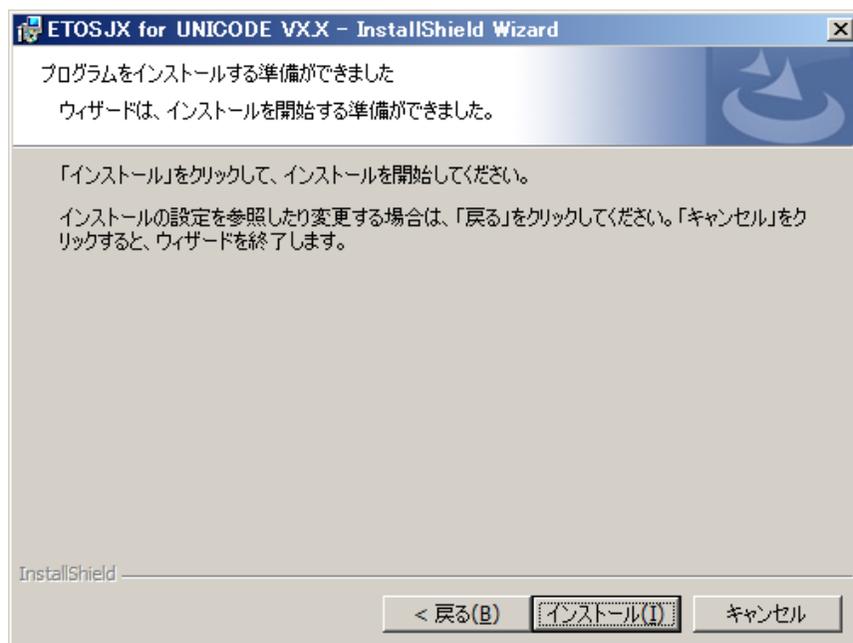
- (4) セットアップタイプに「カスタム」を選択した場合、インストールする機能、およびインストール先フォルダを指定します。
インストール先フォルダを変更する場合、[変更] ボタンを選択し、インストールするフォルダを選択してください。
インストールする機能を選択する場合、機能毎にインストールオプションを選択してください。
設定完了後、[次へ] ボタンを押してください。



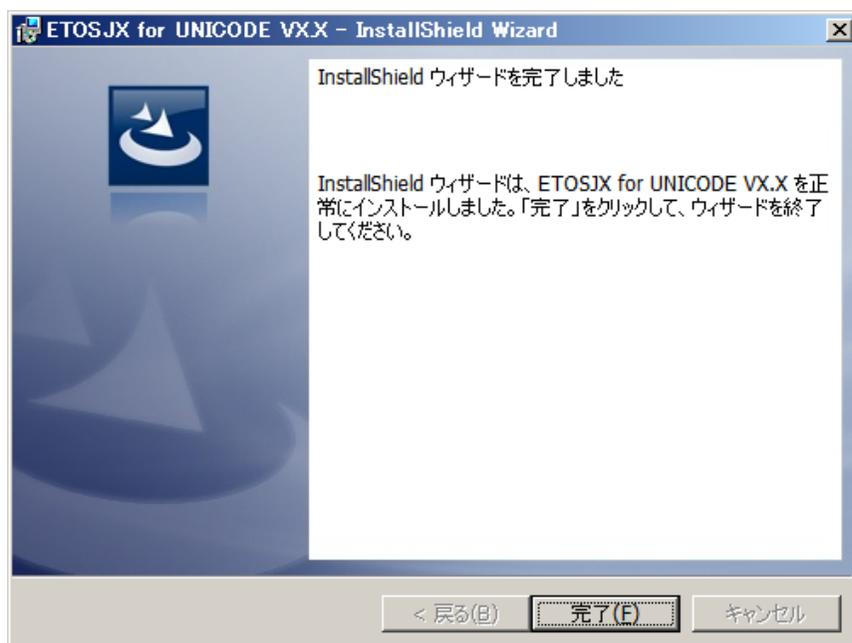
(注意)

- ・インストール先には SJIS 範囲外の文字を使用しないようにしてください。
SJIS 範囲外の文字を使用した場合、正しく動作しない場合があります。

(5) [インストール] ボタンを選択すると、インストールが始まります。



- (6) セットアップの完了画面が表示されます。
[完了] ボタンを押してセットアップを終了します。



(注意)

N5200 系コード印刷の障害通知機能を使用する場合、ETOSJX 専用プリンタ登録が必要です。
詳細は、「8.2 ETOSJX 専用プリンタ登録」を参照してください。

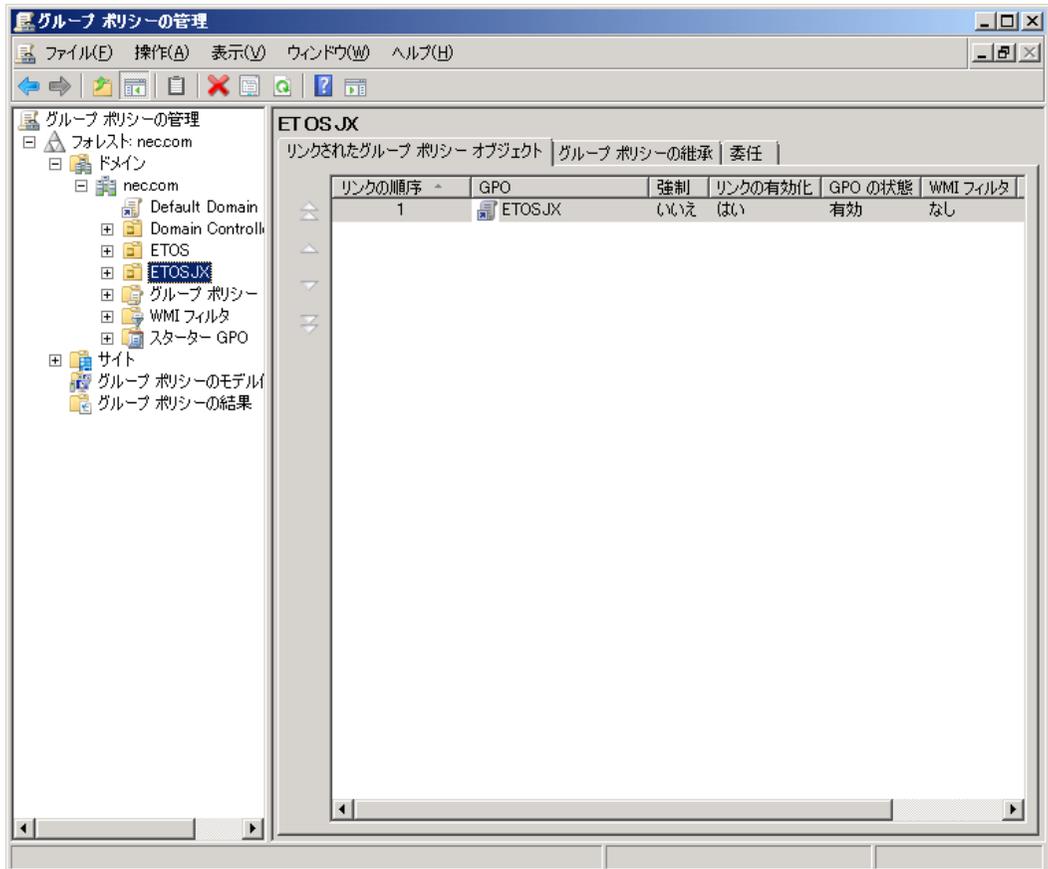
3.2.3 グループポリシーの設定

Windows Server 2016 で Active Directory を導入すると、ETOSJX のインストール／アンインストールをドメインサーバ上のグループポリシーにより制御できます。

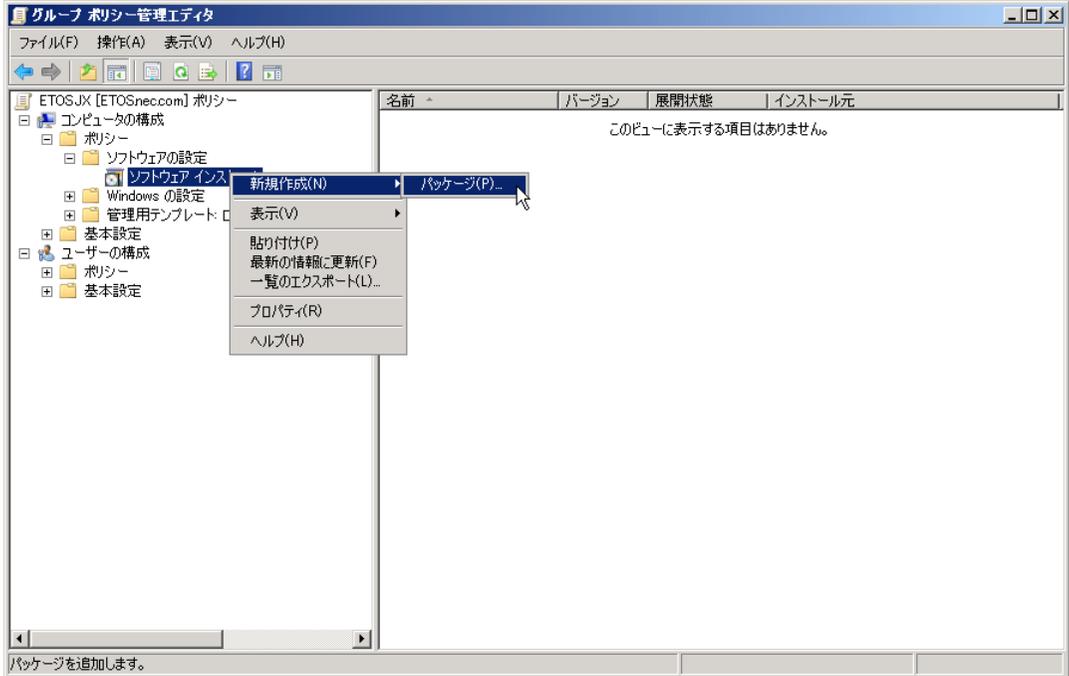
グループポリシーを使用すると、クライアントでのインストール操作を行う必要はなく、コンピュータを起動すると ETOSJX がインストールされます。

なお、Active Directory およびグループポリシーの機能、操作方法は Windows のマニュアル等を参照してください。

- (1) 管理者インストールを行い、サーバイメージを作成します。
詳細は、「**3.2.1 管理者インストール**」を参照してください。
- (2) ETOSJX をソフトウェア配信するコンピュータが所属する OU(Organization Unit:組織単位)にグループポリシーを設定します。
OU のプロパティを表示しグループポリシーを登録してください。



- (3) [編集] ボタンを押してグループポリシーエディタを起動します。
- (4) 「コンピュータの構成」－「ソフトウェアの設定」－「ソフトウェアインストール」を右クリックして「新規作成」－「パッケージ」を選択します。

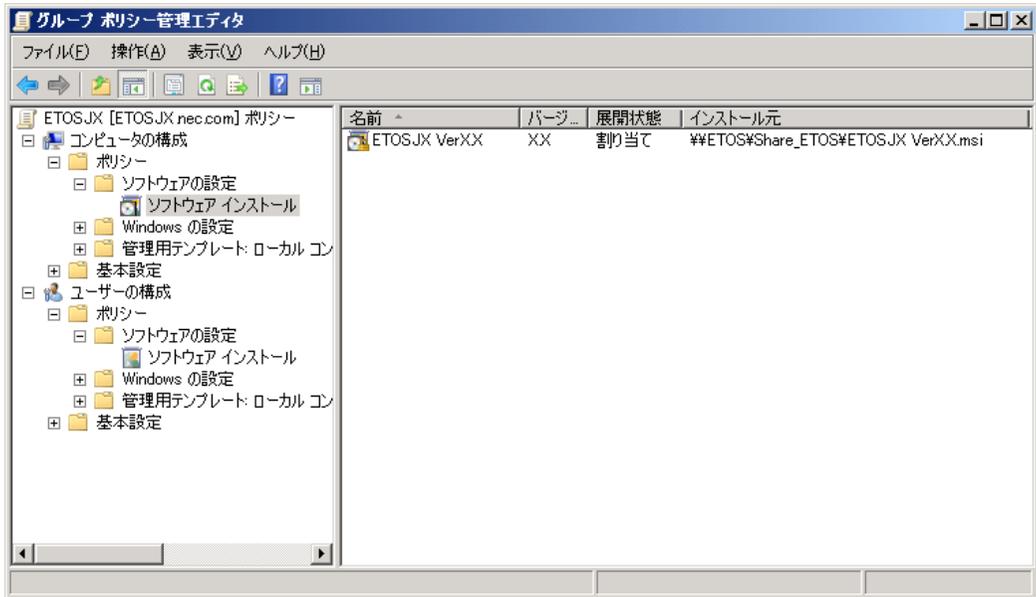


(注意)

「ユーザの構成」の「ソフトウェアインストール」に ETOSJX を登録しても利用することはできません。必ず「コンピュータの構成」に登録してください。

- (5) サーバイメージの ETOSJX for UNICODE V5.0.MSI を指定します。
この時、必ずネットワーク共有された ETOSJX for UNICODE V5.0.MSI を指定してください。

- (6) グループポリシーの設定終了です。
クライアントマシンを再起動すると ETOSJX がインストールされます。



3.3 インストール機能の追加と削除

ETOSJX をインストールした後に、ETOSJX の機能を追加／削除ができます。

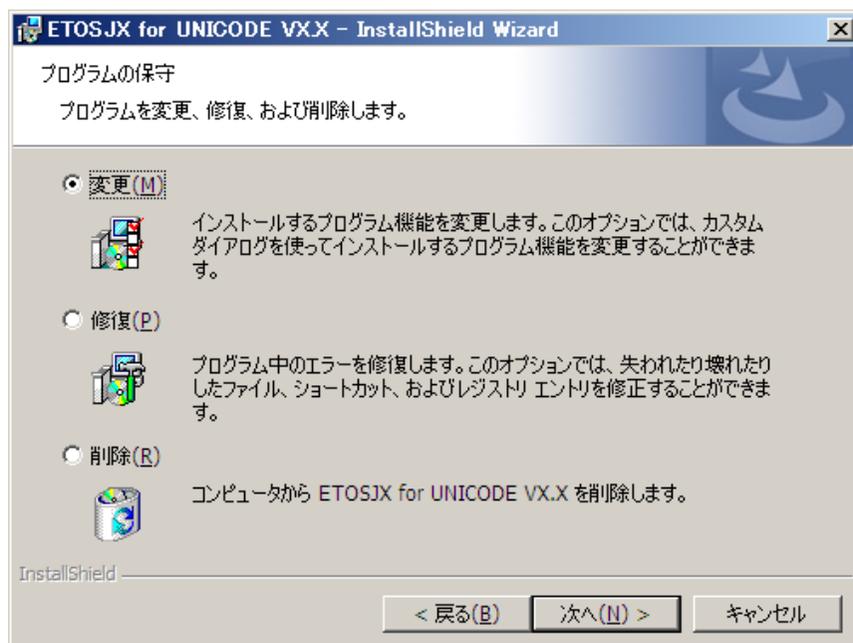
(1) インストーラを起動する。

「ETOSJX for UNICODE V5.0 CD-ROM」、またはネットワーク上の共有フォルダから SETUP.EXE を実行してください。

[次へ] ボタンを押してください。



(2) 「変更」を選択し、「次へ」ボタンを押してください。



- (3) 追加／削除する機能を選択します。
変更する機能を選択し、インストールオプションを指定してください。
インストールオプションについては、「3.2 ETOSJX の登録」を参照してください。
指定終了後、[次へ] ボタンを押してください。
- (4) [インストール] ボタンを押すと、インストールを開始します。



3.4 ETOSJX の削除

ETOSJX のアンインストールを行います。

なお、グループポリシーで配信された ETOSJX は、「3.4.3 グループポリシーを使用する」を参照し、ソフトウェア配信サーバのグループポリシーを使用して削除してください。クライアント上で、CD-ROM 等を使用して削除しても、コンピュータの再起動時に、再度インストールされます。

3.4.1 CD-ROM 媒体を使用する

- (1) CD-ROM ドライブに ETOSJX の媒体をセットしてエクスプローラから SETUP.EXE を起動してください。また、ネットワークインストールした場合は、ネットワーク上の共有フォルダから SETUP.EXE を起動してください。

以下の画面が表示されたら [次へ] ボタンを押してください。

ETOSJX を削除する前に ETOSJX 関連モジュールが動作していないことを確認してください。

ETOSJX 関連モジュールが動作していると ETOSJX の削除ができません。

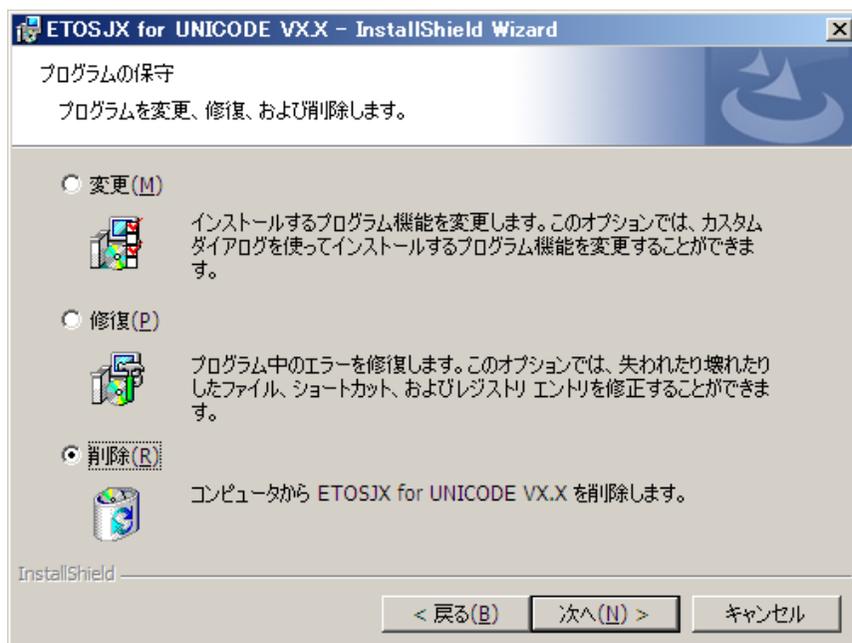
また、ETOSJX 関連モジュールが動作しているとインストーラの動作が遅くなる場合があります。



(注意)

ETOSJX の削除を行う場合、権限の昇格を要求されますので、管理者権限を持ったユーザ名、パスワードを入力し、権限の昇格を行ってください。

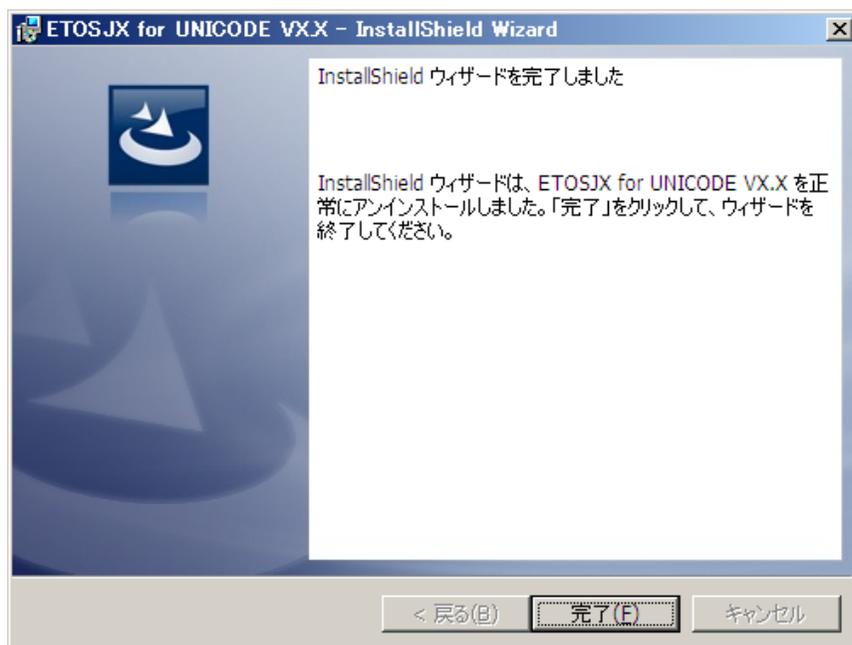
(2) [削除] を選択して、[次へ] ボタンを押してください。



(3) [削除] ボタンを押すと、アンインストールが開始します。



- (4) アンインストールの完了画面が表示されます。
[完了] ボタンを押してください。



3.4.2 コントロールパネルを使用する

- (1) Windows の [スタート] メニューから [コントロールパネル] を選択してください。
ETOSJX を削除する前に ETOSJX 関連モジュールが動作していないことを確認してください。
ETOSJX 関連モジュールが動作しているとインストーラの動作が遅くなります。
- (2) [コントロールパネル] の [プログラムと機能] を選択します。
- (3) 「ETOSJX for UNICODE V5.0」を選択し、[アンインストール] を選択します。



- (4) [プログラムと機能] から「ETOSJX for UNICODE V5.0」が削除されます。

(注意)

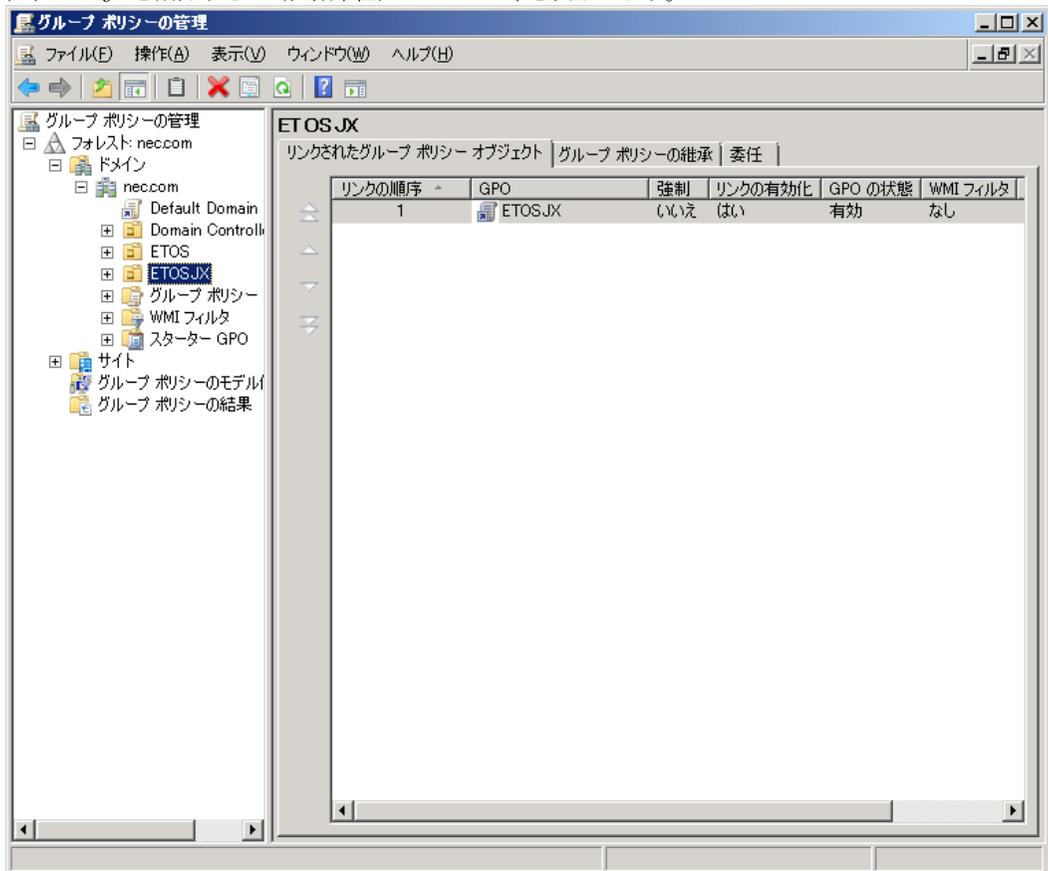
権限の昇格を要求されるので、管理者権限を持ったユーザ ID、パスワードを入力し、権限の昇格を行ってください。

3.4.3 グループポリシーを使用する

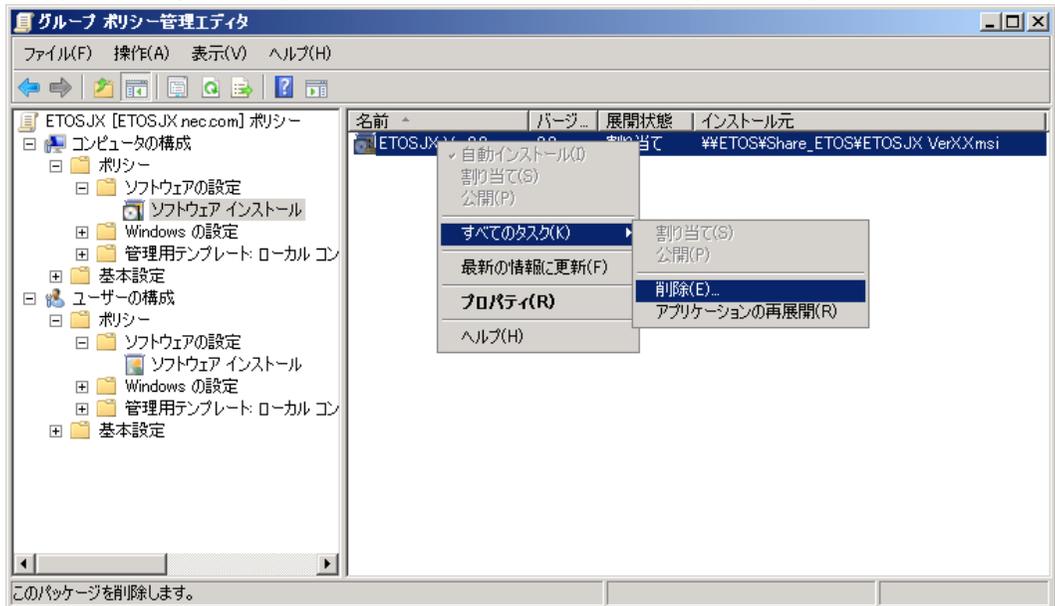
Active Directory のグループポリシーによりインストールされた ETOSJX は、グループポリシーで削除してください。

グループポリシーから ETOSJX を削除しても、クライアントにインストールされた ETOSJX は、すぐに削除されません。グループポリシーから ETOSJX を削除した後、クライアントを再起動すると、ETOSJX は削除されます。

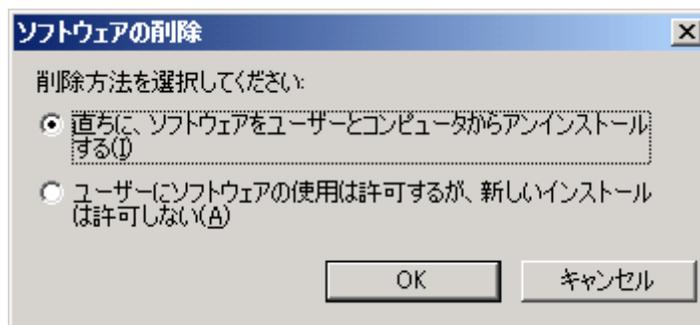
(1) ETOSJX を削除する OU(組織単位)のプロパティを表示します。



- (2) グループポリシーから ETOSJX を削除します。
「コンピュータの構成」－「ソフトウェアの設定」－「ソフトウェアインストール」を選択すると、登録されているソフトウェアの一覧が表示されます。
一覧の「ETOSJX Ver5.0」を右クリックして、「すべてのタスク」－「削除」を選択してください。



- (3) 「直ちに、ソフトウェアをユーザとコンピュータからアンインストールする」を選択して [OK] ボタンを押します。



- (4) グループポリシーから ETOSJX の削除完了です。
クライアントのコンピュータを再起動すると、ETOSJX が削除されます。

3.4.4 サーバイメージ（管理者インストール）の削除

管理者インストールで作成したサーバイメージは、単なるインストールパッケージのコピーです。エクスプローラでフォルダごと削除してください。

サーバイメージは、通常、共有フォルダとして設定されています。フォルダを削除する前に、フォルダのプロパティを表示し、共有の解除を行ってください。

第 4 章

PG パラメータ設定

- 4.1 パラメータファイルとは
- 4.2 ETOSJX-PG とは
- 4.3 パラメータファイルの作成手順
- 4.4 ETOSJX-PG を起動する
- 4.5 基本パラメータを入力する
- 4.6 拡張パラメータを入力する
- 4.7 リソースパラメータを入力する
- 4.8 全パラメータに既定値をセットする
- 4.9 ヘルプを使う
- 4.10 作成したファイルを保存する
- 4.11 作成したファイルを開く
- 4.12 パラメータファイルを印刷する
- 4.13 ファイル作成を終了する

第4章 PGパラメータ設定

この章では、端末システムの使用形態を設定する ETOSJX-PG の操作方法について説明します。

4.1 パラメータファイルとは

パラメータファイルとは、ETOSJX が動作するために必要なシステム情報を格納しておくためのファイルです。パラメータファイルを作成するには、ETOSJX-PG を使用します。

4.2 ETOSJX-PG とは

ETOSJX-PG とは、パラメータファイルの作成、更新、印刷を行なうためのユーティリティプログラムです。

4.3 パラメータファイルの作成手順

パラメータファイルを、次の手順で作成します。

- ① ETOSJX-PG を起動する。
- ② 基本パラメータを入力する。
ETOSJX システムを動作させるために最低限必要なパラメータです。
- ③ 拡張パラメータを入力する。
拡張パラメータは、端末オペレータの操作性を向上させるために利用します。
- ④ リソースパラメータを入力する。
ローカル画面ファイル、UA パスファイル転送、コード変換テーブルファイル等、通信リソース(ホスト)ごとに一意な情報を設定します。
- ⑤ 作成したパラメータファイルを保存する。
- ⑥ ETOSJX-PG を終了する。

(注1) システムのプリンタ情報を変更(ETOSJX で使用するプリンタドライバの削除、プリンタ名やフォーム格納ディレクトリの変更など)した場合は、パラメータファイルの関連する項目の設定を行う必要があります。

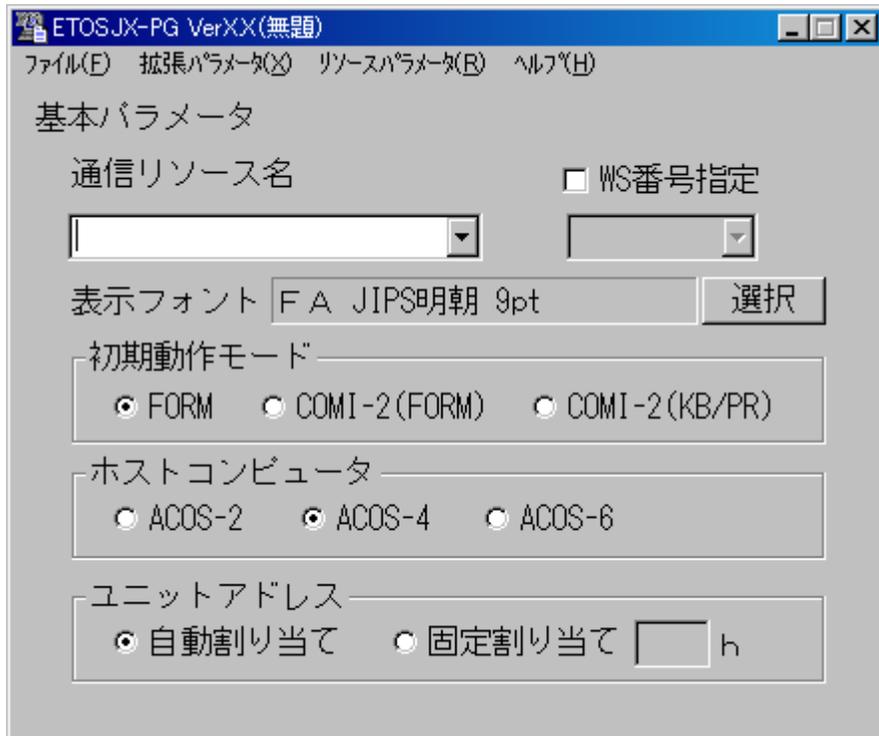
(注2) 他のマシンからパラメータファイルをコピーして使用する場合は、コピー元のマシンと異なる設定項目(プリンタ名やフォーム格納ディレクトリ)については再度設定を行う必要があります。

(注3) パラメータファイルは、OS 毎(Windows 10、Windows Server 2016)に作成してください。他 OS で作成したパラメータファイルは使用できません。
他 OS で作成したパラメータファイルを使用する場合は、PG コンバータでファイルコンバートしてご利用ください。

4.4 ETOSJX-PG を起動する

パラメータファイルを作成するために、ETOSJX-PG を起動します。

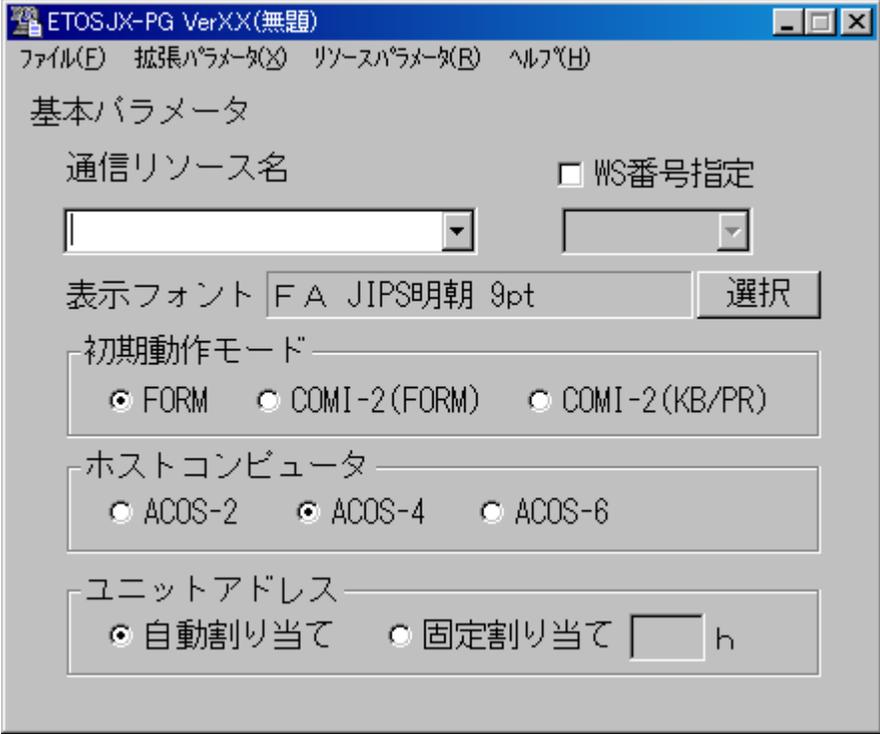
- ① Windows の [スタート] メニューから [ETOSJX] - [ETOSJX-PG] の項目を選択する。
- ② ETOSJX-PG のウィンドウがオープンする。
ETOSJX-PG の画面が表示されます(本画面を基本パラメータ入力画面と呼びます)。



4.5 基本パラメータを入力する

基本パラメータの設定を行います。

- ① 基本パラメータを入力する。
各パラメータの説明に従い、基本パラメータを入力してください。



The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "ETOSJX-PG VerXX(無題)". The menu bar includes "ファイル(F)", "拡張パラメータ(X)", "リソースパラメータ(R)", and "ヘルプ(H)". The main title is "基本パラメータ".

通信リソース名: A dropdown menu is shown. To its right is a checkbox labeled "WS番号指定".

表示フォント: A text field contains "F A JIPS明朝 9pt". To its right is a "選択" (Select) button.

初期動作モード: A group box containing three radio buttons: "FORM" (selected), "COMI-2 (FORM)", and "COMI-2 (KB/PR)".

ホストコンピュータ: A group box containing three radio buttons: "ACOS-2", "ACOS-4" (selected), and "ACOS-6".

ユニットアドレス: A group box containing two radio buttons: "自動割り当て" (selected) and "固定割り当て". To the right of the second radio button is a small text input field followed by the letter "h".

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
通信リソース名	なし	同一端末上でユニークに指定するホストの名前です。 必ずネットワークマネージャで定義した通信リソース名を指定してください。 最大 16 文字まで入力可能です。 なお、通信リソース名にスペースを含めることはできません。(注 1)	なし
WS 番号指定 (注 2)	<ul style="list-style-type: none"> • <input checked="" type="checkbox"/> YES • <input type="checkbox"/> NO 	ETOSJX が使用する WS 番号を指定します。 YES : WS 番号を 0-63 で指定します。 NO : WS 番号を指定しません。	NO
表示フォント	なし	画面表示に使用するフォント名とフォントサイズを指定します。設定を変更する場合は「選択」ボタンを押してフォント選択画面より行ってください。	F A JIPS 明朝 9pt
初期動作モード	<ul style="list-style-type: none"> • FORM • COMI-2 (FORM) • COMI-2 (KB/PR) 	ETOSJX 起動時の動作モードを指定します。	FORM
ホストコンピュータ	<ul style="list-style-type: none"> • ACOS-2 • ACOS-4 • ACOS-6 	ホストコンピュータを指定します。	ACOS-4
ユニットアドレス	<ul style="list-style-type: none"> • 自動割り当て • 固定割り当て 	ユニットアドレス(UA)の値を指定します。 自動割り当て： ETOSJX の UA 表(リファレンスマニュアルの付録を参照)に従った値で動作します。 (注 3) 固定割り当て： このテキストボックスで 指定した値で動作します。有効範囲は、00~FF です。	自動割り当て

(注 1) パラメータファイルを保存する際、ETOSJX-PG はパラメータファイルと同じディレクトリに基本パラメータ情報を格納するリソースファイルを作成します。リソースファイルは、通信リソース名に拡張子“ETS”を付けてファイル名とします。

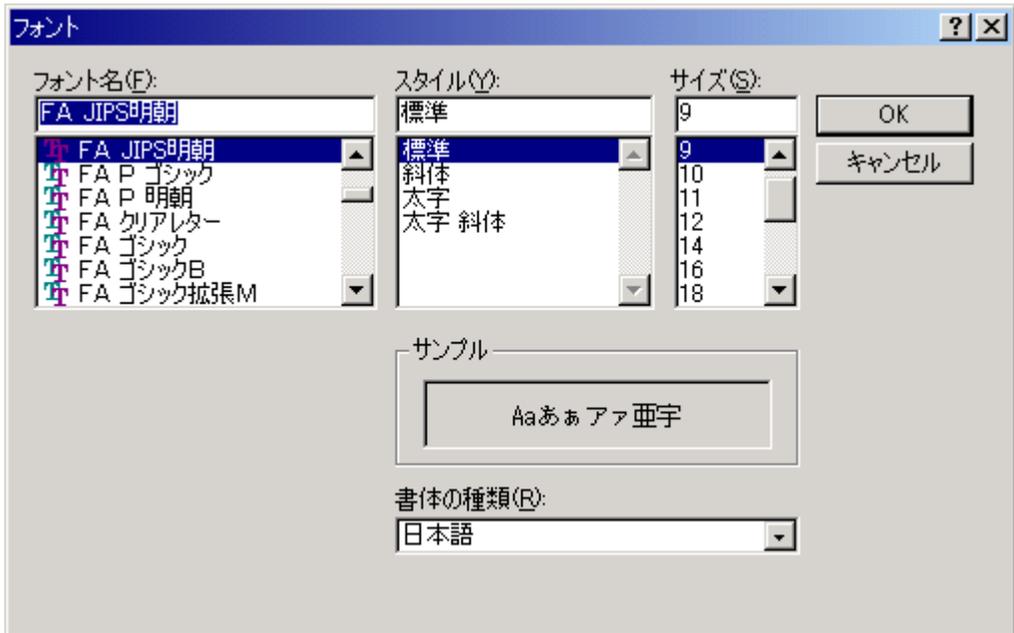
(例)

通信リソース名	リソースファイル名
RESOURCE-1	RESOURCE-1. ETS
RESOURCE-2	RESOURCE-2. ETS

(注 2) WS 番号指定は、ネットワークマネージャに対して、ETOSJX が使用する WS 番号を指定する機能です。1 台の PC 上で複数の WS 番号を指定し ETOSJX を使用することはできません。

WS 番号指定を利用するには、ネットワークマネージャの LU 定義で SG が必要です。
詳しくはネットワークマネージャのマニュアルを参照してください。

(注 3) マルチ LU 機能を使用して 3 個以上の ETOSJX を“自動割り当て”で使用する場合、ネットワークマネージャの定義(LU 情報定義)が必要となります。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
フォント名	Windows で組み込んだフォント名がパラメータとして表示されます。	画面表示に使用するフォント名を指定します。新しいフォントを選ぶと [サンプル] 欄にそのフォントが表示されます。 「FA JIPS 明朝」および「FA JIPS ゴシック」のいずれかを選択してください。 ※上記以外のフォントでの動作は保証いたしません	FA JIPS 明朝
スタイル	<ul style="list-style-type: none"> 標準 斜体 太字 太字 斜体 	フォントのスタイルを指定します。斜体、太字および太字 斜体は現在未サポートで、表示は保証していません。	標準
サイズ	フォントサイズのパラメータは、フォントによってそれぞれ異なります。	フォントのサイズを指定します。既定値は変わる場合があります。	9
書体の種類	フォントの言語が表示されます。	書体は、必ず“日本語”を選択します。既定値が変わる場合があります。	日本語

4.6 拡張パラメータを入力する

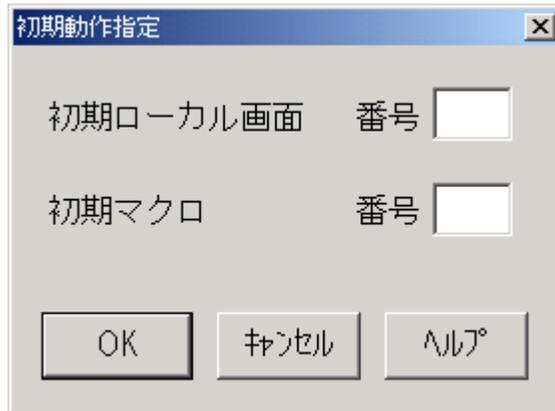
拡張パラメータの設定を行います。

拡張パラメータは、[拡張パラメータ] メニューのメニューコマンドを使って設定します。

4.6.1 初期動作を指定する

ETOSJX 起動時の初期動作を指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [初期動作指定] メニューコマンドを選ぶ。
[初期動作指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期ローカル画面	なし	ETOSJX 起動時に、ローカル画面を表示する場合、表示するローカル画面番号を数字3桁で指定します。ローカル画面番号の有効範囲は、拡張ローカル画面を使用する場合は 000～999、拡張ローカル画面を使用しない場合は 000～255 です。	なし
初期マクロ	なし	ETOSJX 起動時に、マクロを実行する場合に、実行するマクロ番号を指定します。マクロ番号の有効範囲は、01～25 です。	なし

(注1) 各項目とも、何も指定しない場合には実行されません。

(注2) 複数の項目を指定した場合、ETOSJX 起動時に実行される順番は以下の通りです。

初期ローカル画面 → 初期マクロ

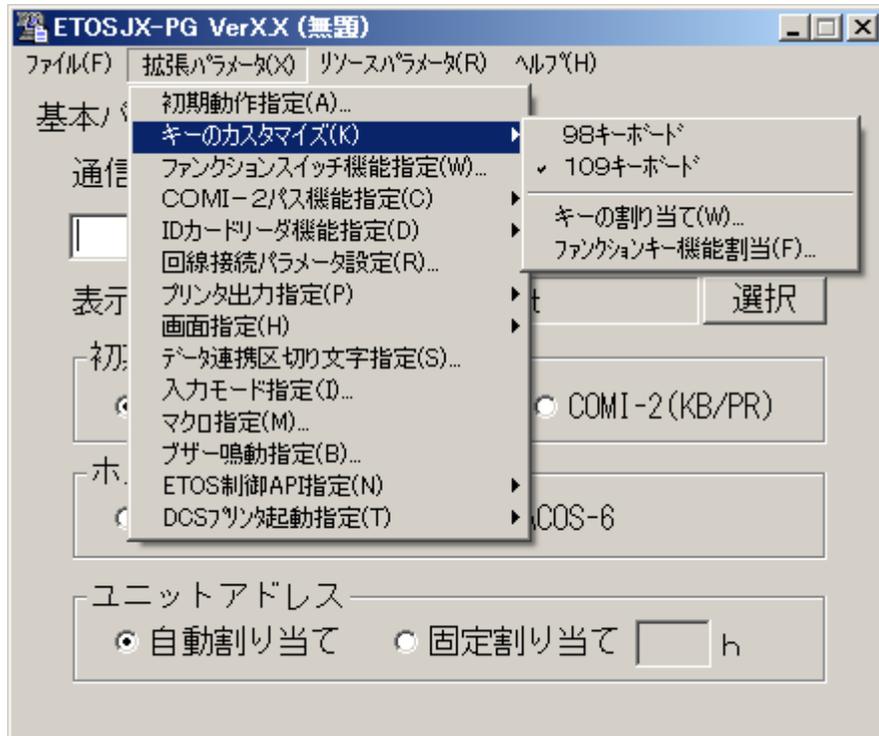
4.6.2 キーをカスタマイズする

物理キーに ETOSJX のファンクションキーを自由に割り当てます。また、PF1～PF24 のファンクションキーに、ID 送信機能、ローカル画面ファイル機能、マクロ機能を割り当てます。

(1) キーボードを選択する

使用するキーボードの種類を指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [キーのカスタマイズ] メニューコマンドを選ぶ。
- ② 98 配列 USB キーボードまたは 98 標準キーボードを使用する場合は [98 キーボード] を選択する。
[98 キーボード]メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。
- ③ 109 キーボードまたは 106 キーボードを使用する場合は [109 キーボード] を選択する。
[109 キーボード]メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。



(2) 物理キーにファンクションキーを割り当てる

- ① [拡張パラメータ] メニューの [キーの割り当て] メニューコマンドを選ぶ。
- ② 物理キーにファンクションキーを割り当てる。
 [キーの割り当て]ダイアログボックスがオープンします。表示されるダイアログボックスは、キーボードの種類によって異なります。
 各パラメータの説明に従い、物理キーにファンクションキーを割り当ててください。

<98 キーボード>

キー	機能	キー	機能	キー	機能
<input checked="" type="radio"/> f・1	PF1	<input type="radio"/> vf・2		<input type="radio"/> ESC	
<input type="radio"/> f・2	PF2	<input type="radio"/> vf・3		<input type="radio"/> TAB	Skip
<input type="radio"/> f・3	PF3	<input type="radio"/> vf・4		<input type="radio"/> BS	BackSkip
<input type="radio"/> f・4	PF4	<input type="radio"/> vf・5		<input type="radio"/> Enter	TAB
<input type="radio"/> f・5	PF5	<input type="radio"/> ROLL UP	STOP ID	切り換えキー <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/> SHIFT <input type="radio"/> CTRL <input type="radio"/> SHIFT+CTRL 機能選択項目一覧 未設定 PF1 PF2 PF3	
<input type="radio"/> f・6	全消去(クリア)	<input type="radio"/> ROLL DOWN	HELP ID		
<input type="radio"/> f・7	I	<input type="radio"/> HOME	項消去		
<input type="radio"/> f・8	II	<input type="radio"/> HELP	リセット		
<input type="radio"/> f・9	III	<input type="radio"/> APキー			
<input type="radio"/> f・10	実行/送信	<input type="radio"/> INS	挿入		
<input type="radio"/> vf・1	入力モード切替	<input type="radio"/> DEL	削除		

既定値 一括消去 ヘルプ

[既定値] ボタンを押すと、切り換えキーによって指定されたキーに既定値をセットします。
 [一括消去] ボタンを押すと、切り換えキーによって指定されたキーの値を消去します。

各パラメータの説明

キー項目	機能項目	説明	既定値
<ul style="list-style-type: none"> • f・1～f・10 • SHIFT+f・1～SHIFT+f・10 • CTRL+f・1～CTRL+f・10 • SHIFT+CTRL+f・1～SHIFT+CTRL+f・10 • vf・1～vf・5 • SHIFT+vf・1～SHIFT+vf・5 • CTRL+vf・1～CTRL+vf・5 • SHIFT+CTRL+vf・1～SHIFT+CTRL+vf・5 • ROLL UP • ROLL DOWN • HOME • CTRL+HOME • SHIFT+HOME • SHIFT+CTRL+HOME • HELP • AP キー • SHIFT+AP キー • CTRL+AP キー • SHIFT+CTRL+AP キー • INS • SHIFT+INS • CTRL+INS • SHIFT+CTRL+INS • DEL • SHIFT+DEL • CTRL+DEL • SHIFT+CTRL+DEL • ESC • SHIFT+ESC • TAB • SHIFT+TAB • CTRL+TAB • SHIFT+CTRL+TAB • BS • SHIFT+BS • CTRL+BS • SHIFT+CTRL+BS • Enter • SHIFT+Enter • CTRL+Enter • SHIFT+CTRL+Enter 	<ul style="list-style-type: none"> • 未設定 • PF1～PF24 • 全消去(クリア) • I • II • III • 実行/送信 • セッション切換 • 割込 • 全項消去 • 復改 • コマンド入力 • パラメータ変更 • 再開 • チェックオフ • DEV CANCEL • ERASE EOF • STOP ID • HELP ID • 項消去 • カーソルホーム • IDENT • リセット • COPY ID • 挿入 • 削除 • HCopy 文字 • HCopy 文字+罫線 • HCopy すべて • HCopy グラフ • TAB • BackSkip • BackSpace • Skip • 入力モード切替 	<p>物理キーに対応するファンクションキーを指定します。</p> <p>[機能選択項目一覧] のリストボックスから 指定したいファンクションキーを選び、そのファンクションキーを物理キーに指定します。</p> <p>複数のキーに同じ機能を割り当てることもできます。</p> <p>SHIFT キー、CTRL キーを押しながら押すキーを指定する場合は、[切り換えキー] で SHIFT、CTRL、SHIFT+CTRL を指定してください。</p> <p>指定できないキーは、ハーフトーンで表示されます。</p>	<p>操作ガイド「キーボードを使う」を参照してください。</p>

<109 キーボード>

キーの割り当て(109)

キー	機能	キー	機能	キー	機能
<input checked="" type="radio"/> F 1	PF1	<input type="radio"/> F 11	PF11	<input type="radio"/> TAB	Skip
<input type="radio"/> F 2	PF2	<input type="radio"/> F 12	PF12	<input type="radio"/> BS	BackSkip
<input type="radio"/> F 3	PF3	<input type="radio"/> Ins	挿入	<input type="radio"/> Enter	TAB
<input type="radio"/> F 4	PF4	<input type="radio"/> Del	削除	切り換えキー	
<input type="radio"/> F 5	PF5	<input type="radio"/> Home	項消去	<input checked="" type="radio"/> 単独	<input type="radio"/> SHIFT <input type="radio"/> CTRL
<input type="radio"/> F 6	PF6	<input type="radio"/> End	Ⅲ	<input type="radio"/> SHIFT+CTRL	
<input type="radio"/> F 7	PF7	<input type="radio"/> PageUp	I	機能選択項目一覧	
<input type="radio"/> F 8	PF8	<input type="radio"/> PageDown	実行/送信	未設定	
<input type="radio"/> F 9	PF9	<input type="radio"/> APキー		PF1	
<input type="radio"/> F 10	PF10	<input type="radio"/> ESC		PF2	
				PF3	

OK キャンセル 既定値 一括消去 ヘルプ

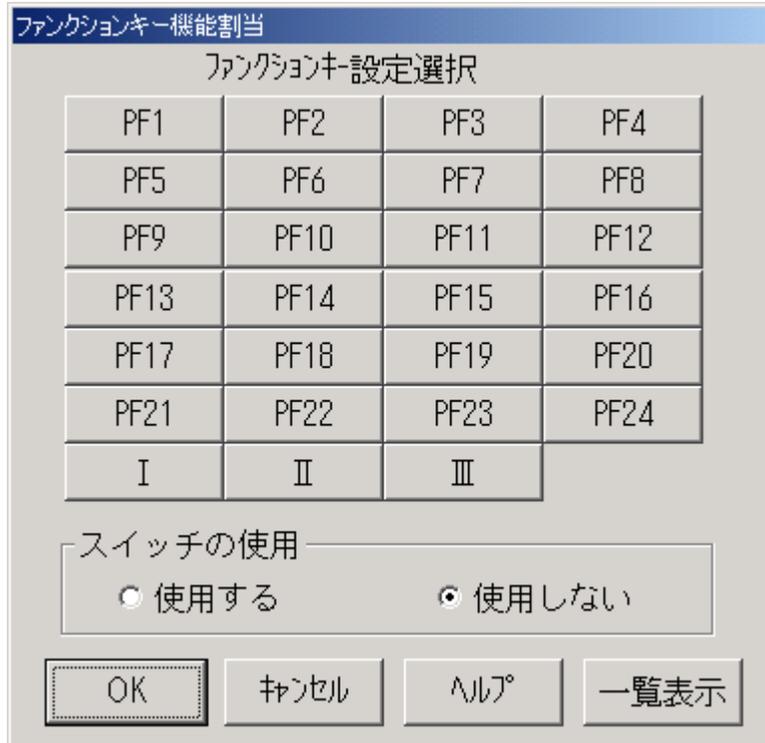
[既定値] ボタンを押すと、切り換えキーによって指定されたキーに既定値をセットします。
 [一括消去] ボタンを押すと、切り換えキーによって指定されたキーの値を消去します。

各パラメータの説明

キー項目	機能項目	説明	既定値
<ul style="list-style-type: none"> • F1～F12 • Shift+F1～Shift+F12 • Ctrl+F1～Ctrl+F12 • Shift+Ctrl+F12～Shift+Ctrl+F12 • Insert • Shift+Insert • Ctrl+Insert • Shift+Ctrl+Insert • Delete • Shift+Delete • Ctrl+Delete • Shift+Ctrl+Delete • Home • Shift+Home • Ctrl+Home • Shift+Ctrl+Home • End • Shift+End • Ctrl+End • Shift+Ctrl+End • Page Up • Shift+Page Up • Ctrl+Page Up • Shift+Ctrl+Page Up • Page Down • Shift+Page Down • Ctrl+Page Down • Shift+Ctrl+Page Down • AP キー, Shift+AP キー • Ctrl+AP キー • Shift+Ctrl+AP キー • Esc, Shift+Esc • Tab, Shift+Tab • Ctrl+Tab • Shift+Ctrl+Tab • BackSpace • Shift+BackSpace • Ctrl+BackSpace • Shift+Ctrl+BackSpace • Enter, Shift+Enter • Ctrl+Enter • Shift+Ctrl+Enter 	<ul style="list-style-type: none"> • 未設定 • PF1～PF24 • 全消去 (クリア) • I • II • III • 実行/送信 • セッション切替 • 割込 • 全項消去 • 復改 • コマンド入力 • パラメータ変更 • 再開 • チェックオフ • DEV CANCEL • ERASE EOF • STOP ID • HELP ID • 項消去 • カーソルホーム • IDENT • リセット • COPY ID • 挿入 • 削除 • HCopy 文字 • HCopy 文字+罫線 • HCopy すべて • HCopy グラフ • TAB • BackSkip • BackSpace • Skip • 入力モード切替 	<p>物理キーに対応するファンクションキーを指定します。</p> <p>[機能選択項目一覧] のリストボックスから指定したいファンクションキーを選び、そのファンクションキーを物理キーに指定します。</p> <p>複数のキーに同じ機能を割り当てることもできます。</p> <p>Shift キー、Ctrl キーを押しながら押すキーを指定する場合は、[切り換えキー] で SHIFT、CTRL、SHIFT+CTRL を指定してください。</p> <p>指定できないキーは、ハーフトーンで表示されます。</p>	<p>操作ガイド「キーボードを使う」を参照してください。</p>

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

- (3) PF1～PF24, I, II, IIIのファンクションキーに機能を割り当てる
- ① [拡張パラメータ] メニューの [キーのカスタマイズ] メニューコマンドを選ぶ。
 - ② [ファンクションキー機能割当] メニューを選択する。
 - ③ [ファンクションキー機能指定] ダイアログボックスがオープンする。



- ④ [ファンクションキー機能指定] ダイアログボックスで、設定する PF キーのボタンを選ぶ。

- ⑤ PF キーのダイアログボックスで、パラメータを入力する。
 指定した PF キーのダイアログボックスがオープンします。
 各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
ファンクションキー機能指定	<ul style="list-style-type: none"> • ID 送信 • ローカル画面 • マクロ実行 	<p>ID 送信 :</p> <p>PF キーに対する ID をホストに送信します。</p> <p>ローカル画面 :</p> <p>表示するローカル画面番号を数字 3 桁で指定します。ローカル画面番号の有効範囲は、000～255 です。ただし、拡張ローカル画面を使用する場合は、000～999 となります。</p> <p>マクロ実行 :</p> <p>実行するマクロ番号を指定します。何も指定しない場合は実行されません。マクロ番号の有効範囲は 01～25 です。</p>	ID 送信
キーの名前	なし	PF キーの名前を変更します。キーの名前は、32 文字まで入力できます。ツールボタンの説明として、ステータスバーに表示されます。	なし

- ⑥ PF キーのダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
PF キーダイアログボックスで設定したパラメータを保存し、[ファンクションキー機能指定] ダイアログボックスに戻ります。
- ⑦ スイッチの使用の有無を選択する
各パラメータの説明に従い、スイッチの設定を行なってください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
スイッチの使用	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する ・使用しない 	使用する： ID 送信、ローカル画面、マクロ実行を複数同時に指定した場合、これらの機能を実行する優先順位を変更することができます。 使用しない： ID 送信、ローカル画面、マクロ実行を複数同時に指定した場合、これらの機能を実行する優先順位は、マクロ実行、ローカル画面、ID 送信の順となります。	使用しない

- ⑧ [ファンクションキー機能指定] ダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
基本パラメータ入力画面に戻ります。

(注意)

- ・ 1 つの PF キーに複数の機能を指定した場合、PF キーを押すと複数指定した機能の優先順位の高い機能のみを実行します。

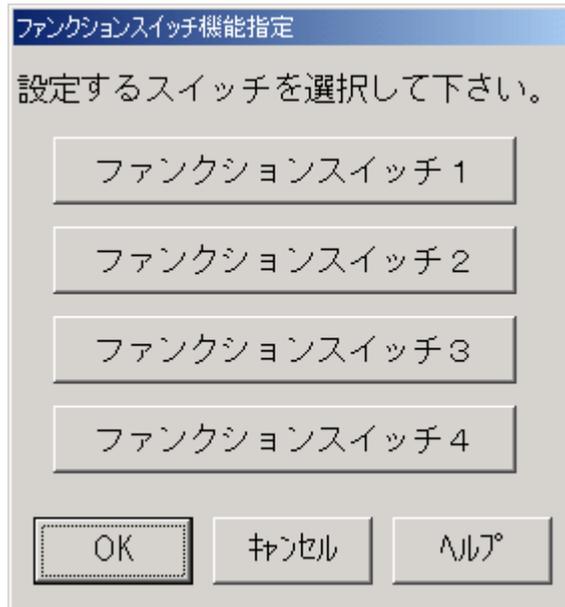
スイッチの使用	優先順位
使用する (注)	SW (ID) ID 送信 →マクロ実行 →ローカル画面
	SW (MET) マクロ実行 →ローカル画面→ID 送信
	SW (GFM) ローカル画面→マクロ実行 →ID 送信
使用しない	マクロ実行 →ローカル画面→ID 送信

- (注) スイッチは Ctrl+K を押すことによって切り換えます。
スイッチの状態は画面の制御領域に表示されます(詳細は操作ガイド「画面フォーマット」の制御領域の説明を参照して下さい)。

4.6.3 ファンクションスイッチ機能を指定する

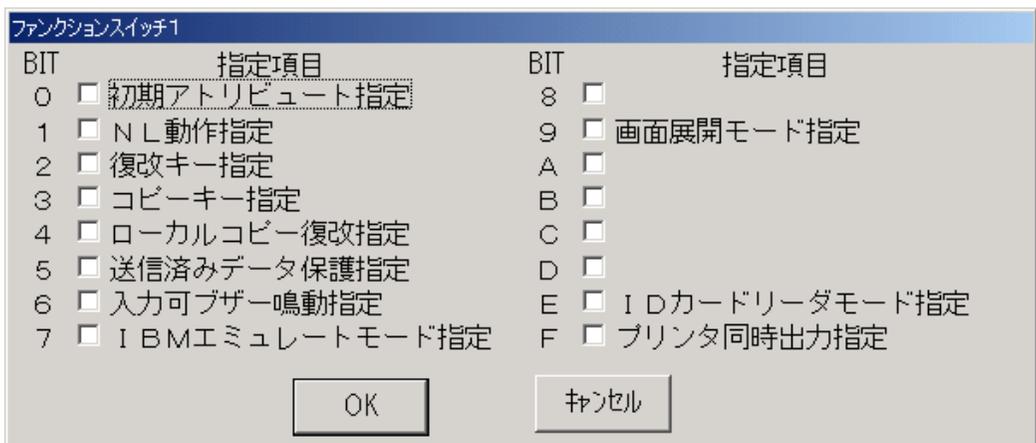
ファンクションスイッチの設定を行います。

- ① [拡張パラメータ]メニューの[ファンクションスイッチ機能指定]メニューコマンドを選ぶ。
[ファンクションスイッチ機能指定]ダイアログボックスがオープンします。
設定するファンクションスイッチのボタンを押してください。



- ② 各ファンクションスイッチのダイアログボックスで、パラメータを入力する。
各ファンクションスイッチのダイアログボックスが、オープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

<ファンクションスイッチ1>



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
BIT0 初期アトリビュート指定 (注1)		YES : 初期モードはアトリビュート非占有モードとなります。 NO : 初期モードはアトリビュート占有モードとなります。	NO
BIT1 NL動作指定 (注1)		YES : ホストコンピュータから受信した画面へのメッセージ中の NL を画面に書き込み復改します。 NO : ホストコンピュータから受信した画面へのメッセージ中の NL を単なるデータとして扱い、画面に書き込みます。	NO
BIT2 復改キー指定 (注1)		YES : 復改キーが押された時、NL を画面に書き込み復改します。 NO : 復改キーが押された時、復改動作のみ行いません。	NO
BIT3 コピーキー指定 (注1)	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : コピーキーが押された時、端末ローカルで PR チャンネルに画面のハードコピーを印字出力します。 NO : コピーキーが押された時、ホストコンピュータにコピーキーメッセージを送信します。	NO
BIT4 ローカルコピー復改指定 (注1)		YES : 端末ローカルに画面のハードコピーを出力する時、画面上の NL によって復改します。 NO : 端末ローカルに画面のハードコピーを出力する時、画面の各行の終わりに NL を付加し復改します。	NO
BIT5 送信済みデータ保護指定 (注1)		YES : 一度送信したフィールドは、送信キーおよび SOT でスキップされ何も送信されません。 NO : 一度送信したフィールドは、送信キーおよび SOT によって、再度送信されます。	NO
BIT6 入力可ブザー鳴動指定 (注1)		YES : 入力不可→入力可への変化時に、ブザーを鳴らします。ブザー音は、[拡張パラメータ] - [ブザー鳴動指定] で指定可能です。 NO : 入力不可→入力可への変化時に、ブザーを鳴らしません。	NO
BIT7 IBM エミュレートモード指定 (注1)		YES : IBM3270 エミュレートモードへの切替コマンド受信時エミュレートモードとなり、PF キーを押した時に、各 PF キーの ID だけでなく、送信キーを押した時と同様に画面のデータをホストに送信します。 NO : IBM3270 エミュレートモードへの切替コマンドを受信してもエミュレートモードにはなりません。	NO
BIT9 画面展開モード指定 (注1)		YES : 画面に対するテキストを受信ブロック単位に表示します。 NO : 画面に対するテキストをすべて受信した後に表示します。	NO

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
BITE ID カードリーダ モード指定	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : ID カードリーダをモデル 50N 互換モードで使用 します。 NO : ID カードリーダをモデル 55N 互換モードで使用 します。 リファレンスマニュアル「アトリビュート文字」を 参照。	NO
BITF プリンタ同時出 力指定 (注 2)		YES : ホストからの画面への表示データまたはキーボ ードからの入力データを同時にプリンタへ出 力します。 NO : ホストからの画面への表示データまたはキーボ ードからの入力データをプリンタへ出力しま せん。	NO

(注 1) FORM、COMI-2 (FORM) モードのみ有効。

(注 2) COMI-2 (KB/PR) モードでのみ有効。

<ファンクションスイッチ2>

BIT	指定項目	BIT	指定項目
0	<input type="checkbox"/>	8	<input type="checkbox"/> 倍画面使用指定
1	<input type="checkbox"/> 数字フィールドジャスティファイ指定	9	<input type="checkbox"/>
2	<input type="checkbox"/> マウス使用指定(ライトペン機能)	A	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>	C	<input type="checkbox"/>
5	<input type="checkbox"/>	D	<input type="checkbox"/>
6	<input type="checkbox"/>	E	<input type="checkbox"/>
7	<input type="checkbox"/> 英小文字変換指定	F	<input type="checkbox"/> レコード件数表示保持

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
BIT1 数字フィールド ジャスティファイ 指定 (注1)	<input type="checkbox"/>	YES : 数字フィールドは ATR3 の J 指定にかかわらず ジャスティファイ動作します。 NO : 数字フィールドは ATR3 で J 指定されていなければ ジャスティファイ動作しません。	NO
BIT2 マウス使用指定	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : ライトペン機能を使用します(ATR1 の指定で BL、HL のどちらか一方のみ ON の場合にライト ペンフィールドを生成します)。 NO : ライトペンフィールドを生成しません。	NO
BIT7 英小文字変換指 定	<input type="checkbox"/>	YES : キーボードから入力された英小文字を英大文 字に変換して表示します。 NO : 文字の変換を行いません。	NO
BIT8 倍画面使用指定	<input type="checkbox"/>	YES : 倍画面モードで動作します。 NO : 通常モードで動作します。	NO
BITF レコード件数表 示保持	<input type="checkbox"/>	YES : ファイル転送レコード件数をファイル転送終 了後も保持します。 NO : ファイル転送レコード件数をファイルクロー ズ時に消去します。	NO

※上記以外のパラメータは、指定しても無視されます。

(注1) FORM、COMI-2(FORM)モードでのみ有効です。

<ファンクションスイッチ3>

BIT	指定項目	BIT	指定項目
0	<input type="checkbox"/>	8	<input type="checkbox"/>
1	<input type="checkbox"/> XFERキー送信機能指定	9	<input type="checkbox"/>
2	<input checked="" type="checkbox"/> 罫線補正指定	A	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>	C	<input type="checkbox"/>
5	<input type="checkbox"/> 左クリック動作指定	D	<input type="checkbox"/>
6	<input type="checkbox"/>	E	<input type="checkbox"/>
7	<input type="checkbox"/>	F	<input type="checkbox"/>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
BIT1 XFER キー送信機能指定	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : XFER キーを実行/送信キーとして扱います。 NO : XFER キーを実行/送信キーとして扱いません。	NO
BIT2 罫線補正指定		YES : 横罫線をカラムの中央から引きます。 NO : 横罫線をカラムの左端から引きます。	YES
BIT5 左クリック動作指定		YES : マウス左クリックにより入力位置カーソルを移動可能とします。 NO : マウス左クリックでは入力位置カーソルを移動しません。	NO

※上記以外のパラメータは、指定しても無視されます。

<ファンクションスイッチ4>

ファンクションスイッチ4	
BIT	指定項目
0	<input type="checkbox"/> モノクロディスプレイ互換モード
1	<input type="checkbox"/> WMSCファイル転送動作指定
2	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>
5	<input type="checkbox"/>
6	<input type="checkbox"/>
7	<input type="checkbox"/>

BIT	指定項目
8	<input type="checkbox"/>
9	<input type="checkbox"/>
A	<input type="checkbox"/>
B	<input type="checkbox"/>
C	<input type="checkbox"/>
D	<input type="checkbox"/>
E	<input type="checkbox"/>
F	<input type="checkbox"/>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
BIT0 モノクロディスプレイ互換モード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : ホストからの画面に対するカラー指定を無視します。通常は、緑色で表示され、高輝度表示指定のフィールドのみ、黄色で表示されます。 NO : ホストからの画面に対するカラー指定を有効にします。	NO
BIT1 WMSC ファイル転送動作指定		YES : 1レコードを複数テキストに分割して送信する COMI-2 上り可変長ファイル転送において、1テキストの WMSC 受信に対して、1レコード分の全テキストを送信して、MS-DOS 版 ETOS と同等の動作をします。 NO : 1レコードを複数テキストに分割して送信する COMI-2 上り可変長ファイル転送において、1テキストの WMSC 受信に対して、1テキストのみ送信します。	NO

※上記以外のパラメータは、指定しても無視されます。

- ③ 指定したファンクションスイッチのダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
ダイアログボックスは消えます。
- ④ [ファンクションスイッチ機能指定] ダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
ダイアログボックスは消え、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.4 COMI-2 パス拡張機能を指定する

COMI-2 パスを使用する場合の各種機能の設定を行います。

(1) ファイル情報を定義する。

① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。

② [ファイル情報定義] メニューを選択する。

[ファイル情報定義] ダイアログボックスが、オープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

ファイル情報定義			
	ファイル名	レコード長	
FI00	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI10
FI01	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI11
FI02	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI12
FI03	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI13
FI04	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI14
FI05	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI15
FI06	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI16
FI07	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI17
FI08	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI18
FI09	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI19

レコード長既定値

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
レコード長既定値	なし	レコード長の既定値を指定します。ファイル名直接指定の固定長ファイル転送やファイル名間接指定の\$CHGを使用した固定長モードファイル転送でレコード長が指定されていない場合、この値がレコード長となります。有効範囲は、1～999バイトです。(注)	256
ファイル名	なし	ファイル名を指定します。指定するファイルが、カレントディレクトリにない場合には、ディレクトリも指定し、64文字以内で入力します。なお、本ファイル名はホストから指定されるファイル名と同じ文字列を指定する必要があります。	なし
レコード長	なし	ファイルのレコード長を指定します。ファイルは、本項目で指定されたレコード長で送信されます。有効範囲は、1～999バイトです。(注)	なし

(注) ここで設定するレコード長とはホスト送信用に JIPS 変換後のレコード長となります。端末側のファイルサイズとは関係ありません。

③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(2) 拡張機能を指定する

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス拡張機能] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [拡張機能] メニューを選択する。
[拡張機能] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
送信データ圧縮指定 ・フロッピーディスク ・カードリーダー	・圧縮する ・圧縮しない	フロッピーディスクイメージデータ/カードリーダーイメージデータ送信時にデータの圧縮を行うかを指定します。	圧縮する
トレーラスペース削除	・削除する ・削除しない	トレーラスペースを削除するかを指定します。	削除する
COMI-2(間接指定)ファイル転送 ・ファイルアロケーション	・アロケートする ・アロケートしない	COMI-2 パスファイル転送 (下り間接指定) において、ファイルが存在しない場合にファイルを作成するかを指定します。	アロケートしない
COMI-2(間接指定)ファイル転送 ・ファイル種別	・固定長モード ・可変長モード	COMI-2 パスファイル転送 (間接指定) においてファイル転送のモードを指定します。 固定長モード: チャンネル指定のレコード長を有効とし、レコードサイズが固定となります。 可変長モード: CRLF までを1レコードとし、レコード長が可変となります。	固定長モード
BOM(Byte Oder Mark)指定	・付加する ・付加しない	ファイル転送にてファイルを作成する場合、先頭に BOM を付加するかを指定します。	付加する

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(3) 端末オペレータコマンドを指定する

端末オペレータコマンドの登録を行います。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [端末オペレータコマンド指定] メニューを選択する。
[端末オペレータコマンド指定] ダイアログボックスがオープンします。
設定したい登録番号のボタンを押してください。

③ 指定した登録番号のダイアログボックスで、パラメータを入力する。

指定した登録番号のダイアログボックスがオープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

また、登録した端末オペレータコマンドを削除したい場合には、[登録削除] ボタンを押してください。その登録番号を未登録状態にし、ダイアログボックスは消えます。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
イメージ	・キーボード ・フロッピーディスク	送信データイメージを指定します。	キーボード
入力装置	・キーボード ・DRIVE A～Z	入力装置を指定します。 キーボードを指定した場合、以降のパラメータを指定する必要はありません。 キーボード：キーボード入力フィールドに入力されたデータがホストに送信されます。 DRIVE A～Z：ファイル1レコード分のデータが、ホストに送信されます。	キーボード
ファイル名	なし	ファイル名を指定します。指定するファイルが、カレントドライブにない場合には、ドライブやディレクトリも指定します。(注1) 64文字まで入力できます。	なし
レコード長	なし	ファイルのレコード長を指定します。(注1) 有効範囲は、1～999バイトです。(注2)	なし
データコード	・JIPS(J)SE ・内部(J)	ファイル内に格納されているデータのコードを指定します。(注1) JIPS(J)SE：ホストと同じコード体系。漢字コードの変換を行いません。 内部(J)：ホストと異なるコード体系。漢字コードの変換を行います。 UNICODE→JIPS(J)SE (送信時)	JIPS(J)SE

(注1) [入力装置] で、DRIVE A～Z を指定した場合のみ指定してください。

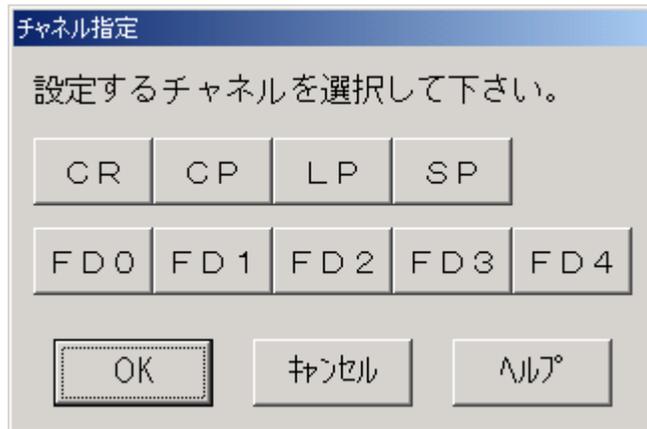
(注2) ここで設定するレコード長とはホスト送信用に JIPS 変換後のレコード長となります。端末側のファイルサイズとは関係ありません。

(4) チャンネルを指定する (COMI-2 パス ファイル名間接指定)

COMI-2 パスを使用してファイル転送 (ファイル名間接指定) を行う場合、あらかじめファイル名を間接的に表すチャンネルにファイル名と入出力装置を設定する必要があります。

このチャンネルを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [チャンネル指定] メニューを選択する。
[チャンネル指定] ダイアログボックスがオープンします。



- ③ [チャンネル指定] ダイアログボックスで、指定するチャンネルを選ぶ。
各パラメータの説明に従い、チャンネルを選択してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
チャンネル	<ul style="list-style-type: none"> • CR • CP • LP • SP • FD0 • FD1 • FD2 • FD3 • FD4 	設定したいチャンネルを指定します。 CR：カードリーダーチャンネル CP：カードパンチチャンネル LP：ラインプリンタチャンネル SP：シリアルプリンタチャンネル FD0～4：フロッピーディスクチャンネル	なし

- ④ 指定したチャンネルのダイアログボックスでパラメータを入力する
指定したチャンネルのダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

<CR チャネル>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
ファイル名	なし	ファイル名を指定します。指定するファイルが、カレントディレクトリにない場合には、ドライブやディレクトリも指定します。64文字まで入力できます。	C : DATAR
レコード長	なし	ファイルのレコード長を指定します。有効範囲は、1～999バイトです。(注)	80
データコード	<ul style="list-style-type: none"> ・ JIPS (J) SE ・ 内部 (J) 	ファイル内に格納されているデータのコードを指定します。 JIPS (J) SE : ホストと同じコード体系。漢字コードの変換を行いません。 内部 (J) : ホストと異なるコード体系。漢字コードの変換を行います。 UNICODE→JIPS (J) SE (送信時)	JIPS (J) SE

(注) ここで設定するレコード長とはホスト送信用に JIPS 変換後のレコード長となります。端末側のファイルサイズとは関係ありません。

<CP/LP/SP チャネル>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
出力装置	・プリンタ ・DRIVE A~Z	チャネルの出力装置を指定します。	プリンタ
ファイル名	なし	ファイル名を指定します。指定するファイルが、カレントディレクトリにない場合には、ドライブやディレクトリも指定します。64文字まで入力できます（〔出力装置〕で、DRIVE A~Z を指定した場合のみ指定してください）。	なし
レコード長	なし	ファイルのレコード長を指定します。有効範囲は、1~999 バイトです（〔出力装置〕で、DRIVE A~Z を指定した場合のみ指定してください）。(注1)	CP : 80 LP : 256 SP : 256
データコード (注2)	・JIPS(J)SE ・内部(J)	ファイル内へ格納するデータのコードを指定します（〔出力装置〕で、DRIVE A~Z を指定した場合のみ指定してください）。 JIS(J)SE : ホストと同じコード体系。漢字コードの変換を行いません。 内部(J) : ホストと異なるコード体系。漢字コードの変換を行います。 JIPS(J)SE→UNICODE(受信時)	JIPS(J)SE

(注1) ここで設定するレコード長とはホスト送信用に JIPS 変換後のレコード長となります。端末側のファイルサイズとは関係ありません。

(注2) LP/SP チャネルの場合、〔データコード〕で内部(J)を指定しても無効となります。この場合、データコードは JIPS(J)SE で処理されます。

<FD0～FD4 チャネル>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
ファイル名	なし	ファイル名を指定します。指定するファイルが、カレントディレクトリにない場合には、ドライブやディレクトリも指定します。64文字まで入力できます。	FD0…C:DATA0 FD1…C:DATA1 FD2…C:DATA2 FD3…C:DATA3 FD4…C:DATA4
レコード長	なし	ファイルのレコード長を指定します。有効範囲は、1～999バイトです。(注)	256
データコード	・ JIPS(J)SE ・ 内部(J)	ファイル内に格納されているデータのコードを指定します。 JIPS(J)SE : ホストと同じコード体系。漢字コードの変換を行いません。 内部(J) : ホストと異なるコード体系。漢字コードの変換を行います。 JIPS(J)SE→UNICODE(受信時)	JIPS(J)SE

(注) ここで設定するレコード長とはホスト送信用に JIPS 変換後のレコード長となります。端末側のファイルサイズとは関係ありません。

- ⑤ 指定したチャネルのダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
指定したチャネルのダイアログボックスで [OK] ボタンを押します。
設定したパラメータを保存し、ダイアログボックスは消えます。
- ⑥ [チャネル指定] ダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
ダイアログボックスは消え、もとの画面に戻ります。

- (5) ファイル受信終了後の自動起動アプリケーションを指定する
 COMI-2 パスを使用したファイル転送（ファイル名直接指定）終了後、起動するアプリケーションを指定します。
- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
 - ② [アプリケーション自動起動設定] メニューを選択する。
 [アプリケーション自動起動設定] ダイアログボックスが、オープンします。
 各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
受信ファイル名	なし	COMI-2 パスファイル転送で受信するファイル名を指定します。 12文字まで入力できます。	なし
実行アプリケーション名	なし	COMI-2 パスファイル転送で受信したファイル名が、設定した受信ファイル名と一致した場合に起動するアプリケーションを指定します。（注1）	なし

(注1)

- 1) 指定したアプリケーションが実行される場合、実行ファイルの第1引数として、受信ファイル名が指定されます。
 また、実行アプリケーション名は、フルパスで指定してください。
 - 2) ファイル名以外の引数を指定することはできません。
- ③ [OK] ボタンを押す。
 設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(6) ファイル転送ディレクトリを指定する

COMI-2 パスを使用したファイル転送（ファイル名直接指定）で使用するディレクトリをユニット番号毎に指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [ユニット番号ディレクトリ指定] メニューを選択する。
[ユニット番号ディレクトリ指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

ユニット番号	転送ディレクトリ
0 :	<input type="text"/>
1 :	<input type="text"/>
2 :	<input type="text"/>
3 :	<input type="text"/>
4 :	<input type="text"/>
5 :	<input type="text"/>
6 :	<input type="text"/>
7 :	<input type="text"/>
8 :	<input type="text"/>
9 :	<input type="text"/>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
転送ディレクトリ	なし	COMI-2 パスファイル転送で使用する ディレクトリをユニット番号（ドライブ番号）毎に指定します。ユニット番号0～9はドライブ番号 A～J に対応します。本指定は、ファイル名直接指定でのみ有効です。 (注) 転送ディレクトリはフルパスで指定してください。	なし

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(7) ファイル転送時の未定義コード動作を指定する

COMI-2 パスファイル転送（バイナリデータ転送は除く）時の、コード変換できないコードの取り扱いを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [未定義コード動作指定] メニューを選択する。
[未定義コード動作指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

未定義コード動作指定

未定義コード指定

上り(Unicode→JIS) 0x00FF以下

- 下位1バイトのみ送信する
- 未定義コードを削除する
- 指定のJISコードに置き換える
置換するJISコード

上り(Unicode→JIS) 0x0100以上

- コードをそのまま送信する
- 未定義コードを削除する
- 指定のJISコードに置き換える
置換するJISコード

下り(JIS→Unicode) 1バイト文字

- コードをそのまま2バイト化して書き込む
- 未定義コードを削除する
- 指定のUnicodeに置き換える
置換するUnicode

下り(JIS→Unicode) 2バイト文字

- JISコードのままファイルに書き込む
- 未定義コードを削除する
- 指定のUnicodeに置き換える
置換するUnicode

未定義コードエラー

- 表示する
- 表示しない

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	コード範囲	パラメータ	説明	既定値
上り (Unicode→ JIS)	0x00FF 以下	<ul style="list-style-type: none"> 下位1バイトのみ送信する 未定義コードを削除する 指定のJISコードに置き換える 	ファイル内に存在するJISコードに関連付けられていないUnicodeをホストへ送信する際の動作を指定します。	指定のJISコードに置き換える
		置換するJISコード	上記で[指定のJISコードに置き換える]を指定した場合、置き換えるJISコードを指定します。有効範囲は00~FFです。	3f
	0x0100 以上	<ul style="list-style-type: none"> コードをそのまま送信する 未定義コードを削除する 指定のJISコードに置き換える 	ファイル内に存在するJISコードに関連付けられていないUnicodeをホストへ送信する際の動作を指定します。	指定のJISコードに置き換える
		置換するJISコード	上記で[指定のJISコードに置き換える]を指定した場合、置き換えるJISコードを指定します。有効範囲は0000~FFFFです。	222e
下り (JIS→ Unicode)	1バイト 文字	<ul style="list-style-type: none"> コードをそのまま2バイト化して書き込む 未定義コードを削除する 指定のUnicodeに置き換える 	ホストから受信したデータ内に存在するUnicodeに関連付けられていないJISコードをファイルに書き込む際の動作を指定します。	指定のUnicodeに置き換える
		置換するUnicode	上記で[指定のUnicodeに置き換える]を指定した場合、置き換えるUnicodeを指定します。有効範囲は0000~FFFFです。	003f
	2バイト 文字	<ul style="list-style-type: none"> JISコードのままファイルに書き込む 未定義コードを削除する 指定のUnicodeに置き換える 	ホストから受信したデータ内に存在する未定義コードをファイルに書き込む際の動作を指定します。	指定のUnicodeに置き換える
		置換するUnicode	上記で[指定のUnicodeに置き換える]を指定した場合、置き換えるUnicodeを指定します。有効範囲は0000~FFFFです。	3013

(注1) 置換するJISコードは、ホスト側に影響がないコードを指定してください。

指定コードによっては、JISの日本語コードにならない範囲があります。

(注2) 置換するUnicodeは、Windowsで使用する場合に影響がないコードを指定してください。

指定コードによっては、Unicodeの日本語コードにならない範囲や字体がないコードになる範囲があります。

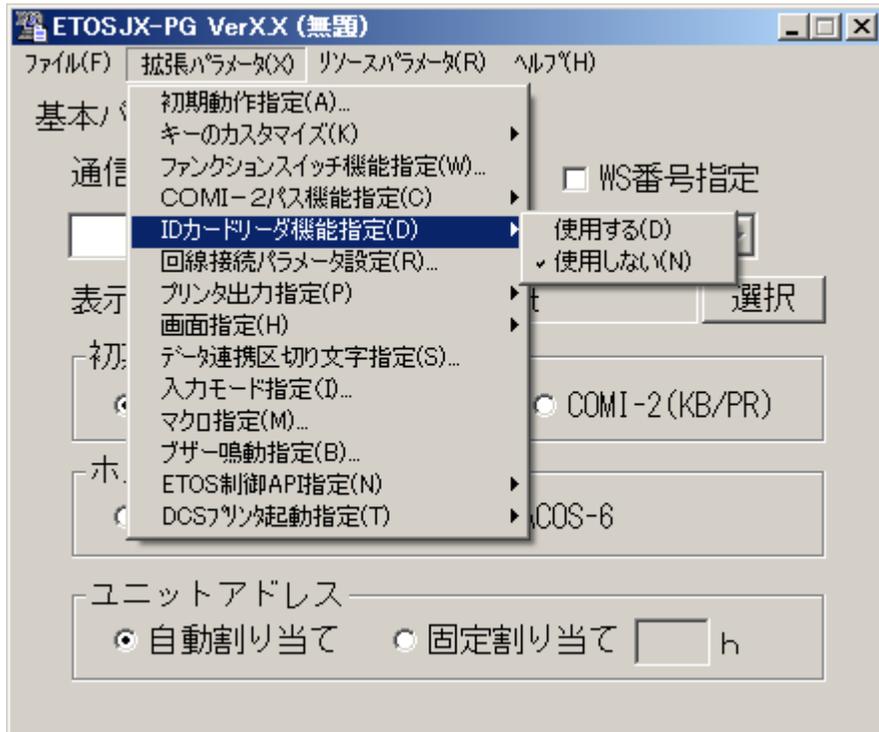
③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.5 IDカードリーダー機能を指定する

IDカードリーダーを使用するかどうかを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [IDカードリーダー機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② IDカードリーダーを使用する場合には [使用する] を選択する。
[使用する] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。
- ③ IDカードリーダーを使用しない場合には [使用しない] を選択する。
[使用しない] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。



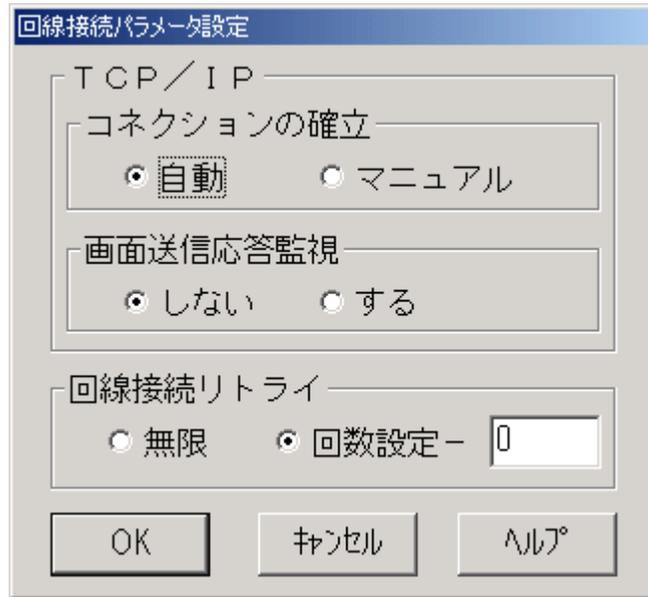
(注意)

IDカードリーダー使用時は、デバイスマネージャの通信ポート(COM1)の設定をIDカードリーダー機器の設定に合わせてください。

4.6.6 回線接続に関するパラメータを指定する

TCP/IP 手順使用時のレジーム確立の方法と、ETOSJX の起動時または回線切断時に、ETOSJX から発行する接続要求の回数を設定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [回線接続パラメータ設定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② パラメータを入力する。
[回線接続パラメータ] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
コネクションの確立	・自動 ・マニュアル	TCP/IP 手順において、コネクションの確立を行う方法を指定します。 「自動」を選択した場合、ETOSJX は常にレジームを確立しようとします。	自動
画面送信応答監視	・しない ・する	TCP/IP 手順で、画面送信、COMI-2 ファイル送信、分散テキスト送信の際、ホストへの到達確認を行うかを指定します。	しない
回線接続リトライ	・無限 ・回数設定	回線接続が失敗した場合の再接続試行回数を指定します。無限を選択した場合は回線接続完了まで、接続要求を繰り返します。	回数設定 0

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.7 プリンタ情報を設定する (COMI-2 パス)

〔拡張パラメータ〕メニューの〔プリンタ出力指定〕メニューでCOMI-2パスプリンタ出力機能の設定を行います。

(1) 出力方法の設定を行う

- ① 〔拡張パラメータ〕メニューの〔プリンタ出力指定〕を選択する。
- ② 〔COMI-2パス指定〕設定を選択する。
- ③ パラメータを入力する。
プリンタ制御コード指定ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを設定してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
現在選択されている出力先プリンタ	プリンタ名	現在選択されているプリンタを表示します。	Windows で通常使うプリンタに指定されたプリンタ
通常使うプリンタ	<input checked="" type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO	出力先プリンタを Windows で設定されている「通常使うプリンタ」に出力するかどうか指定します。 YES : Windows で指定された「通常使うプリンタ」に出力します。 NO : 現在選択されているプリンタに出力します。	NO

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ言語	<ul style="list-style-type: none"> • N5200 系コード • PC 系コード • 従来変換 • 無変換 • イメージ変換 	<p>ホストから受信するプリンタ言語およびコード変換方法を指定します。</p> <p>N5200 系コード：ホストから受信するデータが旧情報コードの場合指定します。</p> <p>PC 系コード：ホストから受信するデータが 201PL または NPDL2 の時指定します。</p> <p>従来変換：ETOSJX で一部のホスト側制御コードを変換し、プリンタへ出力します。</p> <p>無変換：ETOSJX ではデータの加工は一切行わず、プリンタへ出力します。</p> <p>イメージ変換：ETOSJX にて PC-PR201 系プリンタをエミュレートし、印字イメージデータをプリンタへ出力します。</p>	従来変換
プリンタコードチェック	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	<p>ホストからの印字データが設定にあっていないかのチェックを行うか設定します。</p> <p>YES：設定されているプリンタ言語では、使用不可能なコードを受信した場合に、エラーを表示し、プリンタ出力を中止します。</p> <p>NO：設定されているプリンタ言語では、使用不可能なコードを受信しても、エラーを表示せず、プリンタ出力を継続します。</p>	YES
障害通知の有無	<ul style="list-style-type: none"> • 通知する • 通知しない 	<p>N5200 系コード選択時、プリンタの障害通知機能を選択します。</p> <p>通知する：プリンタ障害発生時、ホストへ障害情報を通知します。(注1)</p> <p>通知しない：プリンタ障害発生時、プリントマネージャに処理をまかせます。</p>	通知する
障害通知 ・全て永久障害で通知する	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	<p>上記で「通知する」を選択時、全て永久障害で通知するか否かを選択します。</p> <p>PC98-NX シリーズ/Express5800 シリーズでは、電源断、未接続を用紙切れで通知する場合があります。</p> <p>YES：用紙切れを含む全ての障害を検出した場合、永久障害でホストへ障害通知します。</p> <p>NO：用紙切れとその他の障害を区別してホストへ障害通知します。</p>	NO
プリンタ監視	<ul style="list-style-type: none"> • 監視しない • 監視する 	<p>COMI-2 バスでのプリンタ出力をタイマ監視するか指定します。</p> <p>監視しない： プリンタをオープン後、ETOSJX を終了するまで、クローズを行いません。(注2)</p> <p>監視する： プリンタ監視時間を指定して下さい。指定したプリンタタイマ監視時間を経過してもテキストがこなければプリンタをクローズします。 プリンタ監視時間の有効範囲は、1~9999 秒です。(注3)</p>	監視する 10 秒

- (注1) 障害通知機能を使用する場合、ETOSJX 専用プリンタを登録する必要があります。ETOSJX 専用プリンタの登録方法は、「**8.2 ETOSJX 専用プリンタ登録**」を参照してください。
障害通知機能は、プリンタポートに直接接続されたローカルプリンタのみ使用可能です。
ネットワークプリンタおよびUSB 接続プリンタでは使用できません。
PrintBridge と連携を行う場合の設定方法は、「**8.4 PrintBridge を経由して印刷する**」も参照してください。
- (注2) プリンタ監視しない設定は、N5200 系コード(障害通知する)の場合のみ使用して下さい。
それ以外の設定で使用した場合、ETOSJX を終了するまで、印刷が開始されない場合があります。
- (注3) ホストからの印刷データが終了しても、この指定時間だけ待ってから印刷を開始します。
N5200 系コードの場合、プリンタ監視時間経過後および印刷開始時にプリンタ装置のリセット、用紙長の再設定(シリアルプリンタのみ)を行うため、極端に小さい値を設定するとプリンタ性能の低下やページずれが発生する恐れがあります。
業務ごとに適切な値を設定してください。

④ 詳細設定をおこなう。

[プリンタ出力指定 (COMI-2)]ダイアログボックスで [詳細設定] ボタンを選択し、コード変換パラメータを設定します。

表示されるダイアログボックスは、プリンタ言語、及び印字方法によって異なります。

<N5200 系コード>

N5200系コード詳細設定

プリンタ機種名

初期化コード

出力する 出力しない

印字方向

ポートレイト ランドスケープ

用紙位置

中央 左端

外字

Windows標準外字 移行外字

用紙サイズ

給紙方法

1ページの行数 68

自動復帰改行

復帰改行 復帰のみ

連続する同期コード

1個に置換 そのまま

追加コード

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ機種名	プリンタ型番	リストボックスに PC-PTOS 対応プリンタが表示されます。一覧の中から使用するプリンタを指定します。(注1)	なし
初期化コード	・出力する ・出力しない	プリンタ出力開始時にプリンタの初期化を行うかを指定します。 通常は、出力するを指定し、ホスト側にてプリンタを制御する場合に出力しないを指定します。	出力する
印字方向	・ポートレート ・ランドスケープ	用紙の印字方向を指定します。(注2)	ポートレート
用紙位置	・中央 ・左端	用紙の位置を指定します。(注2)	左端
外字	・Windows 標準外字 ・移行外字(注3)	N5200 系コード印刷で使用する外字を指定します。移行外字は、PTOS/A-VX5 の外字を「日本語文字拡張セット」を使用して変換したものです。	Windows 標準外字
用紙サイズ		用紙サイズを指定します。(注2)	
給紙方法		給紙方法を指定します。(注2)	
1 ページの行数	行数	1 ページの行数を指定します。 本指定は、シリアルプリンタ使用時のみ有効となります。	66
自動復帰改行	・復帰改行 ・復帰のみ	帳票印刷時、1 行分の印字データが最大印字桁数を越えた場合の動作を指定します。 復帰改行：印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。 復帰のみ：印字位置を行の先頭へ移動します。	復帰のみ
連続する同期コード	・1 個に置換 ・そのまま	印字データに連続する同期コード(00 ₁₆)が存在する場合の動作を指定します。 1 個に置換： ホストから受信した連続する同期コードを1 個にまとめて出力します。大量の同期コードが原因で、印字速度が遅い場合に指定してください。 そのまま： ホストから受信した同期コードをすべてプリンタへ出力します。	1 個に置換

(注1) N 型番のプリンタ(N11xx と N78xx)は、Express5800 サーバに接続されている場合に、ネットワークプリンタとして利用可能であり、PC には接続できません。

(注2) シリアルプリンタの場合、印字方向や用紙位置、用紙サイズ、給紙方法のパラメータは、レフトマージンを求めるための指定となります。従って、この設定によって、プリンタ本体の印字方向や用紙位置、用紙サイズ、給紙方法を変更することはできません。
プリンタ本体の設定を変更するには、ホストよりデータとして制御コードを送るか、追加コードの指定機能によって制御コードを出力するようにしてください。

(注3) 移行外字を選択した場合、コード変換テーブルは、有効となりません。

※PrintBridge と連携を行う場合の設定方法は、「8.4 PrintBridge を経由して印刷する」も参照してください。

[追加コード] のボタンで初期化コード/終了コードを指定します

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力開始時に、制御コードを追加出力します。続くテキストボックスに、追加する制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。既にファイルを用意してある場合は、参照ボタンにより指定することができます。(注1) NO : 制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力終了時に、制御コードを追加出力します。続くテキストボックスに、追加する制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。既にファイルを用意してある場合は、参照ボタンにより指定することができます。(注1) NO : 制御コードを追加出力しません。	NO

(注1) 追加コードは N5200 系制御コードで記述してください。追加コードファイルは UNICODE 形式で作成してください。
また、追加コードファイルのファイルサイズは、最大 512 バイトです。

<PC系コード（従来変換）>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ言語	<ul style="list-style-type: none"> 201PL NPDL2 	ホスト側で作成した印字データのプリンタ言語を指定します。	201PL
プリンタタイプ	<ul style="list-style-type: none"> ODA CENTRO 	プリンタの出力タイプを指定します。 ODA : ANK:半角:全角=1:1:2 CENTRO : ANK:半角:全角=1:0.75:1.5	ODA
外字変換方法	<ul style="list-style-type: none"> ドットイメージ ダウンロード文字 	外字を印字する際の出力方法を指定します。 ドットイメージ： 外字をドット列で印字します。 ダウンロード文字： プリンタに外字を登録後、印字します。 (注1)	ドットイメージ
縦罫線変換方法	<ul style="list-style-type: none"> ドットイメージ 縦罫線コード 	縦罫線コードの変換方法を指定します。 ドットイメージ： 縦罫線をドット列で印字します。このため、縦罫線で1ドット占有します。 縦罫線コード： 縦罫線コード(FS;)に変換して出力します。(注2)	ドットイメージ

(注1) プリンタの外字領域(7620₁₆)を使用するため、他のAPでプリンタの外字を使用することができなくなります。

(注2) 縦罫線コードは、プリンタによってサポートされていない場合があります。

[コード設定] のボタンで初期化コード/終了コードを指定します

コード設定

初期化コード

基本設定 全て付加 同期コード以外付加 付加しない

付加する場合の設定

印字方向 縦 横

用紙位置 中央 左端

用紙サイズ A4

追加コード(ファイル) [] ...

給紙方法

シートガイド

終了コード

基本設定 付加する 付加しない

追加コード(ファイル) [] ...

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・基本設定	<ul style="list-style-type: none"> ・全て付加 ・同期コード以外付加 ・付加しない 	<p>プリンタ出力開始時にプリンタの初期化を行うかを指定します。</p> <p>全て付加 : プリンタの初期化コードを付加します。</p> <p>付加しない : プリンタの初期化コードを付加しません。ホスト側にてプリンタを制御する場合に指定します。</p> <p>同期コード以外付加 : 同期コード(FF 0D₁₆)以外のプリンタ初期化コードを付加します。全て付加を指定してプリンタ出力開始時に白紙が一枚出力される場合に指定します。</p>	全て付加
印字方向	<ul style="list-style-type: none"> ・縦 ・横 	初期化コードの基本設定で全て付加または同期コード以外付加を指定した場合に、コードを生成するためのパラメータを設定します。	縦
用紙位置	<ul style="list-style-type: none"> ・中央 ・左端 		左端
用紙サイズ			A4
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	<p>YES: 初期化コードの基本設定に続けて指定した制御コードを追加出力します。(注)</p> <p>NO : 基本設定をそのまま初期化コードにします。</p>	NO
給紙方法	<ul style="list-style-type: none"> ・シートガイド ・トラクタフィーダ ・シートフィーダ 	プリンタの給紙機構を設定します。	シートガイド
終了コード ・基本設定	<ul style="list-style-type: none"> ・付加する ・付加しない 	<p>プリンタ出力終了時に、プリンタのバッファに残ったデータを全て出力するための制御コードを出力するかどうかを指定します。</p> <p>・付加する : プリンタの排出コードを付加します。</p> <p>・付加しない : プリンタの排出コードを付加しません。</p>	付加しない
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	<p>YES: 終了コードの基本設定に続けて指定した制御コードを追加出力します。(注)</p> <p>NO : 基本設定をそのまま初期化コードにします。</p>	NO

(注) 追加する制御コードを記述したテキストファイル名を、続くテキストボックスに入力します。既にファイルを用意してある場合は、参照ボタンにより指定することができます。追加コードファイルは、UNICODE形式で作成してください。

<PC系コード(無変換)>

詳細設定(無変換)

初期化コード

追加コード

終了コード

追加コード

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力開始時に、制御コードを追加出力します。(注) NO : 制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力終了時に、制御コードを追加出力します。(注) NO : 制御コードを追加出力しません。	NO

(注) 追加する制御コードを記述したテキストファイル名を、続くテキストボックスに入力します。既にファイルを用意してある場合は、参照ボタンにより指定することができます。追加コードファイルは UNICODE 形式で作成してください。

<PC系コード（イメージ変換）>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタタイプ	<ul style="list-style-type: none"> • ODA • CENTRO 	プリンタの出力タイプを指定します。 ODA : ANK:半角:全角=1:1:2 CENTRO : ANK:半角:全角=1:0.75:1.5	CENTRO
CRコード動作指定	<ul style="list-style-type: none"> • 復帰のみ • 復帰+改行 	印字データに CR(OD ₁₆)コードが指定された場合の動作を指定します。 復帰のみ : CRコード受付時、印字位置を行の先頭へ移動します。 復帰+改行 : CRコード受付時、印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。	復帰のみ
最大印字桁数	桁数	1行の最大印字桁数を指定します。	136
最大印字行数	行数	1ページの最大印字行数を指定します。	66
バッファフル印字動作指定	<ul style="list-style-type: none"> • 復帰のみ • 復帰+改行 	1行分の印字データが最大印字桁数を越えた場合の動作を指定します。 復帰のみ : 印字位置を行の先頭へ移動します。 復帰+改行 : 印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。	復帰+改行
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力開始時に、指定した制御コードを追加出力します。(注) NO : 制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力終了時に、指定した制御コードを追加出力します。(注) NO : 制御コードを追加出力しません。	NO

(注) 追加する制御コードを記述したテキストファイル名を、続くテキストボックスに入力します。既にファイルを用意してある場合は、参照ボタンにより指定することができます。追加コードファイルは UNICODE 形式で作成してください。

[フォント指定] のボタンで印字に使用するフォントを指定します。
 書体の種類は、必ず「日本語」を指定してください。
 なお、コード変換テーブルを使用する設定の場合は、コード変換テーブルで指定したフォントで印刷するため、この設定は無視されます。

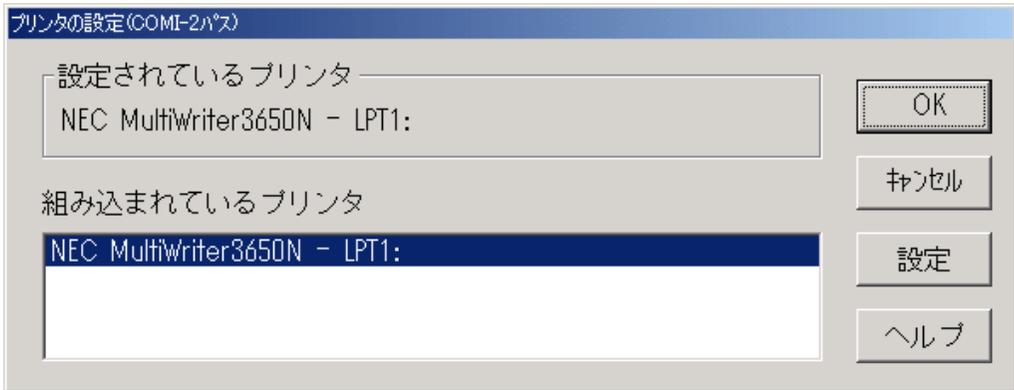


各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
フォント名	Windows で組み込んだフォント名がパラメータとして表示されます。	表示するフォント名を指定します。新しいフォントを選ぶと [サンプル] 欄にそのフォントが表示されます。 「F A JIPS 明朝」および「F A JIPS ゴシック」のいずれかを選択してください。 ※上記以外のフォントでの動作は保証いたしません	F A JIPS 明朝
スタイル	<ul style="list-style-type: none"> 標準 斜体 太字 太字 斜体 	本設定は無効。	標準
サイズ	フォントサイズのパラメータは、フォントによってそれぞれ異なります。	本設定は無効。	9 既定値は変わる場合があります。
書体の種類	フォントの言語が表示されます。	書体は、必ず“日本語”を選択します。	日本語 既定値は変わる場合があります。

⑤ プリンタの設定を行う

[プリンタ出力指定 (COMI-2)]ダイアログボックスで [プリンタ設定] ボタンを選択し、パラメータを設定します。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
設定されているプリンタ	プリンタ名	現在設定されているプリンタを表示します。 (注)	Windows で通常使うプリンタに指定されたプリンタ
組み込まれているプリンタ	プリンタ名	現在、Windows に組み込まれているプリンタの一覧が表示されます。 プリンタを指定すると設定されているプリンタの表示が変更できます。	なし

(注) 設定可能なプリンタは、[プリンタ言語] の指定により異なります。

	PC系コード			N5200系コード
	従来変換	無変換	イメージ変換	
プリンタ名	201PL 又は NPD2 に対応したプリンタ	Windows で利用可能なプリンタ	Windows で利用可能なプリンタ	PC-PTOS 対応プリンタ

イメージ変換の場合、[設定] ボタンを選択し、プリンタドライバ固有の情報を設定してください。

4.6.8 プリンタ情報を設定する(UAパス)

UAパス使用時のプリンタ情報の設定は、DCSプリンタにて行います。
詳細は、「**第5章 UAパスプリンタ設定**」を参照して下さい。

4.6.9 ハードコピー機能を指定する

グラフハードコピーの倍率およびハードコピーの印字インクを指定します。

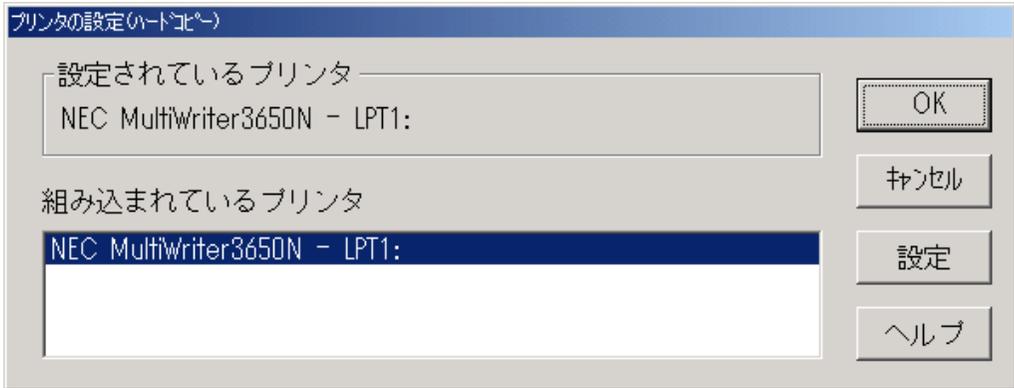
- ① [拡張パラメータ] メニューの [ハードコピー機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② パラメータを入力します。
[ハードコピー機能指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
ハードコピー倍率指定	・縦倍率 ・横倍率	ハードコピーの縦横倍率を指定します。 倍率は、フォントサイズ 10P を 100%とし、10%単位で指定します。有効範囲は、10%～990%です。なお、フォントの種類により指定可能なサイズが異なります。	縦 100% 横 100%
ハードコピーの印字インク	・モノクロ ・カラー	白黒印字かカラー印字かを指定します。	モノクロ
現在選択されている出力先プリンタ	プリンタ名	現在選択されているプリンタを表示します。	Windows で通常使うプリンタに指定されたプリンタ
通常使うプリンタ	<input checked="" type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO	出力先プリンタを Windows で設定されている「通常使うプリンタ」に出力するかどうか指定します。 YES : Windows で指定された「通常使うプリンタ」に出力します。 NO : 現在選択されているプリンタに出力します。	NO

③ プリンタの設定を行う

[ハードコピー機能指定] ダイアログボックスで [プリンタ設定] ボタンを選択し、パラメータを設定します。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
設定されているプリンタ	プリンタ名	現在設定されているプリンタを表示します。	なし
組み込まれているプリンタ	プリンタ名	現在、Windows に組み込まれているプリンタの一覧が表示されます。プリンタを指定すると設定されているプリンタの表示が変更できます。	なし

④ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.10 ETOSJX 起動時の表示情報を指定する

ETOSJX 起動時のウィンドウ表示位置と表示情報を指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [画面指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [画面指定] メニューを選択する。
- ③ パラメータを入力する。
[画面指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを設定してください。

画面指定

フルスクリーン表示
 する しない

エラーメッセージウィンドウ
 表示する 表示しない

表示位置の指定
 指定する 指定しない
表示位置
x座標 y座標

サイズの指定
 指定する 指定しない

ウィンドウサイズ
 任意指定
高さ 幅
 アイコン化表示指定
 最大化表示指定

タイトルバー
 表示する 表示しない

タイトルバー表示内容
 設定しない 設定する

OK キャンセル ヘルプ?

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
フルスクリーン表示	<ul style="list-style-type: none"> ・する ・しない 	<p>する : ETOSJX 起動時にディスプレイ全体に表示します。本機能を指定すると、ETOSJX のタイトルバーおよびメニューは表示されません。(注 1)</p> <p>しない : ETOSJX をウィンドウ表示で起動します。ウィンドウ表示位置およびウィンドウサイズは、指定により異なります。</p>	しない
エラーメッセージウィンドウ	<ul style="list-style-type: none"> ・表示する ・表示しない 	<p>表示する : ETOSJX でエラーが発生した時、エラーメッセージをポップアップウィンドウで表示します。</p> <p>表示しない : ETOSJX でエラーが発生した時、エラーメッセージを表示しません。(注 2)</p>	表示する
表示位置の指定	<ul style="list-style-type: none"> ・指定する ・指定しない 	<p>指定する : ETOSJX 起動時のウィンドウ表示位置を指定します。</p> <p>指定しない : ETOSJX 起動時のウィンドウ表示位置を指定しません。表示位置は Windows によって制御されます。</p>	指定しない
表示位置	x 座標 y 座標	ウィンドウ表示位置を指定する時にウィンドウの左上の座標を指定します。	x 座標 : 0 y 座標 : 0
サイズの指定	<ul style="list-style-type: none"> ・指定する ・指定しない 	<p>ウィンドウサイズを指定するかしないかを指定します。(注 3)</p> <p>指定する : ETOSJX 起動時のウィンドウサイズを指定します。</p> <p>指定しない : ETOSJX 起動時のウィンドウサイズを指定しません。</p>	指定しない
ウィンドウサイズ	<ul style="list-style-type: none"> ・任意指定 ・アイコン化表示指定 ・最大化表示指定 	ETOSJX 起動時のウィンドウの状態を指定します。任意指定を選択した場合は、ウィンドウのサイズを指定します。(注 4)	任意指定 高さ : 640 幅 : 400
タイトルバー	<ul style="list-style-type: none"> ・表示する ・表示しない 	ETOSJX 起動時、タイトルバーを表示するか指定します。	表示する
タイトルバー表示内容	<ul style="list-style-type: none"> ・設定しない ・設定する 	<p>設定しない : ETOSJX 起動時にリソース名をタイトルバーに表示します。</p> <p>設定する : ETOSJX 起動時に、続くテキストボックスに入力した文字をタイトルバーに表示します。</p>	設定しない

(注1) ETOSJX 起動時にマウスカーソルは、画面右下へ位置付きます。

(注2) エラーコードはステータスバーにも表示されます。エラーメッセージを表示しない場合、ETOSJX で [ヘルプ] メニューの [エラー詳細] を選択すると、エラーの内容を確認することができます。

(注3) ウィンドウサイズは、フォント指定(可変/固定、フォントサイズ)によって異なります。可変フォントの場合、ウィンドウサイズを指定するとフォントサイズを補正して表示します。

(注4) ETOSJX の制限(80 桁×24 行、80 桁×48 行)により、設定した値に一番近い値でウィンドウ表示します。

4.6.11 ETOSJX 起動時の画面補助機能をカスタマイズする

ETOSJX 起動時のメニュー、ステータスバー、ツールバーの表示情報を指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [画面指定] を選ぶ。
- ② [画面補助指定] メニューを選択する。
- ③ パラメータを入力する。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
メニュー	・表示する ・表示しない	表示する : ETOSJX 起動時にメニューを表示します。メニューの編集も可能です。 表示しない : ETOSJX 起動時にメニューを表示しません。	表示する
ステータスバー	・表示する ・表示しない	表示する : ETOSJX 起動時にステータスバーを表示します。 表示しない : ETOSJX 起動時にステータスバーを表示しません。	表示する
ツールバー	・表示する ・表示しない	表示する : ETOSJX 起動時にツールバーを表示します。表示するツールバーの編集も可能です。 表示しない : ETOSJX 起動時にツールバーを表示しません。	表示する
ボタンサイズ	・小さいボタン ・大きいボタン	ツールバーで表示するボタンのサイズを指定します。	小さいボタン
キーボードとして使用	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : ツールバーをポップアップウィンドウとして ETOSJX の画面から切り離して起動します。 NO : ツールバーを ETOSJX の画面にドッキングさせて起動します。	NO

- ④ メニューの編集を行う。
画面補助指定ダイアログでメニュー編集ボタンを選択し、パラメータを設定します。
(本画面をメニューカスタマイズメイン画面と呼びます)

メニュー名	表示	使用	表示メニュー
送信	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	送信 詳細
セッション	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	セッション 詳細
ファイル転送	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ファイル転送 詳細
編集	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	編集 詳細
表示	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	表示 詳細
マクロ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	マクロ 詳細
オプション	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	オプション 詳細
ヘルプ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ヘルプ 詳細
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/> 詳細

既定値 OK キャンセル ヘルプ 前画面 次画面

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
表示		YES : 該当するメニューを表示します。 NO : 該当するメニューを表示しません。	YES
使用	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : メニューに割り当てられた機能をメニューから選択可能とします。なお「表示」項目で「NO」を選択した場合はここで「YES」を選択しても無効となります。 NO : メニューに割り当てられた機能をメニューから選択不可とします。	YES
表示メニュー	なし	ETOSJX のウィンドウのメニューに表示される文字列を指定します。指定できる文字の長さは最大 27 文字(半角)です。	それぞれ左端に表示されているメニュー名

[既定値] ボタンを押すと全てのパラメータが既定値にリセットされます。

[詳細] ボタンを押すと、該当メニューの下位レベルのメニューコマンドに対するカスタマイズのダイアログボックスが表示されます。メニューカスタマイズメイン画面での設定と同様にパラメータを設定してください。

送信メニューのカスタイズ 1 / 5

メニュー名	表示	使用	表示メニュー	
PF 1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 1	詳細
PF 2	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 2	詳細
PF 3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 3	詳細
PF 4	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 4	詳細
PF 5	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 5	詳細
PF 6	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 6	詳細
PF 7	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 7	詳細
PF 8	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 8	詳細
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		詳細

既定値 OK キャンセル ヘルプ 前画面 次画面

[既定値] ボタンを押すと全てのパラメータが既定値にリセットされます。
同一レベルのメニューコマンドが多数存在する場合 [次画面] ボタンが表示されます。

[次画面] ボタンを押すと、次のメニューコマンド画面が表示されます。この場合、[前画面] ボタンが表示されますので、[前画面] ボタンを押すことにより前のメニューコマンド画面へ戻ることができます。

送信メニューのカスタイズ 2 / 5

メニュー名	表示	使用	表示メニュー	
PF 9	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 9	詳細
PF 10	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 10	詳細
PF 11	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 11	詳細
PF 12	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 12	詳細
PF 13	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 13	詳細
PF 14	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 14	詳細
PF 15	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 15	詳細
PF 16	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 16	詳細
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		詳細

既定値 OK キャンセル ヘルプ 前画面 次画面

⑤ ツールバーを編集する

[画面補助指定] ダイアログで [ツールバー編集] ボタンを選択し、使用するツールバーの登録/編集を行います。



- ・ ツールバーにボタンを登録する
 - 〔登録一覧〕の登録する位置にカーソルを合わせます。
 - 〔アイテム一覧〕の登録するボタンにカーソルを合わせます。
 - 〔←挿入〕ボタンを選択し、ボタンを登録します(〔アイテム一覧〕の登録するボタンのダブルクリックでも登録できます)。
- ・ ツールバーからボタンを削除する
 - 〔登録一覧〕の削除する位置にカーソルを合わせます。
 - 〔→削除〕ボタンを選択し、ボタンを削除します(〔登録一覧〕の削除するボタンのダブルクリックでも削除できます)。
- ・ ツールバーのボタンの位置を移動する
 - 〔登録一覧〕の移動したいボタンにカーソルを合わせます。
 - 〔↑へ移動〕または〔↓へ移動〕ボタンを選択し、ボタンを移動します。
- ・ ツールバーの設定を既定値へ戻す
 - 〔既定値〕ボタンを押します。

各パラメータの説明

項目名	説明
登録一覧	ツールバーで表示するボタンの一覧です。
アイテム一覧	ツールバーに登録可能なボタンの一覧です。 既に登録済みのボタンは表示されません。

各アイテムの説明

ボタン	機能	既定値
 ツールバー/キーパッド切替	登録したボタンをツールバーとして表示するか、キーパッドとして表示するかを切り替えます。	登録一覧
 実行/送信	画面データを送信します。 (実行/送信キーと同じ動作)	
 PF1 ～  PF15	PF1～PF15 機能を実行します。 (プログラムファンクションキー (PF1～PF15) と同じ動作)	
 I  II  III	I、II、IIIキーを送信します。 (I、II、IIIキーと同じ動作) (注1)	
 マクロ実行	[マクロファイルを選択] ダイアログを表示し、ここで指定したマクロを実行します。	
 マクロ実行(記録)終了	・マクロ実行中の場合、実行中のマクロを強制終了します。 ・マクロ記録中の場合、[マクロファイルの保存] ダイアログを表示し、操作内容を保存します。	
 マクロ記録開始	マクロの記録を開始します。 このボタン押下後、マクロ記録終了ボタンを押すまでの操作が記録可能です。	
 スナップショットダンプ	スナップショットダンプを採取します。 障害発生時に資料を採取する際に使用します。	

ボタン	機能	既定値
 PF16 ～  PF24	PF16～PF24 機能を実行します。 (プログラムファンクションキー (PF16～PF24) と同じ動作) (注 1)	アイテム一覧
 割込	COMI-2 パスのファイル転送を中断します。 (割込キーと同じ動作)	
 全項消去	全項目内の文字を消去します。 (全項消去キーと同じ動作)	
 全消去(クリア)	画面をクリアし、不定様式にします。 (全消去(クリア)キーと同じ動作)	
 項消去	項目内の文字を消去します。 (項消去キーと同じ動作)	
 チェックオフ	フィールドのチェックキーを無効にします。 (チェックオフキーと同じ動作)	
 コマンド入力	[コマンド入力] ダイアログを表示します。 (コマンド入力キーと同じ動作)	
 COPY-ID	COPY キーID を送信します。 (注 2)	
 HELP-ID	HELP キーID を送信します。 (HELP ID キーと同じ動作) (注 2)	
 STOP-ID	STOP キーID を送信します。 (STOP ID キーと同じ動作) (注 2)	
 DEV CANCEL	DEV CANCEL キーID を送信します。 (DEV CANCEL キーと同じ動作) (注 1)	
 ERASE EOF	ERASE EOF キーID を送信します。 (ERASE EOF キーと同じ動作) (注 1)	
 IDENT	IDENT キーID を送信します。 (IDENT キーと同じ動作) (注 1)	
 復改	次行以降の入力フィールドに移動します。 (復改キーと同じ動作)	
 リセット	エラー表示のリセットを行います。 (リセットキーと同じ動作)	
 再開	中断していた処理を再開します。 (再開キーと同じ動作)	
 セッション切換	[セッション切換] ダイアログを表示します。 (セッション切換キーと同じ動作) (注 1)	

ボタン	機能	既定値
 ローカル画面表示	[ローカル画面の表示(番号指定)] ダイアログを表示し、ここで指定した番号のローカル画面を表示します。	アイテム一覧
 ハードコピー(文字)	文字のハードコピーを取ります。 (HCOPY 文字と同じ動作)	
 ハードコピー (すべて)	全情報のハードコピーを取ります。 (HCOPY 文字+罫線+グラフと同じ動作)	
 ハードコピー (文字+罫線)	文字+罫線のハードコピーを取ります。 (HCOPY 文字+罫線と同じ動作)	
 ハードコピー (グラフ)	グラフのハードコピーを取ります。 (HCOPY グラフと同じ動作)	
 複写	指定範囲の文字をクリップボードへコピーします。	
 貼り付け	クリップボード上の文字を画面へ貼り付けます。[編集]メニュー [文字貼り付け] メニューコマンドの [項目] を選択した場合と同一の結果が得られます。	
 カーソル右移動	カーソルを1桁右へ移動します。 (カーソル右移動キーと同じ動作)	
 カーソル左移動	カーソルを1桁左へ移動します。 (カーソル左移動キーと同じ動作)	
 カーソル下移動	カーソルを1行下へ移動します。 (カーソル下移動キーと同じ動作)	
 カーソル上移動	カーソルを1行上へ移動します。 (カーソル上移動キーと同じ動作)	
 バックスペース	カーソル位置の1桁前の文字を削除します。 (バックスペースと同じ動作)	
 スキップ	次の入力フィールドに進みます。 (Skip と同じ動作)	
 バックスキップ	前の入力フィールドに戻ります。 (BackSkip と同じ動作)	
 挿入モード変更	挿入/上書きの切り替えを行います。 (挿入キーと同じ動作)	
 削除	カーソル位置の文字を1文字削除します。 (削除キーと同じ動作)	

ボタン	機能	既定値
 HOME	先頭の入力フィールドに移動します。 (カーソルホームキーと同じ動作)	アイテム一覧
 TAB	入力フィールドでの入力を終了します。 (TABと同じ動作)	
 優先機能変更	優先機能(SW状態)を変更します。 (SWキーと同じ動作) (注3)	
 パラメータ情報保存	ETOSJXの現在の設定情報をPGファイルに保存します。 (Ctrl + S と同じ動作)	
 パラメータ変更	[パラメータ変更]ダイアログを表示します。 (パラメータ変更キーと同じ動作)	
 ETOSJX 強制終了	ETOSJXを強制終了します。 (プログラム終了キーと同じ動作)	

(注1) IBM エミュレートモード時のみ使用可能か、通常と異なる機能となります。

IBM エミュレートモードについてはホスト側サポート状況等を確認してください。

(注2) ホスト側で本IDをサポートしているか確認が必要です。

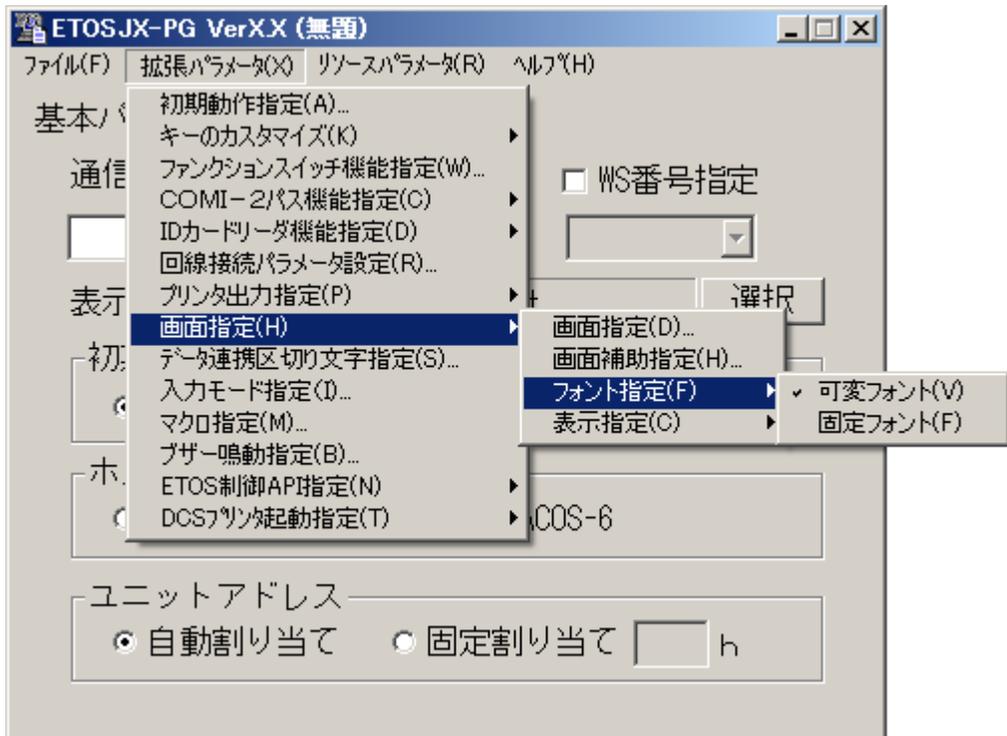
(注3) SW状態は、制御領域に表示します。SW状態による優先順位は以下の通りです。

SW状態表示	高	← 優先順位	→ 低
表示なし	マクロ	ローカル画面	ID送信
SW(MET)	マクロ	ローカル画面	ID送信
SW(GFM)	ローカル画面	マクロ	ID送信
SW(ID)	ID送信	マクロ	ローカル画面

4.6.12 表示フォントを指定する

ETOSJX ウィンドウで表示されるフォントを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [画面指定] メニューコマンドを選択する。
- ② 可変フォントを指定する場合には [フォント指定] メニューの可変フォントを選択する。
[可変フォント] メニューにチェックマークが付加され基本パラメータ入力画面に戻ります。
- ③ 固定フォントを指定する場合には [フォント指定] メニューの固定フォントを選択する。
[固定フォント] メニューにチェックマークが付加され基本パラメータ入力画面に戻ります。



4.6.13 画面表示色を指定する

(1) 画面のテキストの色指定を行う

- ① [拡張パラメータ] メニューの [画面指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [表示指定] メニューの [テキスト表示指定] メニューを選択する。
[テキスト表示指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
背景色	・黒	画面の背景色を指定します。	黒
罫線色	・赤	画面の罫線色を指定します。	緑
テキスト表示色	・青 ・マゼンタ ・緑 ・黄 ・シアン ・白 ・暗いグレー ・暗い赤 ・暗い青 ・暗いマゼンタ ・暗い緑 ・茶 ・暗いシアン ・明るいグレー	テキスト表示色を指定します。 ETOSJX 画面で使用するテキスト表示色を変更する場合、基本色7色に対してそれぞれ任意の色を指定します。 テキスト表示色は、テキスト背景色とは別の色にしてください。	赤：赤 青：青 マゼンタ：マゼンタ 緑：緑 黄：黄 シアン：シアン 白：白

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
背景色	<ul style="list-style-type: none"> ・黒 ・白 	グラフ画面の背景色を指定します。	黒
グラフ表示色	<ul style="list-style-type: none"> ・黒 ・赤 ・青 ・マゼンタ ・緑 ・黄 ・シアン ・白 ・暗いグレー ・暗い赤 ・暗い青 ・暗いマゼンタ ・暗い緑 ・茶 ・暗いシアン ・明るいグレー 	<p>グラフ表示色を指定します。ETOSJX 画面で使用するグラフ表示色を変更する場合、基本色7色に対してそれぞれ任意の色を指定します。</p> <p>グラフ表示色は、グラフ背景色とは別の色にしてください。</p>	赤：赤 青：青 マゼンタ：マゼンタ 緑：緑 黄：黄 シアン：シアン 白：白
グラフ表示モード	<ul style="list-style-type: none"> ・精細 ・高速 	グラフ描画を精細に行うか、高速に行うかを指定します。高速モードを指定した場合、表示される線種は制限されます(代替の線で表示されます)。	高速
グラフ解像度指定	<input checked="" type="checkbox"/> :YES <input type="checkbox"/> :NO	<p>グラフ表示時の解像度を指定します。</p> <p>YES: 以下のいずれかのグラフ解像度を指定します。</p> <p>640×384 : PC9800 DOS 互換モード 640×456 : N5200/03 互換モード 1120×720 : N5200/07 互換モード</p> <p>NO : グラフの解像度を指定しません。</p> <p>Windows のディスプレイ解像度により 800×600 未満の場合は 640×384、800×600 以上の場合は 1120×720 となります。</p> <p>(注) 倍画面モード(ファンクションスイッチ 2-8:ON)の時は 1120×1440 固定で動作します。</p>	NO

- ③ [OK] ボタンを押す。
 設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.15 データ連携の区切り文字を指定する

文字列のコピー時および貼り付け時のフィールドの区切り文字を指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [データ連携区切り文字指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② パラメータを入力する。
[データ連携区切り文字指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
コピー時	<ul style="list-style-type: none"> • TAB • スペース • ユーザ指定 	文字列をクリップボードにコピーする時に、同一行内のフィールドの区切りとする文字を指定します。	TAB
貼り付け時	<ul style="list-style-type: none"> • TAB • スペース • ユーザ指定 	項目貼り付けをする時に、クリップボード内の文字列中にあるフィールドの区切りとする文字を指定します。	TAB

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.16 入力モードを指定する

ETOSJX へ文字入力する時の、動作方法を指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [入力モード指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② パラメータを入力する。
[入力モード指定] ダイアログボックスが、オープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

入力モード指定

先行打鍵機能

使用する 使用しない

IME制御

かな入力指定

無効 有効

入力モード

ローマ字 かな

漢字フィールドかな漢起動

起動する 起動しない

ひらがな

継続入力

ANKフィールドかな漢自動終了

終了する 終了しない

混在フィールドかな漢自動終了

終了する 終了しない

N5200系既定値 既定値 OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
先行打鍵機能	<ul style="list-style-type: none"> 使用する 使用しない 	使用する : 入力不可状態でキー入力されたデータを入力可能な状態まで保留します。 使用しない : 入力不可状態ではキー入力は無効です。	使用しない
IME 制御 (注 1)	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : カナシフト指定、入力モード、漢字フィールドかな漢起動、ANK フィールドかな漢自動終了、混在フィールドかな漢自動終了の設定を有効にします。 NO : カナシフト指定、入力モード、漢字フィールドかな漢起動、ANK フィールドかな漢自動終了、混在フィールドかな漢自動終了の設定を無効にします。	YES
カナシフト指定	<ul style="list-style-type: none"> 無効 有効 	無効 : カナシフトフィールド(注 2)でのカナシフトの自動制御を行いません。 有効 : カナシフト指定フィールドにカーソルが位置付いた場合、カナ入力モードに変更します。また、カナシフト指定以外のフィールドにカーソルが位置付いた場合、カナ入力モードを解除します。(注 3)	無効
入力モード (注 4)	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字 かな 	ローマ字 : 入力モードをローマ字入力に変更します。 かな : 入力モードをかな入力に変更します。	ローマ字
漢字フィールド かな漢起動	<ul style="list-style-type: none"> 起動する 起動しない 	起動する : 漢字フィールドにカーソルが位置付いた時、日本語入力システムを起動します。 起動しない : 漢字フィールドにカーソルが位置付いても、日本語入力システムを起動しません。	起動しない
漢字フィールド かな漢起動 ・起動する	<ul style="list-style-type: none"> ひらがな 継続入力 	上記で「起動する」を選択した場合、以下の設定を選択します。 ひらがな : 漢字フィールドへ位置付く毎に入力文字を「ひらがな」にします。 継続入力 : 漢字フィールドへ位置付いた際に日本語入力システムを前回と同じ状態で起動します。	継続入力
ANK フィールド かな漢自動終了	<ul style="list-style-type: none"> 終了する 終了しない 	終了する : 漢字フィールドでも混在フィールドでもないフィールドに位置付いた時、日本語入力システムを終了します。 終了しない : 漢字フィールドでも混在フィールドでもないフィールドに位置付いても、日本語入力システムは終了しません。	終了する

混在フィールド かな漢自動終了	・終了する ・終了しない	終了する : 混在フィールドに位置付いた時、日本語入力システムを終了します。 終了しない : 混在フィールドに位置付いても、日本語入力システムは終了しません。	終了しない
--------------------	-----------------	--	-------

- (注1) Windows 10、Windows Server 2016 では、ETOSJX の IME 制御を有効にすると、他のアプリケーションの IME の状態に影響することがあります。
問題がある場合は、ETOSJX の IME 制御を無効にするか、アプリケーションごとに IME の状態を保持するよう OS の設定を変更してください。
- (注2) カナシフトフィールドについては、リファレンスマニュアル「アトリビュート文字」の ATR3(アトリビュート3)を参照してください。
- (注3) 使用する日本語入力システムによっては、自動制御できないことがあります。
- (注4) ETOSJX の IME 制御を無効にした場合も、制御領域に入力モード(ローマ字/かな)が表示されますが、実際の入力モードは IME の動作状態に依存します(表示と一致しない場合があります)。
- (注5) 「付録A 注意事項」－「文字の入力と画面表示に関する注意事項」も参照してください。

[既定値]、[N5200 系既定値] ボタンを押した時、全てのパラメータが以下の既定値に設定されます。

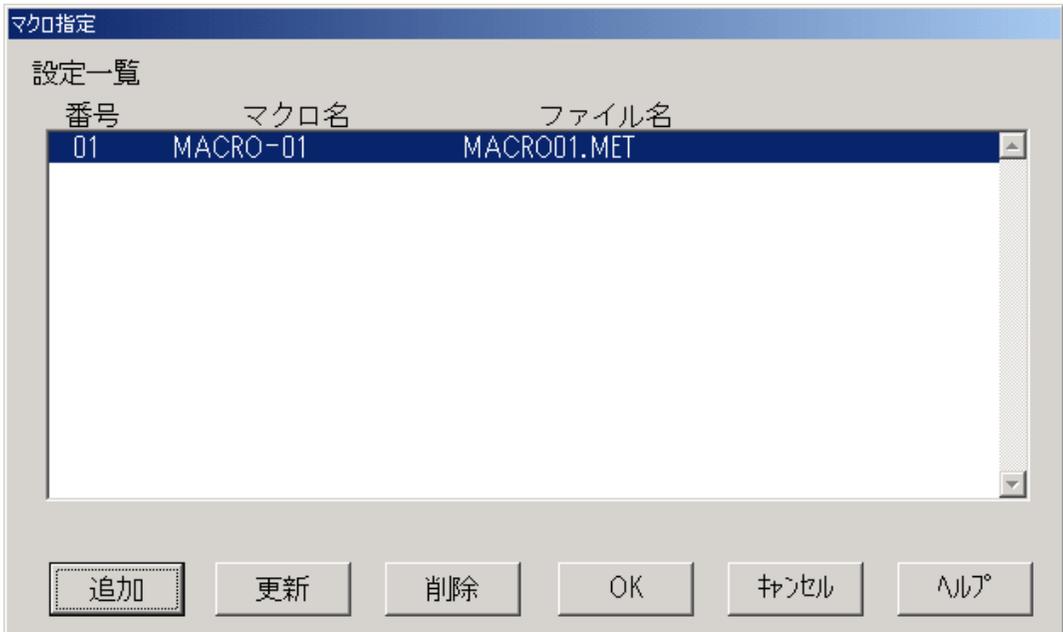
項目名	既定値	N5200 系既定値
先行打鍵機能	使用しない	使用しない
IME 制御	YES	YES
カナシフト指定	無効	有効
入力モード	ローマ字	ローマ字
漢字フィールドかな漢起動	起動しない	起動する(ひらがな)
ANK フィールドかな漢自動終了	終了する	終了する
混在フィールドかな漢自動終了	終了しない	終了する

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.17 マクロファイルを指定する

マクロ機能のファイルの登録／削除を行います。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [マクロ指定] メニューコマンドを選ぶ。
[マクロ指定] ダイアログボックスがオープンします。
登録されているマクロの一覧が表示されます。



- ② マクロファイルを登録する場合は、[追加] ボタンを押す。
 [マクロ指定] ダイアログボックスがオープンします。
 各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。
 パラメータ入力後、[OK] ボタンを押してください。

The image shows a dialog box titled 'マクロ指定' (Macro Specification). It has three input fields: 'マクロ番号' (Macro Number) containing '01', 'マクロ名' (Macro Name) containing 'MACRO-01', and 'ファイル名' (File Name) which is empty. At the bottom, there are three buttons: 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ' (Help).

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
マクロ番号	なし	マクロ番号を指定します。マクロ使用時は、この番号を使用します。有効範囲は、01～25です。	01～25
マクロ名	なし	マクロ番号に名前をつけます。マクロの名前は、16文字まで入力できます。	MACRO-01～MACRO-25
ファイル名	なし	マクロファイル名を指定します。	なし

- ③ マクロ設定を変更する場合は、変更するマクロ番号にカーソルを合わせて、[更新] ボタンを押す。もしくは、変更するマクロ番号をダブルクリックする。
 [マクロ指定] ダイアログボックスがオープンします。
 各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。
- ④ 登録されているマクロを削除する場合は、削除するマクロ番号にカーソルを合わせて、[削除] ボタンもしくは [Delete] キーを押す。
 選択されているマクロが、一覧より削除されます。
- ⑤ [OK] ボタンを押す。
 設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.18 ブザー鳴動を指定する

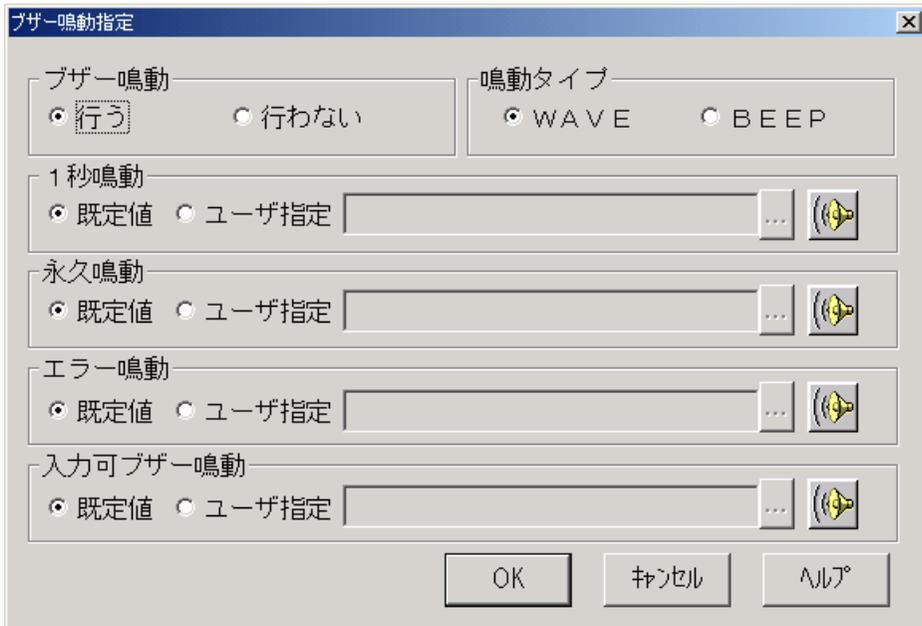
ETOSJX の使用するブザー音の設定を行います。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [ブザー鳴動指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② パラメータを入力する。

[ブザー鳴動指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

また、 ボタンを押すと、ブザー音のテストが可能です。

(永久鳴動のテストを終了させるには、 ボタンを押してください。)



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
ブザー鳴動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行う ・ 行わない 	ブザー鳴動を行うかどうかを指定します。	行う
鳴動タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・ WAVE ・ BEEP 	ブザー鳴動を行う音源を指定します。スピーカが接続されていない場合、BEEP を選択してください。	WAVE
1秒鳴動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既定値 ・ ユーザ指定 	IND コマンドで 1 秒鳴動指定の場合のブザー音を指定します。ユーザ指定を選択した場合は、任意の WAVE ファイルを指定してください。	既定値
永久鳴動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既定値 ・ ユーザ指定 	IND コマンドで永久鳴動指定の場合のブザー音を指定します。ユーザ指定を選択した場合は、任意の WAVE ファイルを指定してください。	既定値
エラー鳴動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既定値 ・ ユーザ指定 	エラー発生時のブザー音を指定します。ユーザ指定を選択した場合は、任意の WAVE ファイルを指定してください。	既定値
入力可ブザー鳴動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既定値 ・ ユーザ指定 	入力可指定の画面を受信した場合のブザー音を指定します。ファンクションスイッチ 1 の BIT6 をチェックした場合のみ有効となります。ユーザ指定を選択した場合は、任意の WAVE ファイルを指定してください。	既定値

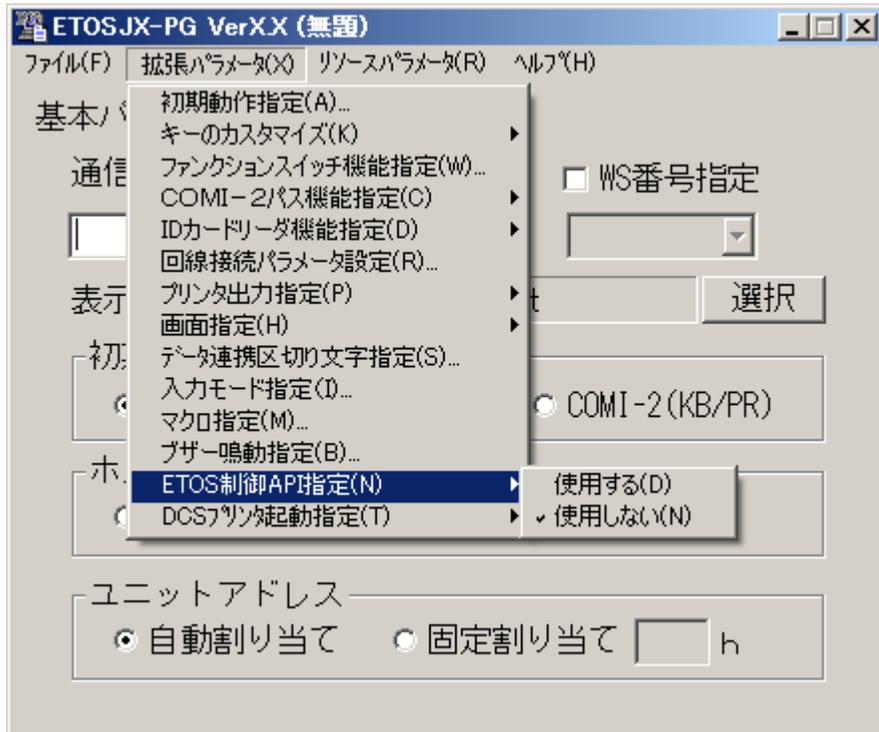
※WAVE ファイルが使用できない環境では BEEP 以外の設定は行えません。

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.19 ETOS 制御 API 機能を指定する

ETOS 制御 API 機能を使用するかどうかを指定します。

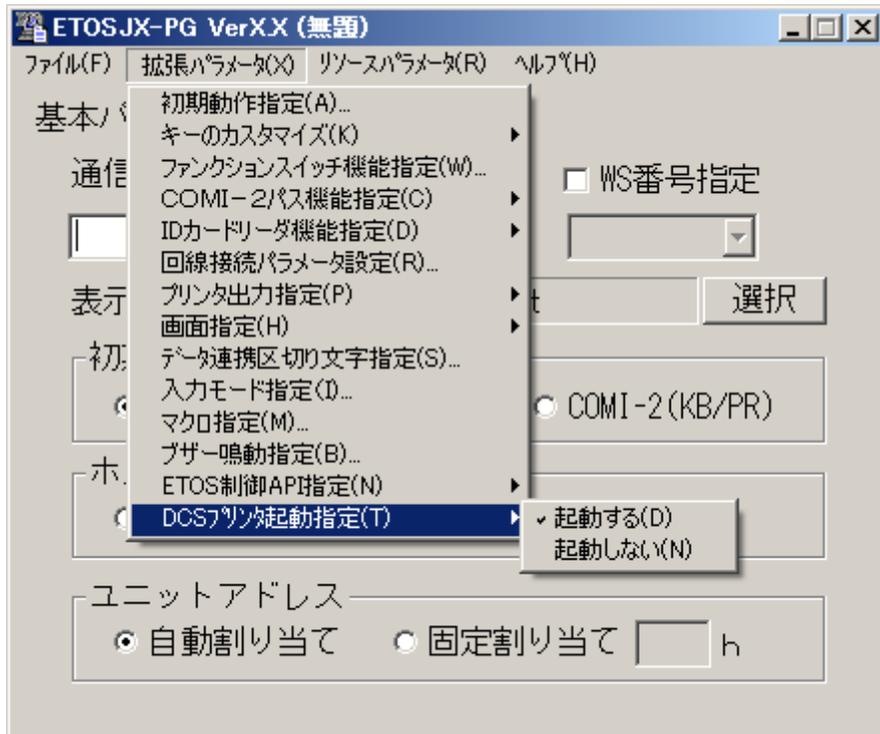
- ① [拡張パラメータ] メニューの [ETOS 制御 API 指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② ETOS 制御 API 機能を使用する場合には [使用する] を選択する。
[使用する] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。
- ③ ETOS 制御 API 機能を使用しない場合には [使用しない] を選択する。
[使用しない] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。



4.6.20 DCSプリンタの起動を指定する

ETOSJX 起動時に DCS プリンタを起動するかどうかを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [DCSプリンタ起動指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② DCS プリンタを起動する場合には [起動する] を選択する。
[起動する] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。
- ③ DCS プリンタを起動しない場合には [起動しない] を選択する。
[起動しない] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。



4.7 リソースパラメータを入力する

リソースパラメータの設定を行います。

リソースパラメータは、[リソースパラメータ]メニューのメニューコマンドを使って設定します。

4.7.1 ローカル画面機能の設定をする

拡張ローカル画面の使用の有無、および、ローカル画面ファイル名を指定します。

- ① [リソースパラメータ] メニューの [ローカル画面指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② パラメータを入力する。
[ローカル画面指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
拡張ローカル画面	・使用する ・使用しない	拡張ローカル画面の使用／不使用を指定します。	使用しない
ファイル名	なし	ローカル画面ファイルのファイル名を指定します。指定するファイルがカレントディレクトリにない場合には、ドライブやディレクトリも指定します。ローカル画面ファイル名は255文字まで入力できます。	GFORM00

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.7.2 UAパス機能を指定する

UAパスを使用する場合の各種機能の設定を行います。

- ① [リソースパラメータ] メニューの [UAパス拡張機能] メニューコマンドを選ぶ。
- ② パラメータを入力する。

[UAパス拡張機能] ダイアログボックスが、オープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
DCSメッセージ機能	<ul style="list-style-type: none"> ・利用しない ・利用する ・一定時間表示 	DCS からメッセージを表示するかを指定します。 利用しない： メッセージが表示されません。 利用する： メッセージが表示されます。 一定時間表示： メッセージが一定時間表示されます。	利用しない

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.7.3 UA パスファイル受信終了時の自動起動アプリケーションを設定する

- ① [リソースパラメータ] メニューの [UA パスアプリケーション自動起動設定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② パラメータを入力する。
[アプリケーション自動起動設定] ダイアログボックスが、オープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
受信ファイル名	なし	UA パスファイル転送で受信するファイル名を指定します。 12文字まで入力できます。	なし
実行アプリケーション名	なし	UA パスファイル転送で受信したファイル名が、設定した受信ファイル名と一致した場合に起動するアプリケーションを指定します。 (注意)	なし

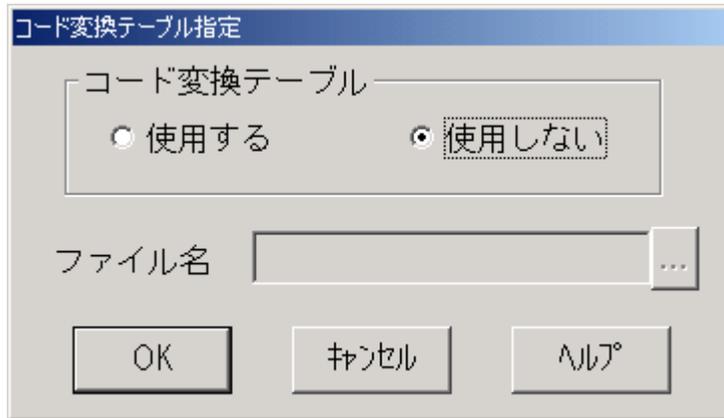
(注意)

- 1) 指定したアプリケーションが実行される場合、実行ファイルの第1引数として、受信ファイル名が指定されます。
また、実行アプリケーション名は、フルパスで指定してください。
- 2) ファイル名以外の引数を指定することはできません。

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.7.4 コード変換テーブルを設定する

- ① [リソースパラメータ] メニューの [コード変換テーブル指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② パラメータを入力する。
[コード変換テーブル指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
コード変換テーブル	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する ・使用しない 	<p>使用する :</p> <p>画面テキスト表示、グラフ文字表示、画面送信および COMI-2 ファイル転送、COMI-2 プリンタ出力におけるコード変換 (JIPS\leftrightarrowUnicode) を、コード変換テーブルを使用して行います。(注)</p> <p>使用しない :</p> <p>画面テキスト、グラフ文字表示、画面送信および、COMI-2 ファイル転送、COMI-2 プリンタ出力におけるコード変換 (JIPS\leftrightarrowUnicode) にコード変換テーブルを使用しません。</p>	使用しない
ファイル名	なし	コード変換に使用するテーブルファイル名を指定します。	なし

(注) コード変換テーブルについての詳細は「FontAvenue UniAssist JIPS 文字セット」のマニュアルを参照してください。なお、ANK 文字コードと ANK 以外の文字コードを関連付けた場合の動作は保証いたしません。

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.7.5 DCS エラー鳴動を設定する

- ① [リソースパラメータ] メニューの [DCS エラー鳴動指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② パラメータを選択する。
[DCS エラー鳴動指定] ダイアログボックスが、オープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

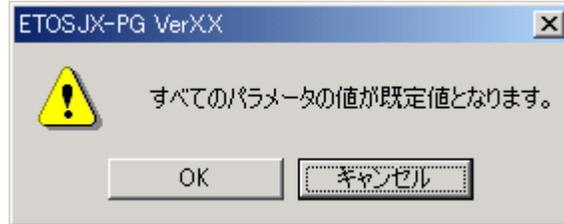
項目名	パラメータ	説明	既定値
DCS エラー鳴動	<ul style="list-style-type: none"> ・する ・しない 	<p>する : DCS (ローカル画面の書き込み等) でエラーが発生した場合、エラー表示と同時にブザー鳴動します。</p> <p>しない : DCS (ローカル画面の書き込み等) でエラーが発生しても、ブザー鳴動しません。</p>	しない

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.8 全パラメータに既定値をセットする

すべてのパラメータ（基本パラメータ、拡張パラメータ、リソースパラメータ）に既定値をセットします。

- ① [ファイル] メニューの [新規] を選ぶ。
- ② 既定値をセットすることを確認するダイアログボックスがオープンする。



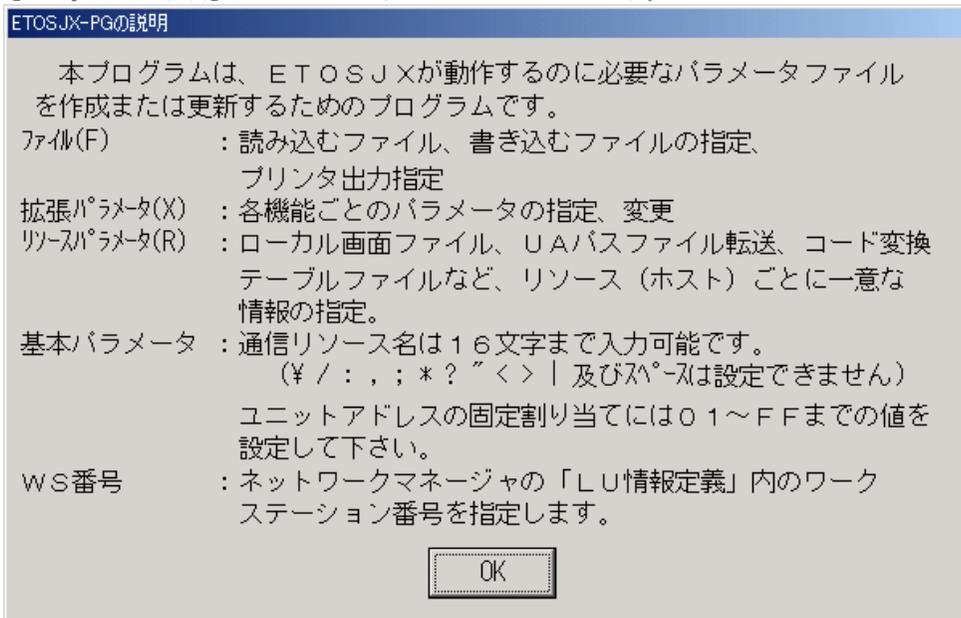
- ③ [OK] ボタンを押す。
すべてのパラメータに既定値をセットし、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.9 ヘルプを使う

ETOSJX-PG のバージョン情報や操作方法は、ヘルプを使って調べることができます。

(1) ETOSJX-PG の説明を見る場合

- ① [ヘルプ] メニューの [ETOSJX-PG の説明] を選ぶ。
- ② ETOSJX-PG の説明を確認する。
[ETOSJX-PG の説明] ダイアログボックスがオープンします。



- ③ [OK] ボタンを押す。
基本パラメータ入力画面に戻ります。

(2) ETOSJX-PG のバージョン情報を見る場合

- ① [ヘルプ] メニューの [バージョン情報] メニューコマンドを選ぶ。
- ② バージョン情報を確認する。
[ETOSJX-PG のバージョン情報] ダイアログボックスがオープンします。
バージョン情報を確認してください。



- ③ [OK] ボタンを押す。
もとの画面に戻ります。

(3) ETOSJX-PG の操作方法を見る場合

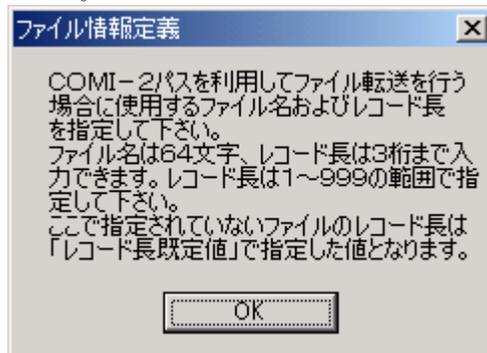
- ① 各ダイアログボックス内の [ヘルプ] ボタンを押す。

ファイル情報定義			
ファイル名	レコード長	ファイル名	レコード長
FI00	...	FI10	...
FI01	...	FI11	...
FI02	...	FI12	...
FI03	...	FI13	...
FI04	...	FI14	...
FI05	...	FI15	...
FI06	...	FI16	...
FI07	...	FI17	...
FI08	...	FI18	...
FI09	...	FI19	...

レコード長既定値

② 操作方法を確認する。

ダイアログボックスがオープンします。
操作方法を確認してください。



③ [OK] ボタンを押す。

もとの画面に戻ります。

4.10 作成したファイルを保存する

作成したパラメータファイルを保存します。

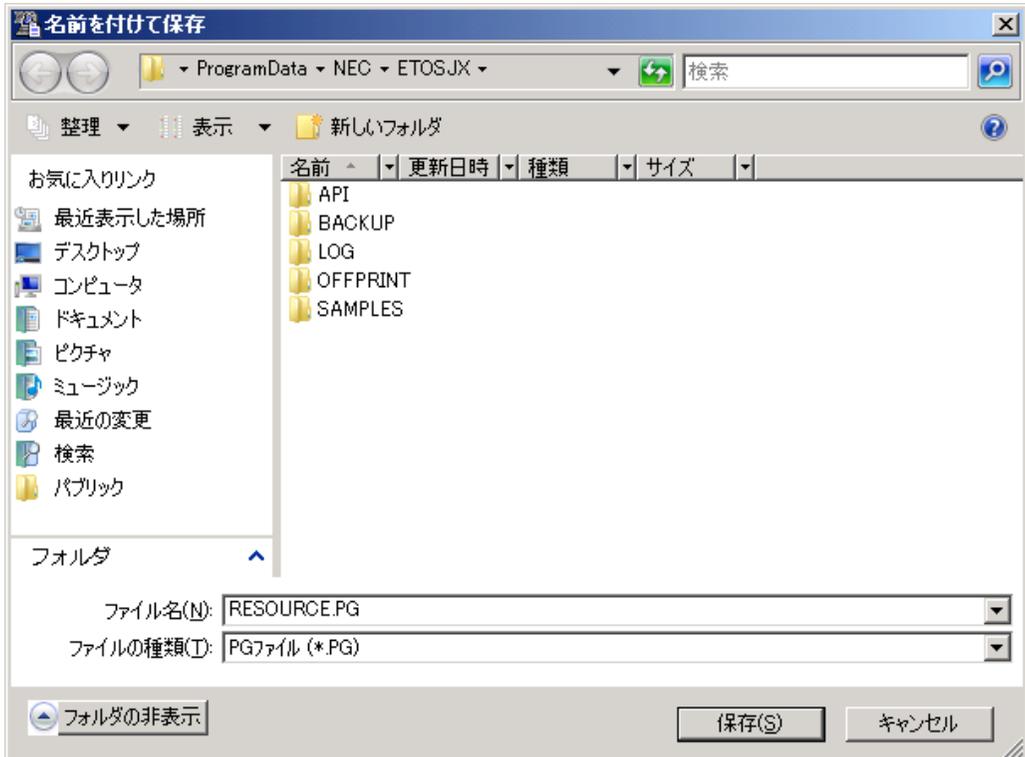
(1) 指定のファイル名で保存する

① [ファイル] メニューの [名前を付けて保存] を選ぶ。

② 保存するファイル名を指定する。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスがオープンします。

[ファイル名] テキストボックスに、作成または更新したパラメータを保存するパラメータファイル名を入力してください。



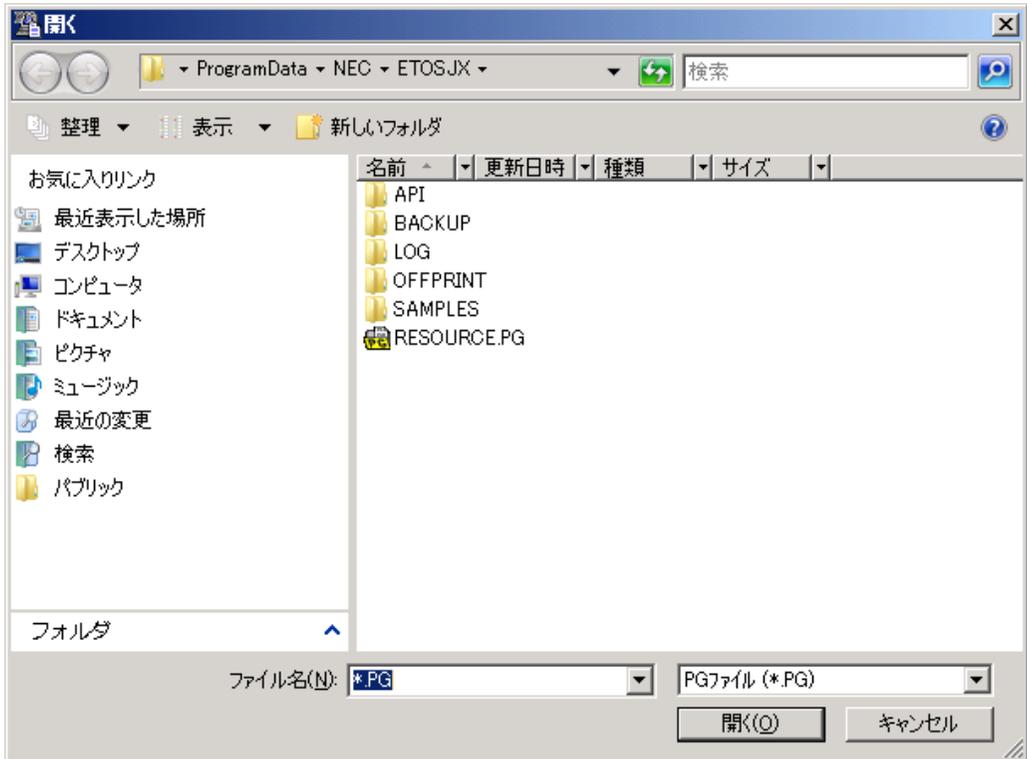
③ [保存] ボタンを押す。

新規作成または更新されたパラメータがパラメータファイルに保存され、基本パラメータ入力画面に戻ります。

- (2) 読み込んだファイルに上書きで保存する。
 - ① [ファイル] メニューの [上書き保存] メニューコマンドを選ぶ。
読み込んだファイルに更新されたパラメータが保存されます。

4.11 作成したファイルを開く

- ① [ファイル] メニューの [開く] メニューコマンドを選ぶ。
- ② オープンするファイル名を指定する。
[開く] ダイアログボックスがオープンします。
[ファイル名] テキストボックスに、オープンするパラメータファイル名を入力します。
指定するファイル名がカレントディレクトリにない場合は、ディレクトリやドライブを [ディレクトリ] 一覧や [ドライブ] 一覧で指定します。



- ③ [開く] ボタンを押す。
ダイアログボックスが消え、指定したファイルを開きます。

4.12 パラメータファイルを印刷する

パラメータファイルの内容をプリンタに出力します。

- ① [ファイル] メニューの [開く] メニューコマンドを使って、印刷するパラメータファイルをオープンする。
- ② [ファイル] メニューの [プリンタ出力] メニューコマンドを選ぶ。
- ③ 印刷を開始することを確認するダイアログボックスがオープンする。



- ④ 出力先のプリンタ、印刷範囲および印刷部数を設定します。



- ⑤ [OK] ボタンを押す。
ダイアログボックスがクローズし、指定したプリンタからパラメータファイルの内容が印刷されます。

パラメータファイルは、次のフォーマットでプリンタに出力されます。

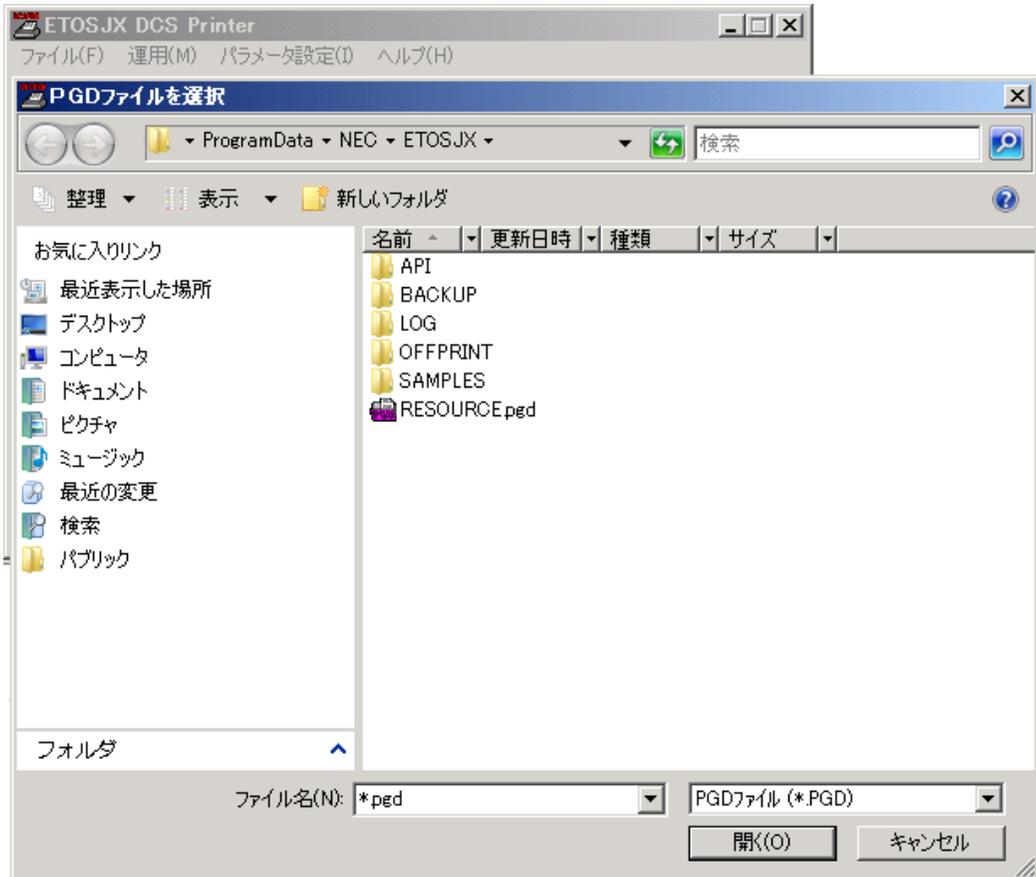
					Page 1
パラメータファイル名	:	resource.pg			
ファイル作成日時	:	20xx年xx月xx日 xx:xx:xx			
使用可能OS	:	Windows(R) 10			
バージョン情報	:	ETOSJX-PG VerX.X			
[基本パラメータ]					
通信リソース名	:	RESOURCE	WS番号:	# x x	
通信形態	:	ネットワークマネージャ			
初期動作モード	:	FORM			
ホストコンピュータ	:	ACOS-4			
ユニットアドレス	:	自動割り当て			
[拡張パラメータ]					
[初期動作指定]					
初期ローカル画面	:				
初期マクロ	:				
[キーのカスタマイズ] 109KB					
		<単独>	<SHIFT>	<CTRL>	<SHIFT+CTRL>
F 1	PF 1	PF 1 3	リセット	未設定	
F 2	PF 2	PF 1 4	復改	IDENT	
F 3	PF 3	PF 1 5	未設定	DEV CANCEL	
F 4	PF 4	PF 1 6	未設定	ERASE EOF	
F 5	PF 5	PF 1 7	STOP ID	チェックオフ	
F 6	PF 6	PF 1 8	HELP ID	未設定	
F 7	PF 7	PF 1 9	COPY ID	未設定	
F 8	PF 8	PF 2 0	再開	未設定	
F 9	PF 8	PF 2 1	割込	未設定	
F 1 0	PF 1 0	PF 2 2	コマンド入力	未設定	
F 1 1	PF 1 1	PF 2 3	パラメータ変更	未設定	
F 1 2	PF 1 2	PF 2 4	セッション切替	未設定	
~					
Enter	TAB	未設定	未設定	未設定	
~					

4.13 ファイル作成を終了する

パラメータファイルの作成を終了します。

- ① [ファイル] メニューの [終了] を選ぶ。
- ② DCS プリンタを起動するか選択する。
ETOSJX-PG でパラメータファイルを新規に作成した場合、DCS プリンタ起動を確認するダイアログボックスがオープンします。
続けて UA バスプリンタ出力の設定を行うかどうかを選択します。





(補足)

ETOSJX-PGにて、UAパス使用時のプリンタ情報を保存したファイル(PGDファイル)が、初期値の状態で作成されています(PGDファイルが既に存在する場合、新規作成は行いません)。作成したPGDファイルを選択すれば、そのままUAパス使用時のプリンタ情報の設定が可能です。PGDファイルの詳細については、「**第5章 UAパスプリンタ設定**」を参照してください。

- ② ETOSJX-PGを終了する。

第 5 章

UA パスプリンタ設定

- 5.1 PGD ファイルとは
- 5.2 DCS プリンタとは
- 5.3 PGD ファイルの作成手順
- 5.4 DCS プリンタを起動する
- 5.5 PGD ファイルを新規作成する
- 5.6 パラメータを設定する
- 5.7 ヘルプを使う
- 5.8 作成したファイルを保存する
- 5.9 作成したファイルを開く
- 5.10 PGD ファイルを印刷する
- 5.11 ファイル作成を終了する

第5章 UAパスプリンタ設定

この章では、端末システムの UA パスプリンタ出力時における使用形態の設定方法について説明します。

5.1 PGD ファイルとは

PGD ファイルとは、DCS プリンタが動作するために必要なシステム情報を格納しておくためのファイルです。PGD ファイルを作成するためには、DCS プリンタを使用します。

5.2 DCS プリンタとは

DCS プリンタとは、PGD ファイルの作成と UA パスプリンタ出力の管理を行なうプログラムです。PGD ファイル作成機能は、ファイルのアロケーションを行い、PGD ファイルを作成します。また既に作成済みのパラメータファイルの内容を更新します。UA パスプリンタ出力管理機能については、操作ガイド「UA パスでプリンタ出力する」を参照してください。

5.3 PGD ファイルの作成手順

PGD ファイルを、次の手順で作成します。

- ① DCS プリンタを起動する。
- ② 「新規」メニューを選択し、通信情報の設定を入力する。
DCS プリンタを動作させるために最低限必要なパラメータです。
- ③ パラメータ設定を入力する。
「プリンタ情報の設定」は、UA パスプリンタ出力を行うために必要なパラメータです。
その他の設定は、UA パスプリンタ出力の拡張機能です。
- ④ 作成した PGD ファイルを保存する。
- ⑤ DCS プリンタを終了する。

(注 1) システムのプリンタ情報を変更 (ETOSJX で使用するプリンタドライバの削除、プリンタ名やフォーム格納ディレクトリの変更など) した場合は、DCS プリンタの「プリンタ情報の設定」を再設定してください。

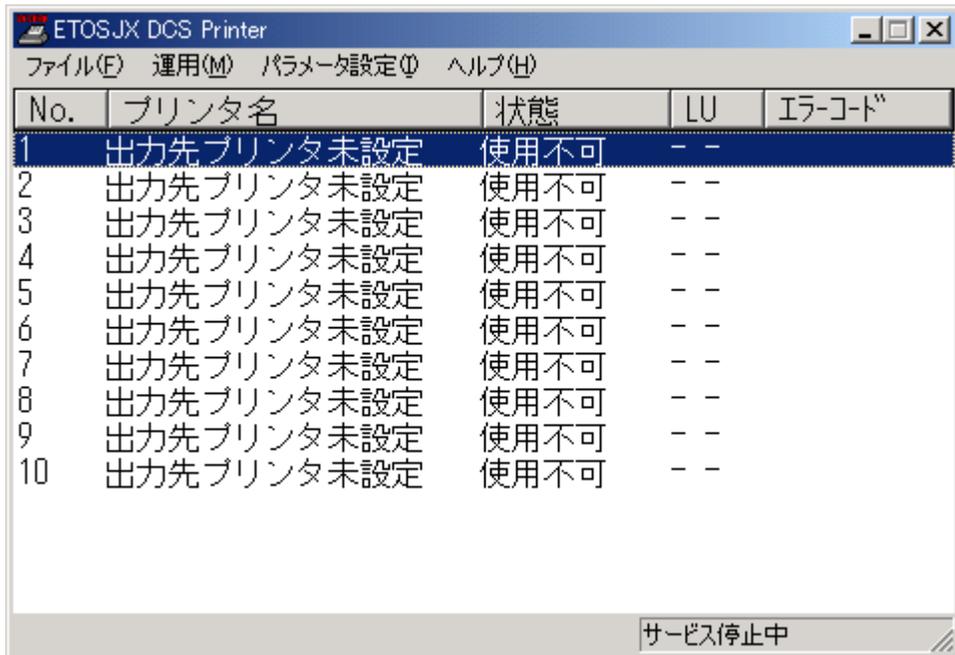
(注 2) PGD ファイルは、OS 毎 (Windows 10、Windows Server 2016) に作成してください。他 OS で作成した PGD ファイルは使用できません。
他 OS で作成したパラメータファイルを使用する場合は、PG コンバータでファイルコンバートしてご利用ください。

(注 3) 作成した PGD ファイルは、旧バージョンでは使用できません。また、旧バージョンで作成した PGD ファイルへ上書き保存すると旧バージョンで使用できなくなります。

5.4 DCS プリンタを起動する

PGD ファイルを作成するために、DCS プリンタを起動します。

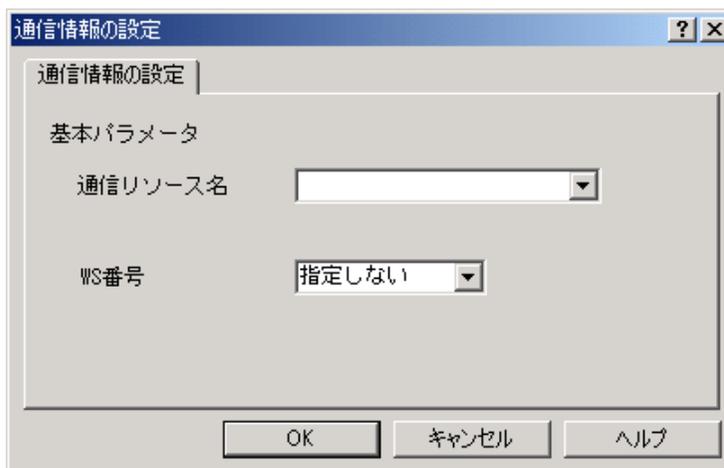
- ① Windows の [スタート] メニューから [ETOSJX] - [DCS プリンタ] の項目を選択する。
- ② DCS プリンタのウィンドウがオープンする。
DCS プリンタの画面が表示されます。



5.5 PGD ファイルを新規作成する

PGD ファイルを新しく作成します。

- ① [ファイル] メニューの [新規] メニューコマンドを選択する。
[通信情報の設定] プロパティシートが、オープンします。
各パラメータの説明にしたがい、基本パラメータを入力してください。



項目名	パラメータ	説明	既定値
通信リソース名	なし	同一端末上でユニークに指定するホストの名前です。 ネットワークマネージャで定義した通信リソース名を指定してください。 最大16文字まで入力可能です。	なし
WS番号 (注1)	なし	DCS プリンタが使用する WS 番号を指定します。	なし

(注1) WS 番号指定は、ネットワークマネージャに対して、ETOSJX が使用する WS 番号を指定する機能です。1 台の PC 上で複数の WS 番号を指定し ETOSJX を使用することはできません。WS 番号指定を利用するには、ネットワークマネージャの LU 定義で SG が必要です。詳しくはネットワークマネージャのマニュアルを参照してください。
本機能は、ネットワークマネージャ(16 ユーザ)の場合のみ有効となります。ネットワークマネージャ(スタンドアロン)では WS 番号を指定しても WS 番号は無視されます。

5.6 パラメータを設定する

パラメータの設定を行います。

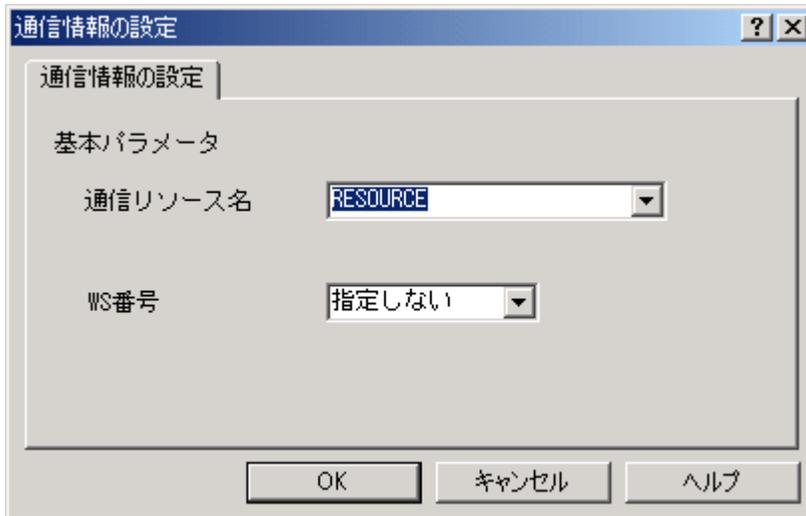
パラメータは、[パラメータ設定]メニューのメニューコマンドを使って設定します。

5.6.1 通信情報を設定する

DCS プリンタを動作させるための通信情報を設定します。

通常、通信情報の設定は、[ファイル]メニューの[新規]で入力済みのため、設定し直す必要はありません。通信情報の変更が必要な場合のみ行ってください。

- ① [パラメータ設定]メニューの[通信情報の設定]メニューコマンドを選ぶ。
[通信情報の設定]プロパティシートがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。
各パラメータの説明は、「5.5 PGD ファイルを新規作成する」を参照してください。



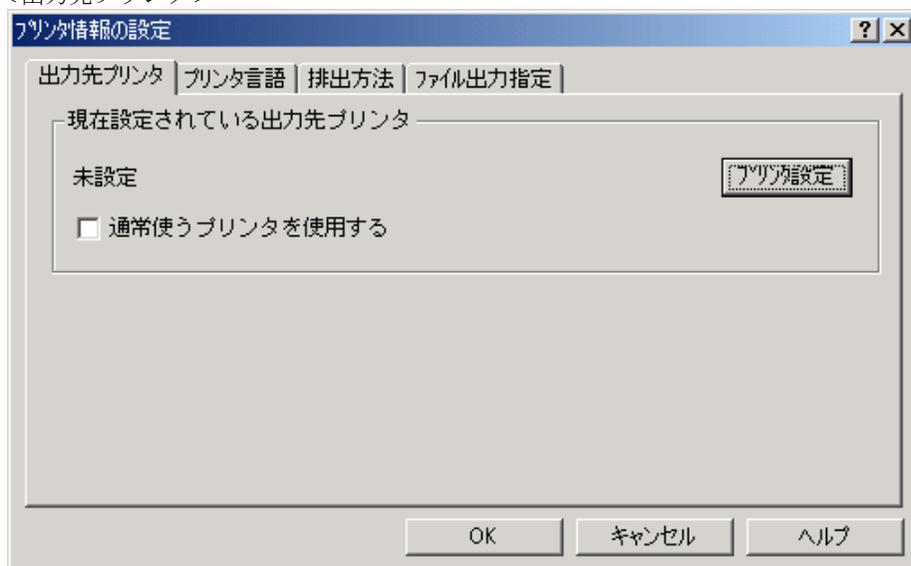
5.6.2 プリンタを設定する

UA パスプリンタ出力時のプリンタの設定／変更を行います。

- ① DCS プリンタのメイン画面の設定するプリンタにカーソルを合わせる。
設定するプリンタ番号 (No.) にカーソルを合わせてください。
DCS プリンタで表示しているプリンタ番号 (1~10) は、ネットワークマネージャの LU 情報定義のプリンタ用 LU 番号 (PRINTER1~PRINTER10) に対応しています。
- ② [パラメータ設定] メニューの [プリンタ情報の設定] メニューコマンドを選ぶ。

- ③ パラメータを入力する
 [プリンタ情報の設定] プロパティシートがオープンします。
 各パラメータの説明に従い、パラメータを設定してください。

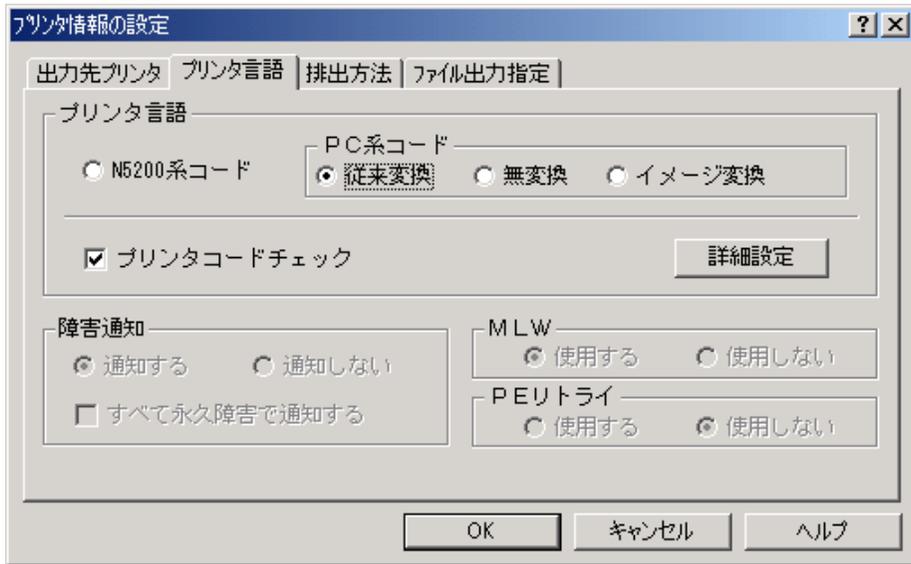
<出力先プリンタ>



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ設定	プリンタ名	印刷データを出力するプリンタを指定します。	未設定
通常使うプリンタ	<input checked="" type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO	出力先を Windows で設定されている「通常使うプリンタ」にするかどうか指定します。 YES : Windows で指定された「通常使うプリンタ」に出力します。 NO : 「プリンタ設定」で選択されているプリンタに出力します。	NO

<プリンタ言語>



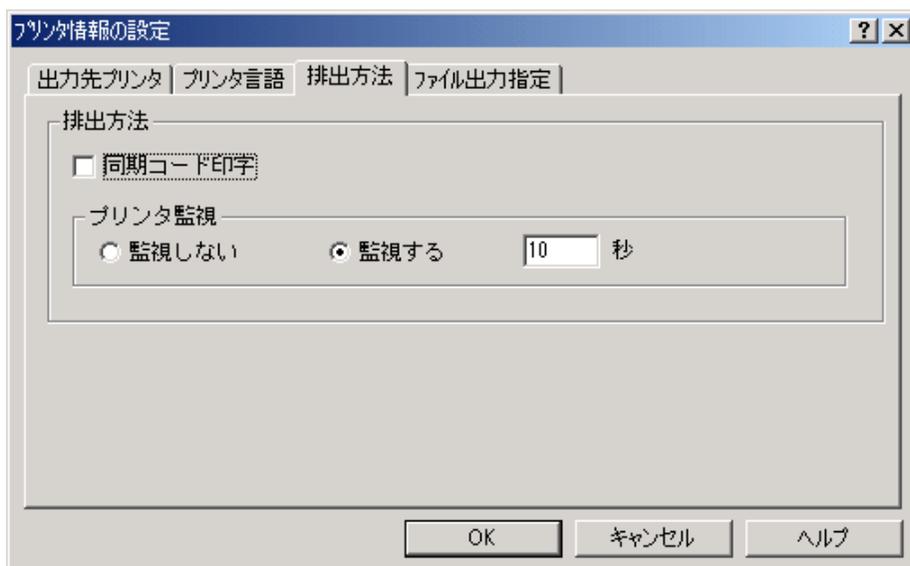
各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ言語	<ul style="list-style-type: none"> ・ N5200 系コード ・ PC 系コード <ul style="list-style-type: none"> ・ 従来変換 ・ 無変換 ・ イメージ変換 	<p>ホストから受信するプリンタ言語およびコード変換方法を指定します。</p> <p>N5200 系コード： ホストから受信するデータが旧情報コードの場合指定します。</p> <p>PC 系コード： ホストから受信するデータが 201PL または NPDL2 の時指定します。</p> <p>従来変換： ETOSJX で一部のホスト側制御コードを変換し、プリンタへ出力します。</p> <p>無変換： ETOSJX ではデータの加工は一切行わず、プリンタへ出力します。</p> <p>イメージ変換： ETOSJX にて PC-PR201 系プリンタをエミュレートし、印字イメージデータをプリンタへ出力します。</p>	従来変換
プリンタコードチェック	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	<p>設定されているプリンタ言語で使用不可能なコードを受信した場合の動作を指定します。</p> <p>YES: 設定されているプリンタ言語では、使用不可能なコードを受信した場合に、エラーを表示し、プリンタ出力を中止します。</p> <p>NO: 設定されているプリンタ言語では、使用不可能なコードを受信しても、エラーを表示せず、プリンタ出力を継続します。</p>	YES

障害通知	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通知する ・ 通知しない 	<p>N5200 系コード選択時、プリンタの障害通知機能を選択します。</p> <p>通知する : プリンタ障害発生時、ホストへ障害情報を通知します。(注 1)</p> <p>通知しない : プリンタ障害発生時、Windows で組み込まれているプリンタスプーラに処理をまかせます。</p>	通知する
障害通知 ・ 全て永久障害で通知する	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	<p>上記で「通知する」を選択時、全て永久障害で通知するか否かを選択します。</p> <p>YES: 用紙切れを含む全ての障害を検出した場合、永久障害でホストへ障害通知します。</p> <p>NO : 用紙切れとその他の障害を区別してホストへ障害通知します。 ただし、電源断や未接続を用紙切れで通知する場合があります。</p>	NO
MLW	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用する ・ 使用しない 	<p>用紙切れを検出した時の書き込みモードを指定します。</p> <p>使用する : 用紙切れ発生時もプリンタ出力が異常終了するまでプリンタ出力を行います。</p> <p>使用しない : 用紙切れを検出した時点でホストへ異常を通知します。</p>	使用する
PEリトライ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用する ・ 使用しない 	<p>用紙切れ発生時の DCS プリンタの動作を指定します。</p> <p>使用する : 用紙切れ発生時、DCS プリンタで用紙切れが回復するまで、プリンタ出力を保留します。</p> <p>使用しない : 用紙切れ発生時、ホストへ異常を通知します。</p>	使用しない

(注 1) 障害通知機能を使用する場合、ETOSJX 専用プリンタを登録する必要があります。ETOSJX 専用プリンタの登録方法は、「8.2 ETOSJX 専用プリンタ登録」を参照してください。
障害通知機能は、プリンタポートに直接接続されたローカルプリンタのみ使用可能です。
ネットワークプリンタおよびUSB 接続プリンタでは使用できません
PrintBridge と連携を行う場合の設定方法は、「8.4 PrintBridge を経由して印刷する」も参照してください。

< 排出方法 >

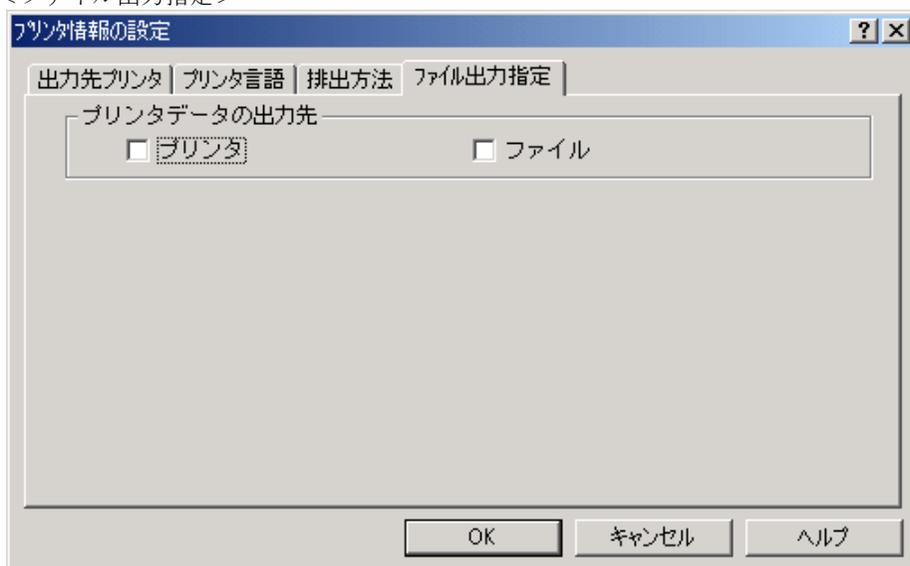


各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
同期コード印字 (注1)	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : 同期コード(00 ₁₆ の単一テキスト)をホストから受け付けた時に、プリンタをクローズします(印刷を開始します)。 NO : 同期コード(00 ₁₆ の単一テキスト)を、そのままプリンタに出力します。	NO
プリンタ監視	・監視しない ・監視する	UAパスでのプリンタ出力をタイマ監視するか指定します。 監視しない : プリンタをオープン後、DCSプリンタを終了するまで、クローズを行いません。 (注2) 監視する : プリンタ監視時間を指定して下さい。指定したプリンタ監視時間を経過してもテキストを受信しなければプリンタをクローズします。 プリンタ監視時間の有効範囲は、1～9999秒です。(注3)	10秒

- (注1) N5200系コード詳細設定のプロパティ内にある「連続する同期コード」指定とは無関係です。
- (注2) プリンタ監視しない設定は、N5200系コード(障害通知する)の場合のみ使用して下さい。それ以外の設定で使用した場合、ETOSJX(DCSプリンタ)を終了するまで、印刷が開始されない場合があります。
- (注3) ホストからの印刷データが終了しても、この指定時間だけ待ってから印刷を開始します。N5200系コードの場合、プリンタ監視時間経過後および印刷開始時にプリンタ装置のリセット、用紙長の再設定(シリアルプリンタのみ)を行うため、極端に小さい値を設定するとプリンタ性能の低下やページずれが発生する恐れがあります。業務ごとに適切な値を設定して下さい。

<ファイル出力指定>



各パラメータの説明

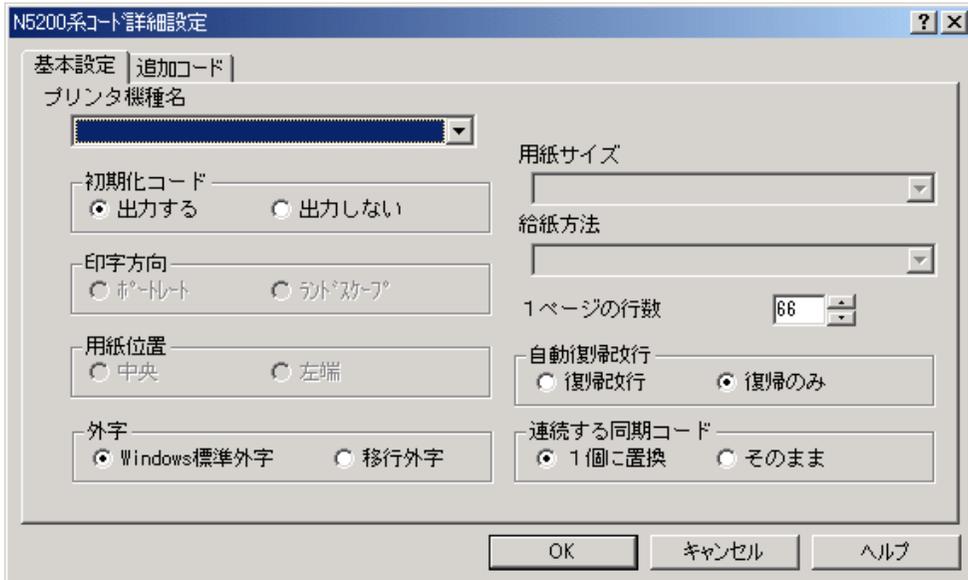
項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタデータの出力先	<input checked="" type="checkbox"/> : プリンタ <input type="checkbox"/> : ファイル	プリンタ : ホストから受信したデータを、プリンタへ出力します。 ファイル : ホストから受信したデータを、ファイルへ出力します。出力されたファイルは、オフラインビューにて使用することができます。(注)	プリンタ

(注)ファイルへの出力は N5200 系コード印刷でのみ可能となります。

- ④ 詳細設定を行う。
[プリンタ情報の設定] プロパティシートで詳細設定ボタンを選択し、コード変換パラメータを設定します。
表示されるダイアログボックスは、プリンタ言語、及び印字方法によって異なります。

<N5200 系コード>

- ・基本設定



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ機種名	プリンタ型番	リストから使用する PC-PTOS 対応プリンタを指定します。(注 1)	なし
初期化コード	・出力する ・出力しない	プリンタ出力開始時にプリンタの初期化を行うかを指定します。 通常は出力するを指定し、ホスト側でプリンタを制御する場合に出力しないを指定します。	出力する
印字方向	・ポートレート ・ランドスケープ	用紙の印字方向を指定します。(注 2)	ポートレート
用紙位置	・中央 ・左端	用紙の位置を指定します。(注 2)	左端
用紙サイズ		用紙サイズを指定します。(注 2)	
給紙方法		給紙方法を指定します。(注 2)	
外字	・Windows 標準外字 ・移行外字	N5200 系コード印刷で使用する外字を指定します。移行外字は、PTOS/A-VX5 の外字を「日本語文字拡張セット」を使用して変換したものです。(注 3)	Windows 標準外字
1 ページの行数	行数	1 ページの行数を指定します。 本指定は、シリアルプリンタ使用時のみ有効となります。	66
自動復帰改行	・復帰改行 ・復帰のみ	帳票印刷時、1 行分の印字データが最大印字桁数を越えた場合の動作を指定します。 復帰改行：印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。 復帰のみ：印字位置を行の先頭へ移動します。	復帰のみ
連続する同期コード	・1 個に置換 ・そのまま	印字データに連続する同期コード(00 ₁₆)が存在する場合の動作を指定します。 1 個に置換： ホストから受信した連続する同期コードを1 個にまとめて出力します。大量の同期コードが原因で、印字速度が遅い場合に指定してください。 そのまま： ホストから受信した同期コードをすべてプリンタへ出力します。	そのまま

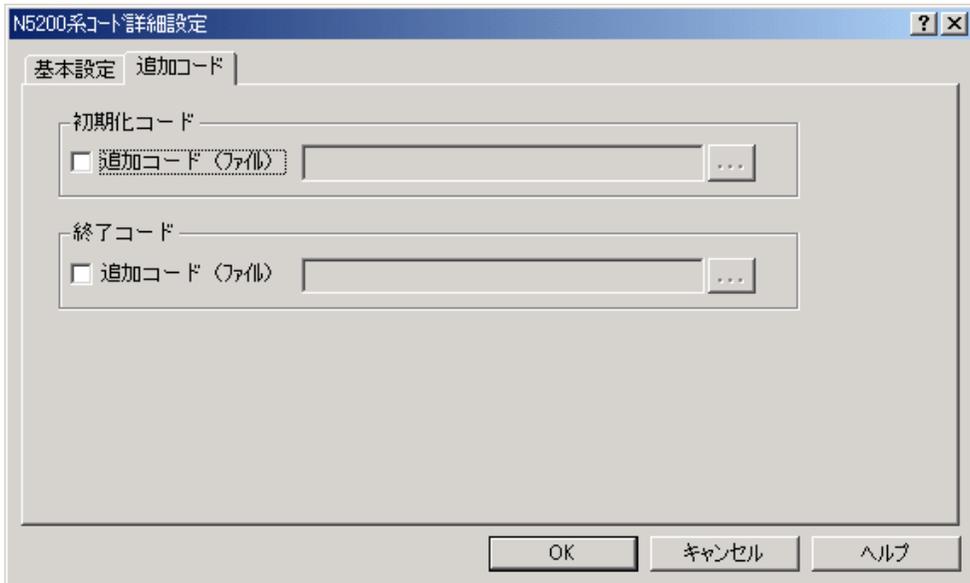
(注 1) N 型番のプリンタ(N11xx と N78xx)は、Express5800 サーバに接続されている場合に、ネットワークプリンタとして利用可能であり、PC には接続できません。

(注 2) シリアルプリンタの場合、印字方向や用紙位置、用紙サイズ、給紙方法のパラメータは、レフトマージンを求めるための指定となります。従って、この設定によって、プリンタ本体の印字方向や用紙位置、用紙サイズ、給紙方法を変更することはできません。
プリンタ本体の設定を変更するには、ホストよりデータとして制御コードを送るか、追加コードの指定機能によって制御コードを出力するようにしてください。

(注 3) 移行外字を選択した場合、コード変換テーブルは有効となりません。

※PrintBridge と連携を行う場合の設定方法は、「8.4 PrintBridge を経由して印刷する」も参照してください。

・追加コード

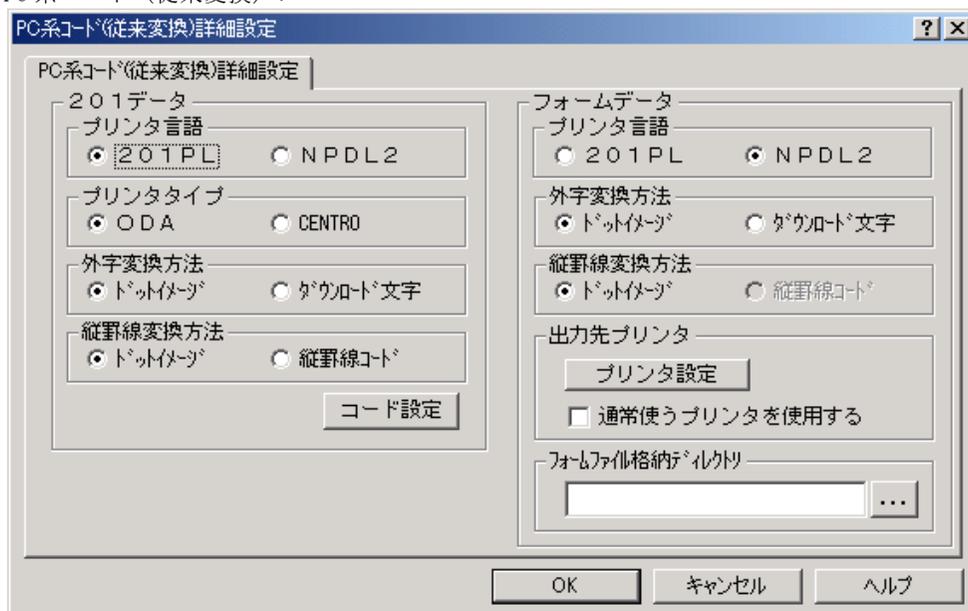


各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力開始時に、制御コードを追加出力します。続くテキストボックスに追加する制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。既にファイルを用意してある場合は、参照ボタンにより指定することができます。(注1) NO : 制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力終了時に、制御コードを追加出力します。続くテキストボックスに追加する制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。既にファイルを用意してある場合は、参照ボタンにより指定することができます。(注1) NO : 制御コードを追加出力しません。	NO

(注1)追加コードは N5200 系制御コードで記述してください。
また、追加コードファイルのファイルサイズは、最大 512 バイトです。
追加コードファイルは UNICODE 形式で作成してください。

<PC系コード（従来変換）>



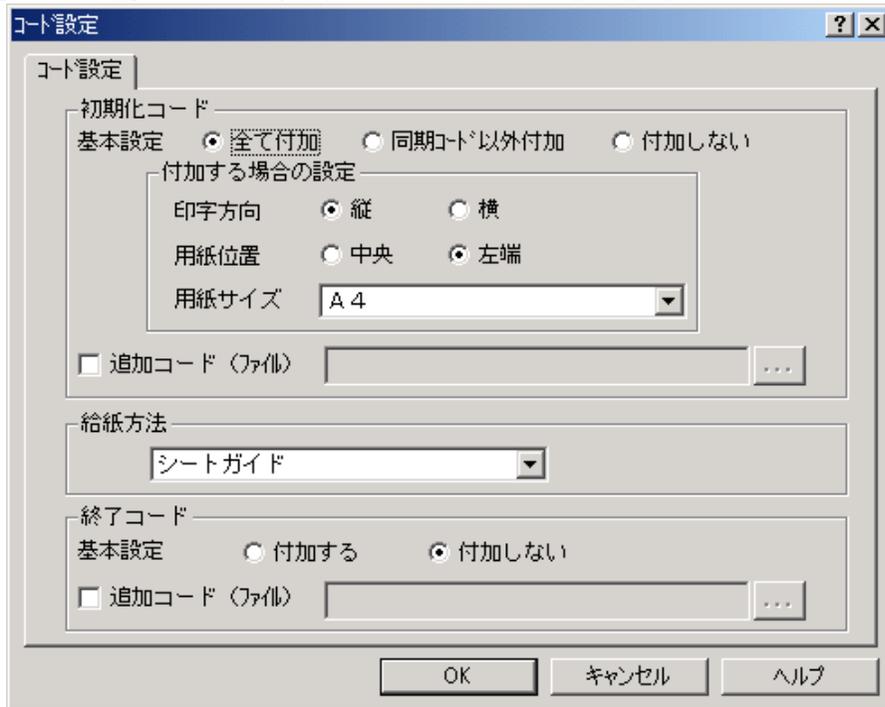
各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
201 データ ・プリンタ言語	・201PL ・NPDL2	ホスト側で作成した印字データのプリンタ言語を指定します。	201PL
201 データ ・プリンタタイプ	・ODA ・CENTRO	プリンタの出力タイプを指定します。 ODA : ANK:半角:全角=1:1:2 CENTRO : ANK:半角:全角=1:0.75:1.5	ODA
201 データ ・外字変換方法	・ドットイメージ ・ダウンロード文字	外字を印字する際の出力方法を指定します。 ドットイメージ : 外字をドット列で印字します。 ダウンロード文字 : プリンタに外字を登録後、印字します。 (注1)	ドットイメージ
201 データ ・縦罫線変換方法	・ドットイメージ ・縦罫線コード	縦罫線コードの変換方法を指定します。 ドットイメージ : 縦罫線をドット列で印字します。このため、縦罫線で1ドット占有します。 縦罫線コード : 縦罫線コード(FS ;)に変換して出力します。(注2)	ドットイメージ
フォームデータ ・プリンタ言語	・201PL ・NPDL2	ホスト側で作成した印字データのプリンタ言語を指定します。	NPDL2
フォームデータ ・外字変換方法	・ドットイメージ ・ダウンロード文字	外字を印字する際の出力方法を指定します。 ドットイメージ : 外字をドット列で印字します。 ダウンロード文字 : プリンタに外字を登録後、印字します。 (注1)	ドットイメージ
フォームデータ ・縦罫線変換方法	・ドットイメージ ・縦罫線コード	縦罫線コードの変換方法を指定します。 ドットイメージ : 縦罫線をドット列で印字します。このため、縦罫線で1ドット占有します。 縦罫線コード : 縦罫線コード(FS ;)に変換して出力します。(注2)	ドットイメージ
プリンタ設定	プリンタ名	フォーム印刷データを出力するプリンタを指定します。	未設定
通常使うプリンタを使用する	<input checked="" type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO	出力先を Windows で設定されている「通常使うプリンタ」にするかどうか指定します。 YES : Windows で指定された「通常使うプリンタ」に出力します。 NO : 現在選択されているプリンタに出力します。	NO
フォームファイル格納ディレクトリ		フォームファイルを格納しているディレクトリを指定します。	なし

(注1) プリンタの外字領域(7620₁₆)を使用するため、他の AP でプリンタの外字を使用することができなくなります。

(注2) 縦罫線コードは、プリンタによってサポートされていない場合があります。

[コード設定] のボタンで初期化コード／終了コードを指定します



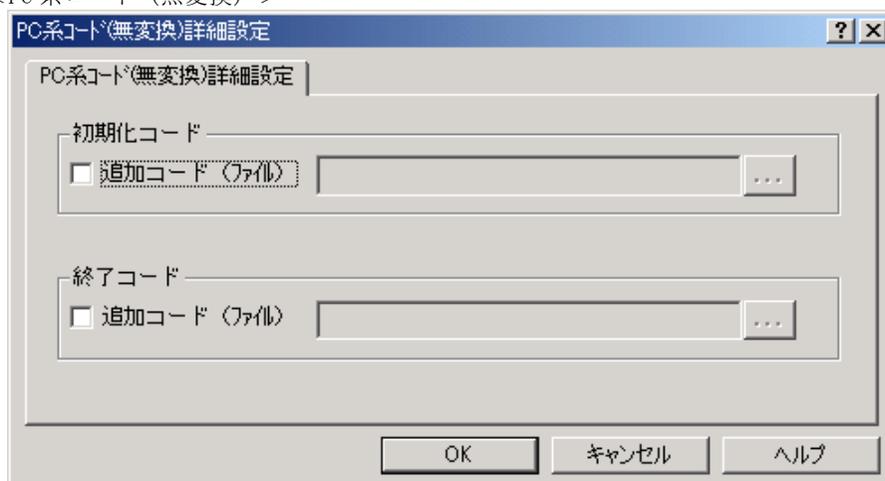
各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・基本設定	<ul style="list-style-type: none"> ・全て付加 ・同期コード以外付加 ・付加しない 	プリンタ出力開始時にプリンタの初期化を行うかを指定します。 全て付加 : プリンタの初期化コードを付加します。 付加しない : プリンタの初期化コードを付加しません。ホスト側にてプリンタを制御する場合に指定します。 同期コード以外付加 : 同期コード (FF 0D16) 以外のプリンタ初期化コードを付加します。全て付加を指定してプリンタ出力開始時に白紙が一枚出力される場合に指定します。	全て付加
印字方向	<ul style="list-style-type: none"> ・縦 ・横 	基本設定で全て付加または同期コード以外付加を指定した場合に、コードを生成するためのパラメータを設定します。	縦
用紙位置	<ul style="list-style-type: none"> ・中央 ・左端 		左端
用紙サイズ			A4
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: 初期化コードの基本設定に続けて指定した制御コードを追加出力します。(注1) NO : 基本設定をそのまま初期化コードにします。	NO
給紙方法	<ul style="list-style-type: none"> ・シートガイド ・トラクタフィーダ ・シートフィーダ 	プリンタの給紙機構を設定します。	シートガイド
終了コード ・基本設定	<ul style="list-style-type: none"> ・付加する ・付加しない 	プリンタ出力終了時に、プリンタのバッファに残ったデータを全て出力するための制御コードを出力するかどうかを指定します。 付加する : プリンタの排出コードを付加します。 付加しない : プリンタの排出コードを付加しません。	付加しない
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: 終了コードの基本設定に続けて指定した制御コードを追加出力します。(注1) NO : 基本設定をそのまま初期化コードにします。	NO

(注1) 追加する制御コードを記述したテキストファイル名を続くテキストボックスに入力します。既にファイルを用意してある場合は、参照ボタンにより指定することができます。追加コードファイルはUNICODE形式で作成してください。

※ PC系コード(従来変換)の印刷では、ファイルへの出力は、サポートしておりません。[ファイル出力指定]タブを選択し、[プリンタデータの出力先]の[ファイル]のチェックを外してください。

<PC系コード(無変換)>



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力開始時に、制御コードを追加出力します。(注) NO: 制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力終了時に、制御コードを追加出力します。(注) NO: 制御コードを追加出力しません。	NO

(注) 追加する制御コードを記述したテキストファイル名を続くテキストボックスに入力します。
既にファイルを用意してある場合は、参照ボタンにより指定することができます。
追加コードファイルは UNICODE 形式で作成してください。

※ PC系コード(無変換)の印刷では、ファイルへの出力は、サポートしておりません。[ファイル出力指定]タブを選択し、[プリンタデータの出力先]の[ファイル]のチェックを外してください。

<PC 系コード (イメージ変換) >

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタタイプ	・ ODA ・ CENTRO	プリンタの出力タイプを指定します。 ODA : ANK:半角:全角=1:1:2 CENTRO : ANK:半角:全角=1:0.75:1.5	CENTRO
CR コード動作指定	・ 復帰のみ ・ 復帰+改行	印字データに CR(OD ₁₆) コードが指定された場合の動作を指定します。 復帰のみ : 印字位置を行の先頭へ移動します。 復帰+改行 : 印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。	復帰のみ
最大印字桁数	桁数	1 行の最大印字桁数を指定します。	136
最大印字行数	行数	1 ページの最大印字行数を指定します。	66
バッファフル印字動作指定	・ 復帰のみ ・ 復帰+改行	1 行分の印字データが最大印字桁数を越えた場合の動作を指定します。 復帰のみ : 印字位置を行の先頭へ移動します。 復帰+改行 : 印字位置を行の先頭へ移動し改行します。	復帰+改行
初期化コード ・ 追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力開始時に、指定した制御コードを追加出力します。(注 1) NO : 制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード ・ 追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力終了時に、指定した制御コードを追加出力します。(注 1) NO : 制御コードを追加出力しません。	NO

(注 1) 追加する制御コードを記述したテキストファイル名を続くテキストボックスに入力します。
既にファイルを用意してある場合は、参照ボタンにより指定することができます。
追加コードファイルは UNICODE 形式で作成してください。

[フォント指定] のボタンで印字に使用するフォントを指定します。

書体の種類は、必ず「日本語」を指定してください

なお、コード変換テーブルを使用する場合は、コード変換テーブルで指定したフォントで印刷するため、この設定は無視されます。コード変換テーブルは「FontAvenue UniAssist JIPS 文字セット」で作成してください。

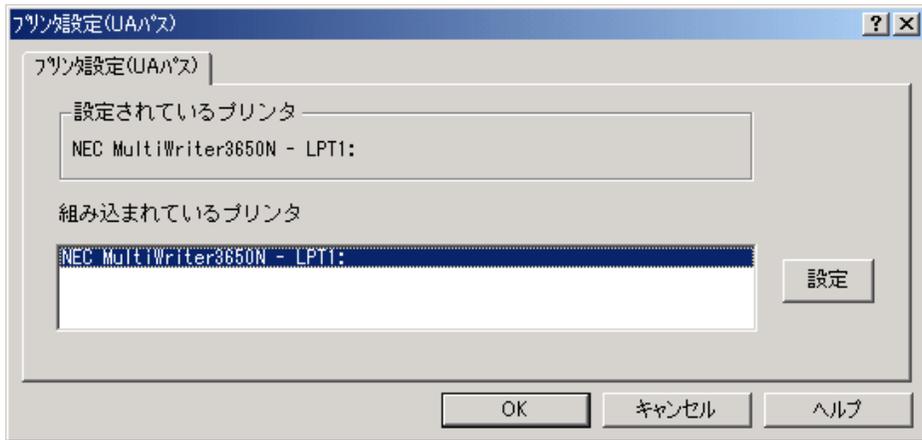


各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
フォント名	Windows で組み込んだフォント名がパラメータとして表示されます。	表示するフォント名を指定します。新しいフォントを選ぶと [サンプル] 欄にそのフォントが表示されます。 「F A JIPS 明朝」および「F A JIPS ゴシック」のいずれかを選択してください。 ※上記以外のフォントでの動作は保証いたしません。	F A JIPS 明朝
スタイル	<ul style="list-style-type: none"> 標準 斜体 太字 太字 斜体 	本設定は無効。	標準
サイズ	フォントサイズのパラメータは、フォントによってそれぞれ異なります。	本設定は無効。	9 既定値は変わる場合があります。
書体の種類	フォントの言語が表示されます。	書体は、必ず「日本語」を選択します。	日本語 既定値は変わる場合があります。

⑤ プリンタの設定を行う

[プリンタ情報の設定] プロパティシートでプリンタ設定ボタンを選択し、パラメータを設定します。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
設定されているプリンタ	プリンタ名	現在設定されているプリンタが表示されています。(注1)	なし
組み込まれているプリンタ	プリンタ名	現在、Windows に組み込まれているプリンタの一覧が表示されます。プリンタを指定すると設定されているプリンタの表示が変更できます。	なし

(注1) 設定可能なプリンタは、[プリンタ言語] の指定により異なります。

	PC 系コード			N5200 系コード
	従来変換	無変換	イメージ変換	
プリンタ名	201PL 又は NPDL2 に対応したプリンタ	Windows で利用可能なプリンタ	Windows で利用可能なプリンタ	PC-PTOS 対応プリンタ

イメージ変換の場合、[設定] ボタンを選択し、プリンタドライバ固有の情報を設定してください。

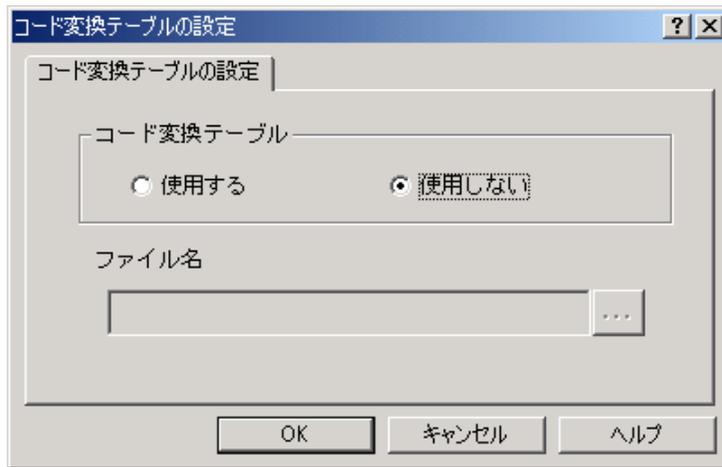
※ PC 系コード(イメージ変換)の印刷では、ファイルへの出力は、サポートしておりません。[ファイル出力指定] タブを選択し、[プリンタデータの出力先] の [ファイル] のチェックを外してください。

※ 制御コードによる用紙サイズの変更はサポートしておりません。用紙サイズの変更は、[出力先プリンタ] タブを選択し [プリンタ設定] ボタンをクリック、[組み込まれたプリンタ] の [設定] のプリンタプロパティから変更してください。

5.6.3 コード変換テーブルを使用する

ホストから受信した2バイトコードを任意の2バイトコードに変換するための設定を行います。

- ① [パラメータ設定] メニューの [コード変換テーブルの設定] を選ぶ。
[コード変換テーブルの設定] プロパティシートが、オープンします。
- ② パラメータを入力する。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
コード変換テーブル	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する ・使用しない 	使用する : UA パスプリンタ出力におけるコード変換を、コード変換テーブルを使用して行います。(注) 使用しない : UA パスプリンタ出力におけるコード変換にコード変換テーブルを使用しません。	使用しない
ファイル名		コード変換に使用するテーブルファイル名を指定します。	なし

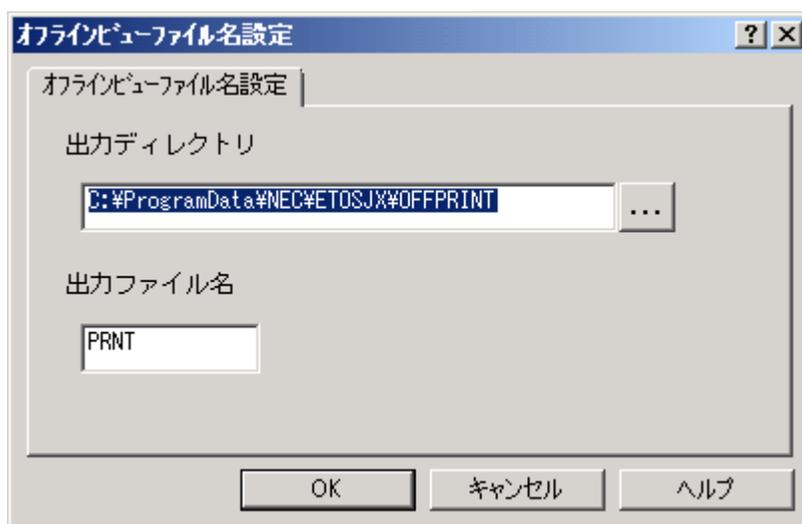
(注) コード変換テーブルについての詳細は「FontAvenue UniAssist JIPS 文字セット」のマニュアルを参照してください。なお、ANK 文字コードと ANK 以外の文字コードを関連付けた場合の動作は保証いたしません。

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、メイン画面に戻ります。

5.6.4 オフラインビューファイルの出力先を指定する

UAバスプリンタ印刷データの出力先を「ファイルへ出力」にした場合の出力先ディレクトリおよびファイル名を指定します。

- ① [パラメータ設定] メニューの [オフラインビューファイルの設定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② パラメータを入力する。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

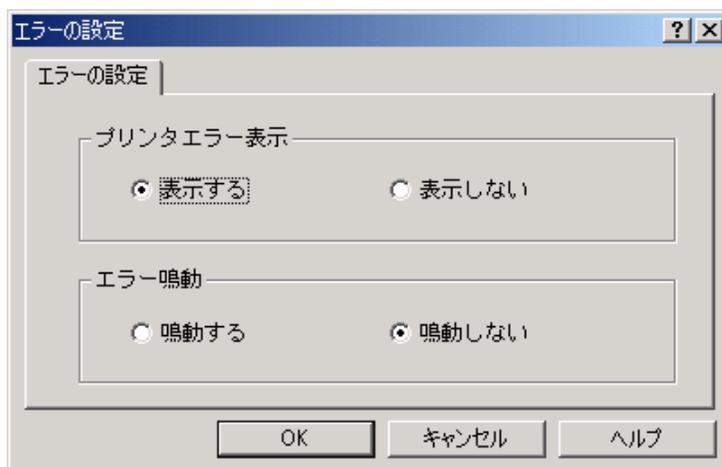
項目名	パラメータ	説明	既定値
出力ディレクトリ	なし	ホストから受信した印刷データを、オフラインビューデータファイルとして保存するディレクトリを指定します。	C:\ProgramData\NEC\ETOSJX\OFFPRINT
出力ファイル名	なし	ホストから受信した印刷データを、オフラインビューデータファイルとして保存する際のファイル名を指定します。 実際に、オフラインビューデータをファイルへ出力する際は、指定したファイル名+連番4桁となります(拡張子 ETP)。	PRNT

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、メイン画面に戻ります。

5.6.5 エラー発生時の動作を指定する

UA パスプリンタ出力実行中に、エラーが発生した場合の動作を指定します。

- ① [パラメータ設定] メニューの [エラーの設定] メニューコマンドを選ぶ。
[エラーの設定] プロパティシートがオープンします。
- ② パラメータを入力する。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタエラー表示	<ul style="list-style-type: none"> • 表示する • 表示しない 	表示する : UA パスプリンタ出力中にエラーが発生した場合、エラーメッセージをポップアップウィンドウで表示します。 表示しない : UA パスプリンタ出力中にエラーが発生しても、エラーメッセージを表示しません。(注1)	表示する
エラー鳴動	<ul style="list-style-type: none"> • 鳴動する • 鳴動しない 	鳴動する : UA パスプリンタ出力中にエラーが発生した場合、エラー鳴動します。 鳴動しない : UA パスプリンタ出力中にエラーが発生しても、エラー鳴動しません。	鳴動しない

(注1) エラーコードはメイン画面にもプリンタ毎に表示されます。エラーメッセージを表示しない場合、DCS プリンタのエラーの発生したプリンタにカーソルを合わせ、[ヘルプ] メニューの [エラー詳細] メニューコマンドを選ぶと、エラーの内容を確認することができます。

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、メイン画面に戻ります。

5.7 ヘルプを使う

DCS プリンタのバージョンや表示方法は、ヘルプを使って調べることができます。

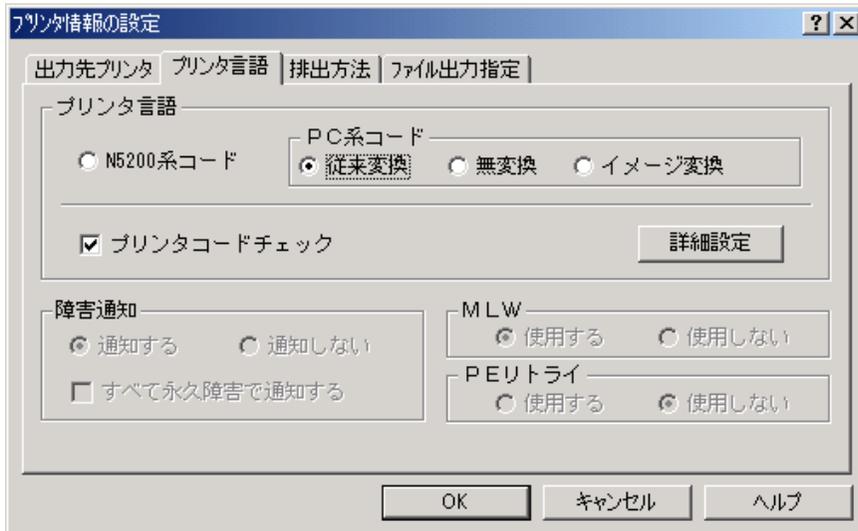
- (1) DCS プリンタのバージョン情報を見る場合
 - ① [ヘルプ] メニューの [バージョン情報] を選択する。
 - ② バージョン情報を確認する。
[DCS プリンタのバージョン情報] ダイアログがオープンします。
バージョン情報を確認してください。



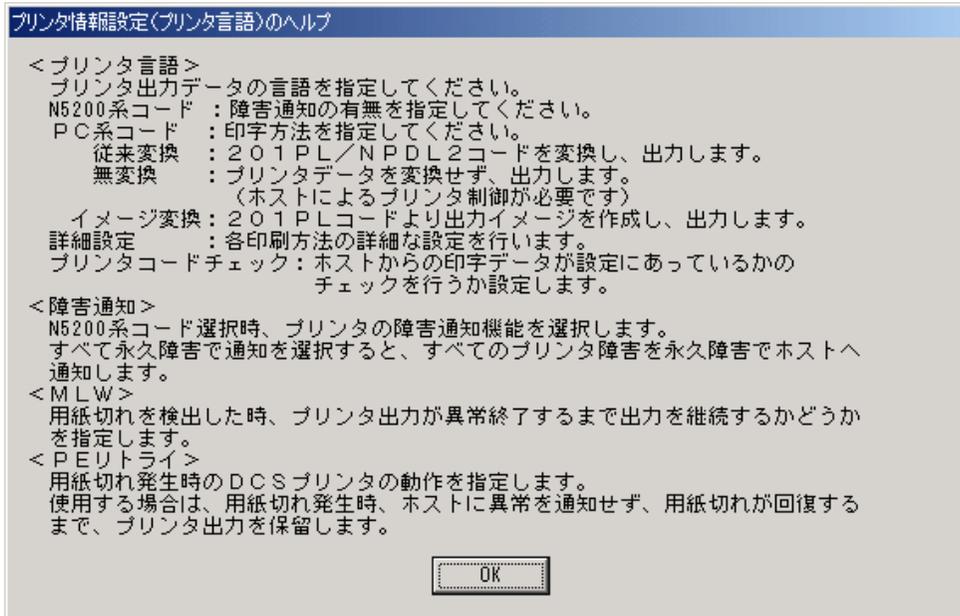
- ③ [OK] ボタンを押す。
もとの画面に戻ります。

(2) DCS プリンタの設定方法を見る場合

- ① 各プロパティシート内の [ヘルプ] ボタンを押す。



- ② 設定方法を確認する
各プロパティシートの設定方法を示したダイアログボックスがオープンします。
設定方法を確認してください。



上記の例は、[プリンタ情報の設定] で [プリンタ言語] のタブが表示されている場合に表示する内容です。

- ③ [OK] ボタンを押す。
もとの画面に戻ります。

5.8 作成したファイルを保存する

作成した PGD ファイルを保存します。

- (1) ディレクトリを指定して、PGD ファイルを保存する

① [ファイル] メニューの [保存] を選択する。

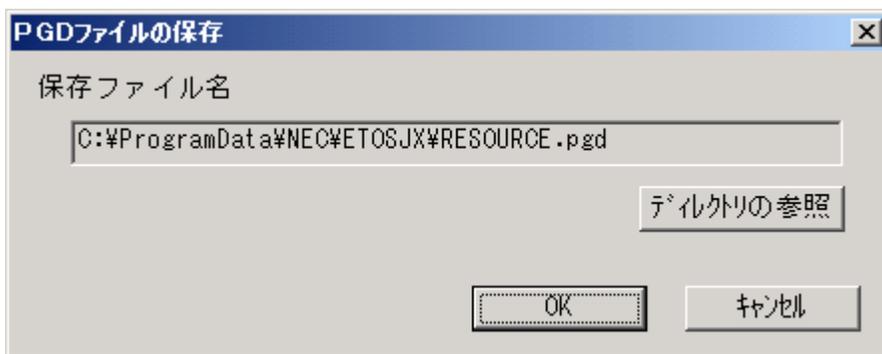
② 保存ファイル名を確認する

[PGD ファイルの保存] ダイアログがオープンします。

新規作成または更新した設定情報を保存するファイル名を確認してください。保存するディレクトリを変更する場合は、[ディレクトリの参照] ボタンを押して、ディレクトリを変更してください。

(注意)

PGD ファイルは、通信リソース毎に作成するファイルであるため、ファイル名は、通信リソース名+拡張子 (PGD) 固定となっています。PGD ファイル名を変更することはできません。



③ [OK] ボタンを押す。

新規作成または更新した設定情報が PGD ファイルに保存され、メイン画面に戻ります。

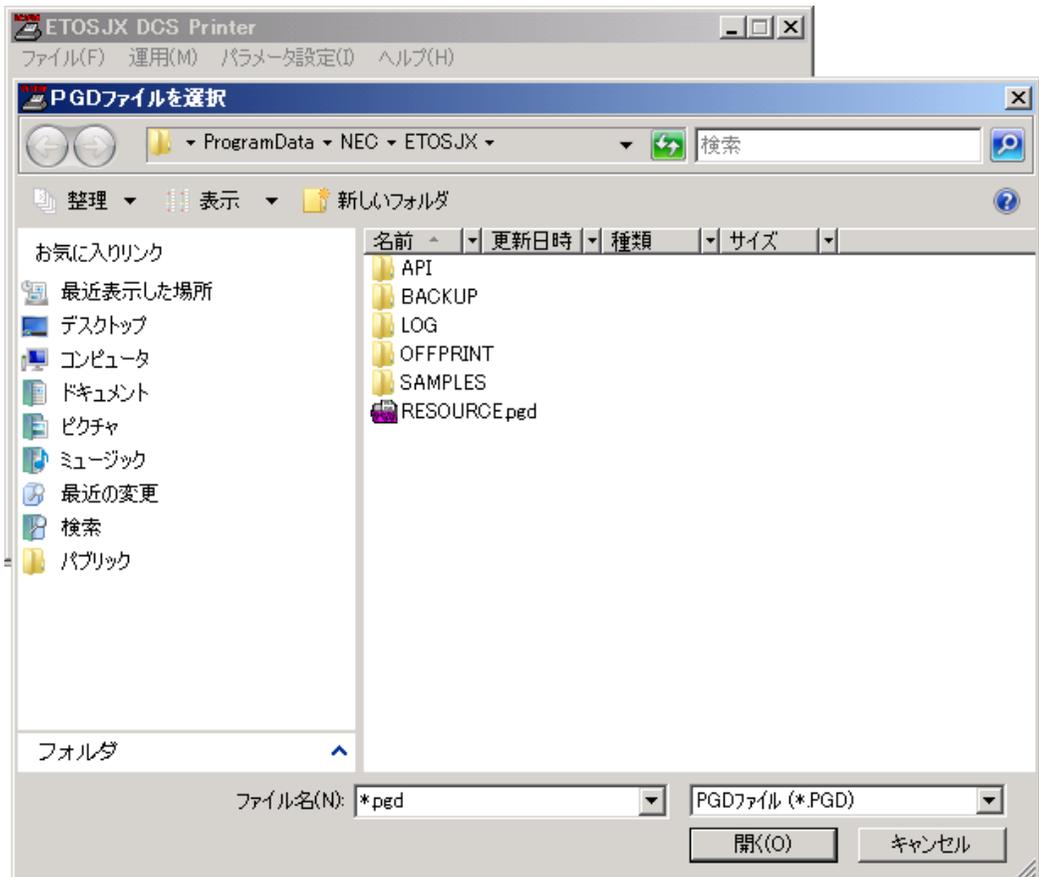
- (2) 読み込んだファイルに上書きで保存する。

① [ファイル] メニューの [上書き保存] を選択する。

読み込んだファイルに更新された設定情報が保存されます。

5.9 作成したファイルを開く

- ① [ファイル] メニューの [開く] メニューコマンドを選ぶ。
- ② オープンするファイル名を指定する。
[ファイルを開く] ダイアログボックスがオープンします。
[ファイル名] テキストボックスに、オープンする PGD ファイル名を入力します。
指定するファイルがカレントディレクトリに存在しない場合は、ディレクトリやドライブを [ディレクトリ] 一覧や [ドライブ] 一覧で指定します。



- ③ [開く] ボタンを押す。
ダイアログボックスがクローズし、指定したファイルから設定情報が読み込まれます。

5.10 PGD ファイルを印刷する

PGD ファイルの内容をプリンタに出力します。

- ① [ファイル] メニューの [開く] メニューコマンドを選び、印刷する PGD ファイルをオープンする。
- ② [ファイル] メニューの [プリンタ出力] を選ぶ。
出力先のプリンタ、印刷範囲および印刷部数を設定します。



- ② [印刷] ボタンを押す。
ダイアログボックスがクローズし、指定したプリンタから PGD ファイルの内容が印刷されます。

5.11 ファイル作成を終了する

PGD ファイルの作成を終了します。

- ① [ファイル] メニューの [終了] メニューコマンドを選ぶ。
- ② DCS プリンタを終了する。

第 6 章

パラメータファイルを変換する

- 6.1 PG コンバータとは
- 6.2 パラメータファイルの変換手順
- 6.3 PG コンバータを起動する
- 6.4 パラメータファイルを変換する
- 6.5 バージョン情報を表示する
- 6.6 PG コンバータを終了する

第6章 パラメータファイルを変換する

この章では、従来の ETOSJX のパラメータファイルを変換する PG コンバータの操作方法について説明します。

6.1 PG コンバータとは

PG コンバータとは、パラメータファイルを変換するためのユーティリティプログラムです。

既に旧製品で作成済み（他 OS で作成されたファイルを含む）の PG ファイル(*.PG)、PGD ファイル(*.PGD)およびリソースファイル(*.ETS)を、本製品で使用できるファイルへ変換します。

また、他 OS で作成した ETOSJX for UNICODE V5.0 のパラメータファイルを、現在動作中の OS で使用できる形式にもコンバートします。

6.2 パラメータファイルの変換手順

パラメータファイルを、次の手順で変換します。

- ① PG コンバータを起動する。
- ② パラメータファイルが存在するディレクトリを指定する。
パラメータファイルが ETOS データフォルダに存在する場合、指定する必要はありません。
- ③ 変換を行う通信リソース名を指定する。
- ④ パラメータファイルを変換する。
- ⑤ PG コンバータを終了する。

(注意)

- SG ファイルのコンバートを行うとコンバート前の SG ファイルは旧製品で使用できなくなります。SG ファイルは必ずバックアップを採取した上でコンバートしてください。
- 他 OS で作成されたパラメータファイルは、ハードコピー、COMI-2 プリンタ、DCS プリンタのプリンタ出力先がすべて「通常使うプリンタ」にコンバートされます。
出力先プリンタを「通常使うプリンタ」以外に変更したい場合は再設定が必要です。
- マシン固有情報(キーボード種別・プリンタ情報等)は、再設定する必要があります。

6.3 PG コンバータを起動する

パラメータファイルを変換するために、PG コンバータを起動します。

- ① Windows の [スタート] メニューから [ETOSJX] - [ユーティリティ] - [PG コンバータ] を選ぶ。
- ② PG コンバータのウィンドウがオープンする。
PG コンバータの画面が表示されます。



6.4 パラメータファイルを変換する

従来の ETOSJX で作成したパラメータファイルを本製品で使用できるパラメータファイルに変換します。

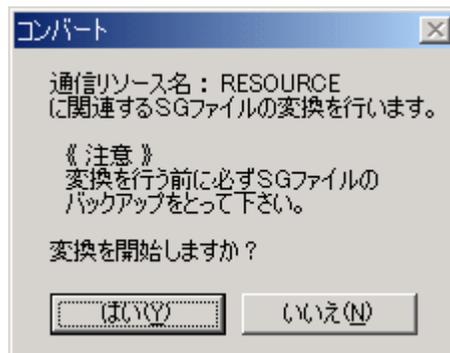
- ① [ファイル] メニューの [ディレクトリ指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② 変換するパラメータファイルが存在するディレクトリ名を入力する。
[ディレクトリの選択] ダイアログボックスがオープンします。
変換するパラメータファイルが存在するディレクトリを指定してください。
パラメータファイルがカレントディレクトリに存在する場合は、新たにディレクトリを指定する必要はありません。[OK]ボタンを押してください。



- ③ 変換を行う通信リソース名を選択する。



- ④ [ファイル] メニューの [コンバート] メニューコマンドを選ぶ。
変換の実行確認メッセージが表示されます。
[はい] を選択すると、選択した通信リソースに関連するすべてのパラメータファイルを、本製品で使用できるファイルに変換します。



6.5 バージョン情報を表示する

PG コンバータのバージョン情報を表示します。

- ① [その他] メニューの [バージョン情報] メニューコマンドを選ぶ。
- ② バージョン情報を確認する。
[PG コンバータのバージョン情報] ダイアログボックスがオープンします。
バージョン情報を確認してください。



- ③ [OK] ボタンを押す。
もとの画面に戻ります。

6.6 PG コンバータを終了する

PG コンバータを終了します。

- ① [ファイル] メニューの [終了する] メニューコマンドを選ぶ。
- ② PG コンバータを終了する。

第 7 章

簡易操作ファイルを変換する

- 7.1 マクロコンバータとは
- 7.2 簡易操作ファイルの変換手順
- 7.3 マクロコンバータを起動する
- 7.4 簡易操作ファイルを変換する
- 7.5 マクロコンバータを終了する

第7章 簡易操作ファイルを変換する

この章では、従来の ETOSJX でご使用になられていた簡易操作ファイルをマクロファイルに変換するマクロコンバータの操作方法について説明します。

7.1 マクロコンバータとは

マクロコンバータとは、簡易操作ファイルをマクロファイルに変換するためのユーティリティプログラムです。

本製品では簡易操作機能をサポートしていませんので、従来簡易操作をご使用になられていた環境から移行する場合、本ユーティリティを使ってマクロファイルに変換してご利用ください。

7.2 簡易操作ファイルの変換手順

簡易操作ファイルを、次の手順で変換します。

- ① マクロコンバータを起動する。
- ② 簡易操作ファイルが存在するディレクトリを指定する。
簡易操作ファイルが ETOS データフォルダに存在する場合、指定する必要はありません。
- ③ SG にて指定していた簡易操作ファイル名を指定する。
- ④ 簡易操作ファイルを変換する。
- ⑤ マクロコンバータを終了する。

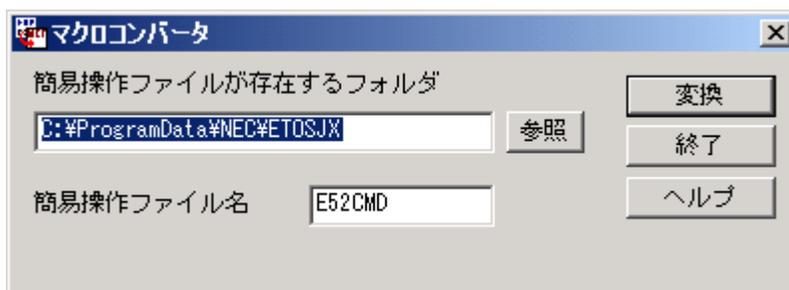
(注意)

- ・簡易操作ファイルの内容によっては変換に失敗する場合があります。
その場合、変換できない理由をログファイルに出力するか、変換不可能部分をコメントにして変換を行います。変換できない原因を取り除いた後再度変換願います。

7.3 マクロコンバータを起動する

簡易操作ファイルを変換するために、マクロコンバータを起動します。

- ① Windows の [スタート] メニューから [ETOSJX] - [ユーティリティ] - [マクロコンバータ] を選択します。
- ② マクロコンバータの画面が表示されます。



7.4 パラメータファイルを変換する

簡易操作ファイルをマクロファイルに変換します。

- ① 変換に必要な設定を行う。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
簡易操作ファイルが存在するフォルダ	フォルダ名	変換する簡易操作ファイルが存在するフォルダを指定してください。	ETOS データフォルダ
簡易操作ファイル名	ファイル名	変換する簡易操作ファイル名を指定してください。ここで設定するファイル名はETOSJX-PGの簡易操作ファイルに指定していた値を指定してください。	E52CMD

- ② [変換] ボタンを押して変換を開始する。

簡易操作ファイルは「"簡易操作ファイルが存在するフォルダ"¥"簡易操作ファイル名"??」(??は任意の文字)の条件を満たすファイルをすべて変換します。

変換後のファイルは「変換前のファイル名.MET」になります。

(注意)簡易操作ファイルにてセッション切り替えを行っている場合、セッション接続/切断どちらかを確認する画面が表示されることがあります。

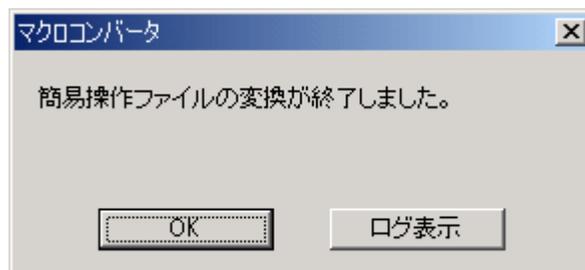
その場合簡易操作で行っている動作を指定してください。

- ③ 変換終了メッセージを表示する。

[OK] ボタンを押すと変換を終了します。

[ログ表示] ボタンを押すと変換ログを表示します。

変換中にエラーが発生した場合はログファイルにエラーが出力されます。



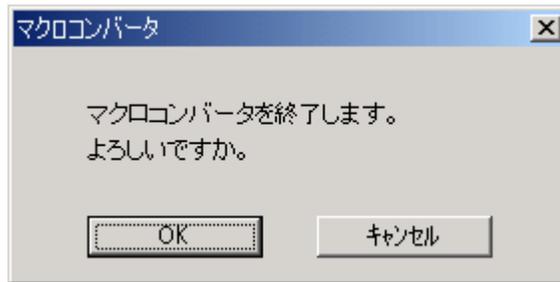
7.5 マクロコンバータを終了する

マクロコンバータを終了します。

- ① [終了] ボタンを押す。



- ② 終了確認メッセージを表示します。
[OK]ボタンを押してください。



- ③ マクロコンバータを終了する。

第 8 章

ETOSJX のシステム設定

- 8.1 メンテナンスツール
- 8.2 ETOSJX 専用プリンタ登録
- 8.3 9ポイント文字の印刷設定
- 8.4 PrintBridge を経由して印刷する

第8章 ETOSJX のシステム設定

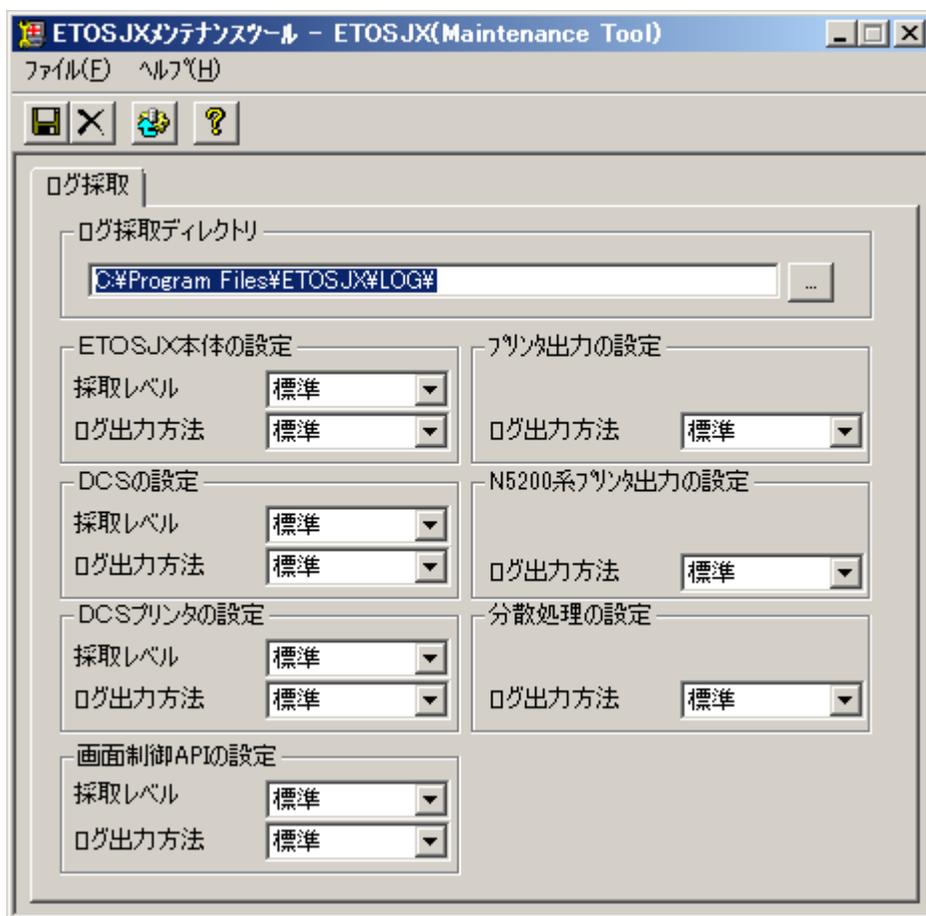
この章では、ETOSJX を使用する端末全体で有効となるシステム設定方法について説明します。

8.1 メンテナンスツール

メンテナンスツールでは、ETOSJX のログ出力に関する設定が可能です。

8.1.1 メンテナンスツールを起動する

Windows の [スタート] メニューから [ETOSJX] - [メンテナンスツール] を選択します。

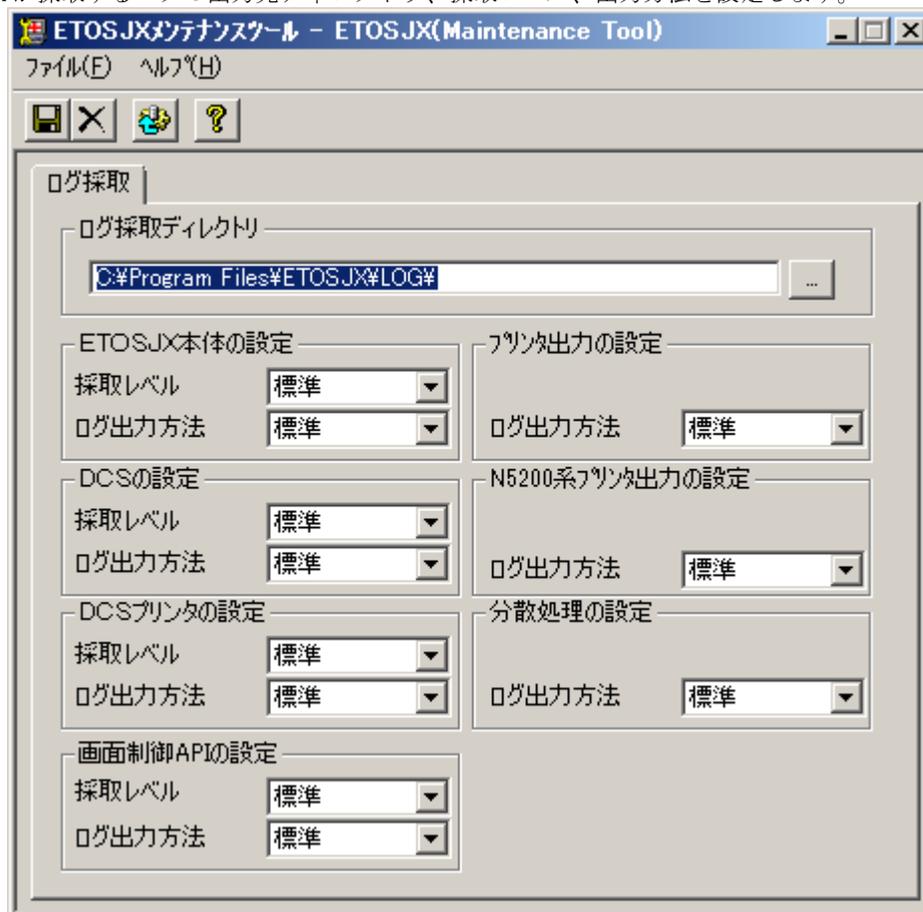


(注意)

メンテナンスツールの起動時に、権限の昇格を要求されますので、管理者権限を持ったユーザ名、パスワードを入力し、権限の昇格を行ってください。

8.1.2 ETOSJX のログ採取を設定する

ETOSJX が採取するログの出力先ディレクトリ、採取レベル、出力方法を設定します。



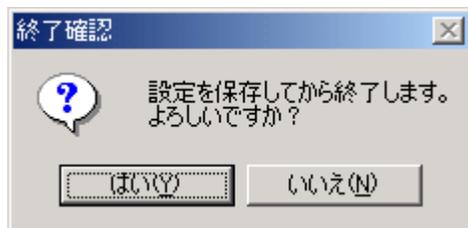
各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
採取レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・標準 ・詳細 1 ・詳細 2 ・詳細 ・全部 	ETOSJX が採取するログファイルへ出力する内容を指定します。	標準
ログ出力方法	<ul style="list-style-type: none"> ・標準 ・常時(追加) ・常時(サイクリック) ・詳細 ・全部 	ETOSJX のログファイルの出力方法を指定します。	標準

(注)採取レベルやログ出力方法を変更すると ETOSJX の動作や性能に影響を及ぼす場合がありますので、通常は既定値のまま運用してください。

8.1.3 設定を保存して終了する

- ① メニューの「ファイル」－「設定を保存して終了」を選択すると下記メッセージが表示されますので、「はい」を選択して終了します。



8.2 ETOSJX 専用プリンタ登録

ETOSJX で N5200 系コード印刷の障害通知機能を使用する場合、印刷を行うプリンタ (パラレルポートに接続されたプリンタ、以降「ローカルプリンタ」と呼びます) に対し、ETOSJX 専用プリンタを登録 (紐づけ) する必要があります。

ETOSJX 専用プリンタ登録とは、その登録を行うためのプログラムです。

8.2.1 ETOSJX 専用プリンタ登録を起動する

Windows の [スタート] メニューから、[ETOSJX] - [ETOSJX 専用プリンタ登録] を選択します。起動後、登録画面が表示されます。



ETOSJX専用プリンタ登録

N5200系印刷の障害通知機能を利用するための専用プリンタを登録します。

出力先のローカルプリンタを選択してください:

LPT1: NEC MultiWriter8450N NPDL

LPT2: ポート未使用

LPT3: ポート未使用

登録 キャンセル

起動時にローカルプリンタが1つも登録されていない場合、登録を中止します。プリンタ登録後に再度、ETOSJX 専用プリンタ登録を起動してください。

8.2.2 専用プリンタを登録する

出力先プリンタに対応した専用プリンタを登録します。

- ① N5200 系コード印刷での出力先プリンタを選択する。



OS に登録されているローカルプリンタ名の一覧がプルダウンリストに表示されますので、出力先プリンタを選択してください。

N5200 系コード印刷の出力先として使用しないポートでは「登録しない」を選択してください。

- ② 専用プリンタを登録する。

[登録] ボタンを押すと、確認画面を表示します。



選択したプリンタ名が表示されていることを確認し、[はい] ボタンを押します。
[いいえ] ボタンを押すと、登録画面に戻ります。

③ 登録結果を確認する。

専用プリンタの登録に成功すると、登録成功一覧に出力先として選択されたポートとプリンタ名、登録した専用プリンタ名が表示されます。

ETOSJX専用プリンタ登録結果
×

登録成功

ポート	選択されたプリンタ	登録したプリンタ
LPT1:	NEC MultiImpact 700JX3	ETOSJX/AP実行環境専用プリンタ

登録したプリンタはETOSJXの内部で使用する専用プリンタです。
出力先に指定したり、設定を変更したりしないでください。

登録失敗

ポート	選択されたプリンタ	失敗内容

終了

[終了]ボタンを押すと、ETOSJX 専用プリンタ登録を終了します。

<登録に失敗した場合>

登録失敗一覧に出力先として選択されたポートとプリンタ名、登録に失敗した理由または内容が表示されます。

ETOSJX専用プリンタ登録結果
×

登録成功

ポート	選択されたプリンタ	登録したプリンタ

登録したプリンタはETOSJXの内部で使用する専用プリンタです。
出力先に指定したり、設定を変更したりしないでください。

登録失敗

ポート	選択されたプリンタ	失敗内容
LPT1:	NEC MultiImpact 700JX3	プリンタ登録失敗

上記ポートではN5200系印刷の障害通知機能は利用できません。
すぐに再登録しますか？

再登録
終了

登録画面で選択したプリンタについて、以下の点を確認してください。

- ・ インストールした NEC 製のプリンタドライバを使用しているか
(OS 標準添付のドライバは使用しないでください)
- ・ 本ツール起動後に、OS 側でプリンタの状態を変更していないか

[再登録]ボタンを押すと、登録画面に戻ります。出力先に別のプリンタを選択する場合、再度、登録を実行してください。

OS 側でプリンタの状態を変更した場合、[終了]ボタンを押して一度 ETOSJX 専用プリンタ登録を終了し、改めて登録を実行してください。

8.2.3 専用プリンタを登録せずに終了する

ETOSJX専用プリンタ登録

N5200系印刷の障害通知機能を利用するための専用プリンタを登録します。

出力先のローカルプリンタを選択してください:

LPT1: 登録しない

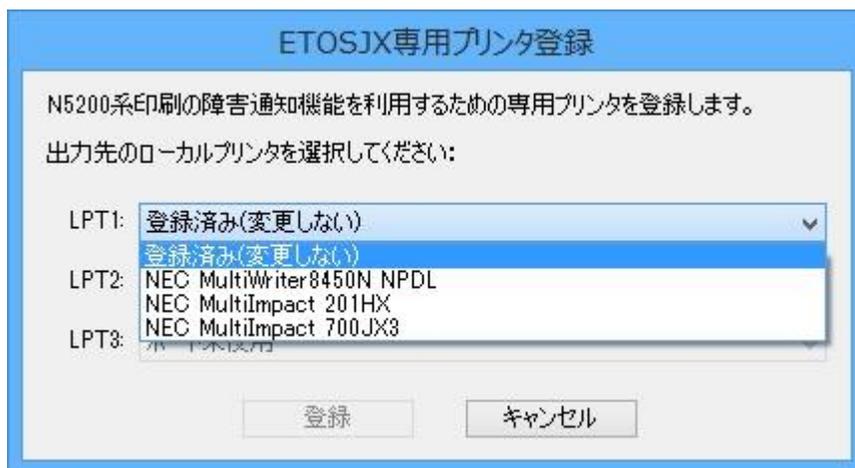
LPT2: ポート未使用

LPT3: ポート未使用

登録 キャンセル

[キャンセル]ボタンを押すと、終了確認メッセージが表示されます。
終了確認メッセージで[はい]ボタンを押すと、ETOSJX 専用プリンタ登録を終了します。
[いいえ]ボタンを押すと、登録画面に戻ります。

8.2.4 出力先を変更する



すでに専用プリンタが登録されている場合、「登録済み(変更しない)」と表示されます。以前の登録時からN5200系コード印刷の出力先プリンタを変更した場合、新たに出力先とするプリンタ名を選択して登録し直してください。

(注意) 以前のバージョンで登録した専用プリンタが残っている場合も「登録済み(変更しない)」と表示されます。出力先に変更がない場合、そのまま使用しても問題はありませんが、念のため登録し直すことをお勧めします。

(参考) 意図しないポートが「登録済み(変更しない)」となっても、問題はありません。ただし、OSに未使用のプリンタが残ることになりますので、削除したい場合は下記のプリンタをOSから削除してください。

LPT1:用専用プリンタ：「ETOSJX/AP 実行環境専用プリンタ」

LPT2:用専用プリンタ：「ETOSJX/AP 実行環境専用プリンタ 1」

LPT3:用専用プリンタ：「ETOSJX/AP 実行環境専用プリンタ 2」

8.3 9ポイント文字の印刷設定

N5200 系コードを使用して、ホストから 9 ポイント文字の印刷を行う場合、ETOSJX で以下の設定が必要です。

ETOSJX をインストールした直後の設定では、9 ポイント文字の印刷はできません(10.8 ポイント相当文字として印刷されます)。

(1) 9 ポイント文字印刷の注意事項

① 9 ポイント文字サイズの設定、文字ピッチの設定は、以下のシーケンスを使用してください。

- ・文字サイズの設定：漢字文字サイズ指定を使用してください。

例：標準倍角文字 1A 26 (29 60) 29 70 (**)：省略可能

縦 2 倍角文字 1A 26 21 28 60 29 70

横 2 倍角文字 1A 26 29 60 21 28 70

- ・文字ピッチの設定：文字ピッチ指定を使用してください。

例：1A 24 29 70

② 9 ポイント文字の印刷が可能なプリンタは、「付録 C N5200 系コード対応プリンタ」を参照してください。

③ 9 ポイント文字の印刷ができないプリンタが接続されているにも関わらず、9 ポイント文字の印刷設定を行った場合、正しい印刷結果は得られません。

(2) 9 ポイント文字印刷の設定方法

① Windows フォルダにある ETOSIPEC. INI ファイルをメモ帳等で開きます。

② ETOSIPEC. INI ファイルの末尾にある [Control] セクションに下記の記述を追加してファイルを保存します。

```
PAPER2=10, 1 0 inch
SOURCE1=TF, トラクタフィーダ
ORIENTATION=1
POSITION=1

[Control]
9PCHAR=108 ←ここに記述を追加
```

ただし、N5200 系コード印刷に使用する外字ファイルが「移行外字」(注 1)の場合は、9 ポイント文字印刷時に参照する外字ファイルを指定する必要があります。

下記の 3 種類の記述から適切な設定値を選択してください。

設定	意味
9PCHAR=72	9 ポイント外字に 7 ポイント (24×24 ビット) の外字ファイルを使用する。
9PCHAR=108	9 ポイント外字に 10.8 ポイント (36×36 ビット) の外字ファイルを使用する。
9PCHAR=120	9 ポイント外字に 12 ポイント (40×40 ビット) の外字ファイルを使用する。

(注 1) 「Windows 標準外字」を利用する場合、上記設定は外字をプリンタにビットマップで登録する際のドットサイズを表します。通常は、9PCHAR=108 と設定してください。

8.4 PrintBridge を経由して印刷する

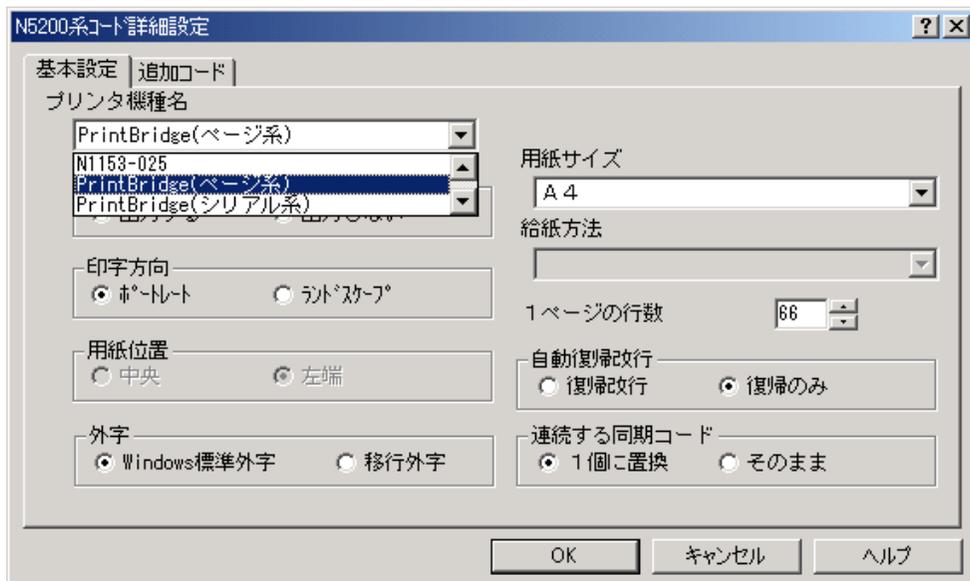
N5200 系コードの印刷は、PrintBridge と連携することにより以下の印刷が可能となります。

- ・ ネットワークや USB に接続されたプリンタへの障害通知機能を使用した印刷 (SimpleMonitor および PrintAgent 拡張モジュール for SimpleMonitor が必要)
- ・ 他社製プリンタへの印刷 (エプソン製、キャノン製を推奨)

※PrintBridge との連携は、文字セットに「JIPS G0/G1 集合 (JIS90)」を選択した場合にのみ可能となります。

PrintBridge を使用する場合は、次のような手順で印刷を行ってください。

- ① PrintAgent をインストールする。
障害通知機能を使用する場合、PrintAgent か、SimpleMonitor (および PrintAgent 拡張モジュール for SimpleMonitor) (プリンタ添付) が必要となります。
障害通知機能を使用しない場合はインストールする必要はありません。
- ② PrintBridge をインストールする。
※インストール方法については、PrintBridge のマニュアルを参照してください。
- ③ PrintBridge の SG でプリンタドライバを定義する
印刷に使用するプリンタドライバを PrintBridge の SG ツールで定義してください。
※設定方法の詳細は PrintBridge のマニュアルを参照してください。
- ④ ETOSJX の SG で PrintBridge を指定する
N5200 系コードの詳細設定でプリンタ機種名に PrintBridge を指定してください。



設定するプリンタ機種名は、ホスト側で定義しているプリンタにより変わります。
実際に印刷するプリンタ機種に依存するわけではありませんので注意してください。

ホストで定義したプリンタ	設定するプリンタ機種名
ページプリンタ	PrintBridge(ページ系)
シリアルプリンタ	PrintBridge(シリアル系)

- ⑤ 印刷を行う
ホストからデータを送信し印刷を行ってください。

(注意)

サポートしているプリンタ、制御コード等は PrintBridge のマニュアル等を参照してください。

第 9 章

トラブルシューティング

第9章 トラブルシューティング

この章では、ETOSJX のインストールで発生したトラブルと ETOSJX のパラメータ設定(ETOSJX-PG、DCS プリンタ)で発生したトラブルの対処方法について説明します。

Q 1. 「80 5A 008A PGDファイルのオープンに失敗しました。」のエラーが発生し、ETOSJX が起動できないがなぜか？

A 1. 何らかの原因で PGD ファイルが存在しないため、ETOSJX が起動できません。

ETOSJX の起動には SG ファイル(拡張子が PG/PGD/ETS/WS)が必要です。

本エラーは、PGD ファイル(拡張子が PGD)が何らかの原因で読み込めない時に発生します。

DCS プリンタを起動し、PGD ファイルを作成してください。

PGD ファイルとは、UA パスプリンタ出力を行うための設定情報を保存したファイルです。

Q 2. 「80 5A 0088 プリンタサービスの開始に失敗しました。(LU が割り当てられていない)」のエラーが発生し、DCS プリンタのサービスが開始できないがなぜか？

A 2. ネットワークマネージャの設定が誤っていると思われます。

該当する通信リソースにプリンタ用 LU が割り当てられていることを確認願います。

PC 通信サーバ形態の場合は、クライアントとサーバのネットワークマネージャのバージョンが同一か確認してください。

ネットワークマネージャの設定については、ネットワークマネージャのマニュアルを参照してください。

Q 3. TCP/IP 手順で ETOSJX をホストに接続すると「20 48 00BA 要求はタイムアウトしました。(tnETBA)」のエラーが発生しホストと接続できないがなぜか？

A 3. 本エラーは、接続先のホストが見つからない場合に発生します。

以下の点を確認してください。

- 1) ホストが起動しているか？
- 2) PC 上で定義したホストの IP アドレスの設定は正しいか？
- 3) TCP/IP ネットワークで PC とホストが接続されているか？
- 4) TCP/IP の PING コマンドでホストから応答があるか？

Q 4. ETOSJX を起動すると、「別の OS で作成されています。」のエラーメッセージが表示されるがなぜか？

A 4. ETOSJX の SG ファイルにはプリンタ固有情報が格納されているため、異なるバージョンの OS で作成した SG ファイル(拡張子が PG/PGD/ETS/WS)は使用できない仕組みになっています。

ETOSJX-PG および DCS プリンタで新規作成するか、PG コンバータを利用して該当 OS の SG ファイルを作成してください。

なお、SG ファイルの設定で使用するすべてのプリンタの定義を「通常使うプリンタ」に設定すれば、異なる OS で作成した SG ファイルも利用可能です。

- Q 5.** ETOSJX の SG ファイル(拡張子が PG/PGD/ETS/WS)をファイルサーバの共有フォルダに置き、複数のクライアントから同一 SG ファイルを使用して ETOSJX を使用できるか？
- A 5.** 以下の条件を満たせば利用可能です。
- 1) ハードコピー、COMI-2 パスプリンタ出力、UA パスプリンタ出力で使用するプリンタが「通常使うプリンタ」であること。
 - 2) ファイルサーバの共有フォルダ(ネットワークドライブ)を、全てのクライアント PC で同じドライブ(例, Z:)に割当てること。
- Q 6.** 旧製品で作成した SG ファイル(拡張子が PG/PGD/ETS)を使用できるか？
- A 6.** ETOSJX for UNICODE Ver1.0 で作成した SG ファイルはそのままでは使用できません。本製品が提供する PG コンバータを使用して SG ファイルをコンバート後、利用してください。詳細は、「**第6章 パラメータファイルを変換する**」を参照してください。ETOSJX for UNICODE Ver2.0 以降の製品で作成した SG ファイルは、そのまま利用可能です。ただし、異なるバージョンの OS で作成されている場合は、ETOSJX-PG および DCS プリンタで新規作成するか、PG コンバータを使用してコンバートしてください。
- Q 7.** 管理者権限で ETOSJX をインストールし正常動作できていた環境で、ユーザ権限でログインしたところ ETOSJX が起動できなくなってしまうがなぜか？
- A 7.** OS でファイルやディレクトリに与えているアクセス権限が、管理者権限とユーザ権限で異なるため起動できない(例えば、SG ファイルが読めない)ことが考えられます。OS のアクセス権限の設定を確認してください。
- Q 8.** 1 ホストから 2 LU を使用して 1 プリンタに印刷するにはどのような定義を行えば良いか？
- A 8.** ネットワークマネージャの「LU 情報定義」でプリンタ LU を 2 つ定義し、DCS プリンタの定義で各 LU の出力先プリンタを同一プリンタに設定してください。
- Q 9.** クライアントに外字移行後、外字が更新された場合、一台の PC 上の外字フォントファイルを更新し、他の PC には更新外字フォントのファイルを上書きするだけで他の PC に展開できるか？
- A 9.** フォントファイルを配布することで可能ですが、外字エディタや WORDPAD 等で更新状態を確認してください。
- Q10.** PrintBridge を経由して印刷を行った場合、従来の印刷結果と全く同じ印刷イメージで出力することが可能か？
- A10.** 一部サポートしていない制御コードや出力イメージが変わる制御コードが存在するため、印刷結果が変わってしまうことがあります。詳しくは、PrintBridge のマニュアルを参照する、もしくは、製品窓口にお問い合わせ願います。

付録

- 付録 A 注意事項
- 付録 B 障害発生時のお願い
- 付録 C N5200 系コード対応プリンタ

付録A 注意事項

A 1 インストール/アンインストールにおける注意事項

- (1) ETOSJX を使用するには「FontAvenue UniAssist JIPS 文字セット」が必要です。
- (2) ETOSJX をインストールする際、文字セット選択画面が表示されます。
必ず、「FontAvenue UniAssist JIPS 文字セット」で選択した文字セットと同じ文字セットを選択してください。
異なる文字セットを選択してインストールした場合の動作は保証できません。
- (3) UA パスプリンタ出力で N5200 系印刷（障害通知あり）を行う場合は、ETOSJX をインストールする前に使用するプリンタドライバを OS に登録しておいてください。
- (4) ETOSJX の登録/削除を行う際には、できる限りシステムで動作中のアプリケーション（ネットワークマネージャ、ウィルスチェックプログラム等の常駐アプリケーションも含む）をすべて終了して行ってください。
- (5) ETOSJX を削除する前に ETOSJX 関連モジュールが動作していないことを確認してください。
ETOSJX 関連モジュールが動作している状態で削除を行うとインストーラの動作が遅くなる場合があります。
- (6) ETOSJX の登録先に、ネットワークドライブを使用することはできません。必ずローカルドライブへインストールしてください。なお、ETOSJX の登録/削除元に、ネットワークドライブを使用することは可能です。
- (7) ETOSJX の登録/削除を行った場合は ETOSJX が置き換えたモジュールを有効とするため、OS の再起動を行うことを推奨します。
- (8) ETOSJX をインストールすると、Windows ディレクトリに ETOSJX.INI, ETOSIPEC.INI, IPCCOM32.INI ファイルを作成しますが、本ファイルを書き換えないでください。書き換えを行うと、ETOSJX が正常に動作しなくなります。
- (9) ETOSJX の登録/削除は、必ずインストールツール (SETUP.EXE) を使用して行ってください。手操作にて ETOSJX のモジュールを登録/削除すると ETOSJX の設定が不正となり正常に動作しません。
- (10) インストール先のフォルダ名に、シフト JIS 範囲外の文字を指定しないでください。
- (11) ソフトウェア配信を行う場合、Windows Server 2016 ドメインコントローラ上で、OU(組織単位)の登録、クライアントコンピュータの登録、ETOSJX 管理者インストールが必要です。
- (12) ソフトウェア配信を行う場合、グループポリシーの「コンピュータの構成」に ETOSJX を登録してください。「ユーザの構成」では配信は行われません。

A 2 ETOSJX の起動に関する注意事項

- (1) ETOSJX は、ネットワークマネージャ上で動作します。
ETOSJX を起動する前に、あらかじめネットワークマネージャの登録と設定を行ってください。
- (2) FUS(Fast User Switching)機能を利用する場合、複数ユーザのセッションで ETOSJX を起動して使用することはできません。
- (3) 既定のデータ参照フォルダは、C:\ProgramData\NEC\ETOSJX になります。
旧バージョンで使用していたデータファイル等を流用する場合は、当該フォルダにコピーしてください。
なお、ProgramData フォルダは隠し属性のため、エクスプローラ等で表示されない場合があります。その場合は、パスを直接入力して指定することで参照してください。

A 3 ETOSJX-PG/DCS プリンタの設定に関する注意事項

- (1) 従来製品で作成した PG ファイルは、PG コンバータにてパラメータファイルの変換を行うことにより、本製品での利用が可能です。
- (2) 異なる OS で作成したパラメータファイルは、PG コンバータにてパラメータファイルの変換を行うことで使用可能となります。
- (3) システムのプリンタ情報を変更した場合（ETOSJX で使用するプリンタドライバの削除、プリンタ名やフォーム格納ディレクトリの変更など）は、パラメータファイルの関連する項目を設定し直してください。
- (4) PG ファイル(*.PG)を別フォルダに移動する場合、リソースファイル(*.ETS)と PGD ファイル(*.PGD)及び WS ファイル(*.WS)も一緒に移動してください。リソースファイルと PGD ファイルが同じフォルダに存在しない場合、ETOSJX を起動できません。
- (5) WS 番号指定を利用する場合は、ネットワークマネージャ (16 ユーザ)を導入してください。
- (6) ETOSJX の表示フォントは、「F A JIPS 明朝」または「F A JIPS ゴシック」を指定してください。それ以外のフォントを指定した場合の動作は保証できません。
- (7) スタートアップに ETOSJX を登録する場合、ネットワークマネージャの起動を待ち合わせるため、ETOSJX-PG の回線接続パラメータ設定で回線接続リトライの項目(既定値:0)に適切な値を設定してください。
- (8) ブザー鳴動指定で「BEEP」の鳴動タイプを使用する場合、機種によってはブザー音が鳴らない場合があります。
- (9) COMI-2 パス拡張ファイル転送のファイル情報定義のファイル名は、64 文字以内で指定してください。
- (10) 半角スペース(20H)を含むファイル名を、COMI-2 パス機能で使用することはできません。
- (11) AP キー、変換キー(または XFER キー)に送信機能を割り当てることが可能ですが、日本語入力モード中は無効となります。また、使用する日本語入力システムによっては、AP キー、変換キー以外も無効になる場合があります。

A 4 操作に関する注意事項

- (1) Windows を終了させる際には、先に ETOSJX を終了させてください。ETOSJX の起動中に Windows を終了させると、終了に時間がかかる場合があります。
- (2) プロパティシートの右上に表示されるヘルプアイコン([?])は、使用できません。

A 4 文字入力や画面表示に関する注意事項

- (1) 文字の入力はUnicodeで行われますが、対応する JIPS コードが定義されていない文字が入力された場合、画面上に表示しません(破棄されます)。
- (2) 文字セットに「JIPS G0/G1/G2 集合(JIS2004)」を選択した場合、IME から G1 文字、G2 文字、NEC 付加文字の入力が可能となります。
文字セットに「JIPS G0/G1 集合(JIS90)」を選択した場合は、IME から G1 文字、NEC 付加文字の入力が可能となります。
- (3) グラフが表示されている位置に、文字を入力すると一時的にグラフテキストの一部が消えます。この場合、ETOSJX のウィンドウサイズを変更する等で再表示を行えば、グラフと文字が正しく表示されます。
- (4) ETOSJX は、画面の縦横サイズ比が適正になるように自動的に補正しています。そのためユーザ操作でウィンドウのサイズを変更しても指定のウィンドウサイズにならないことがあります。
- (5) 「F A JIPS 明朝」、「F A JIPS ゴシック」フォントは ETOSJX で必要なため、システムから削除しないでください。
- (6) リバースアトリビュートの行が 2 行並んだ場合、行と行の間はリバースしません。
- (7) 同一カラムに縦罫線とリバースのアトリビュートを指定した場合、リバースは縦罫線カラム全体にかかります。
- (8) 合成文字の入力・表示は、サポートしません。
- (9) OS 標準フォントが JIS2004 未対応フォントの場合、設定画面などのダイアログボックスやエラー表示画面には JIS2004 文字は表示されません。
- (10) ETOSJX の入力モード(ローマ字/かな)を変更する場合は、制御領域の「R/カナ」表示をダブルクリックするか、入力モード切替キーを押して変更してください。
日本語入力システム(IME)のプロパティを直接変更すると、ETOSJX と日本語入力システムの入力方式が一致しなくなり、入力動作が不正となる場合があります。
- (11) 入力モードで「かな」を使用する場合、入力フィールドの状態とカナ入力状態が一致なくなる場合があります。この場合は、日本語入力システムのツールバー上の [KANJI] をクリックして、入力状態を直接変更してください。
- (12) IME 制御の設定を無効にした場合、入力モード(ローマ字/かな)の変更操作(入力モード切替キーの押下等)で制御領域の「R/カナ」表示は変更されますが、実際の入力モードは変更されません。
- (13) JIS2004 環境で ETOSJX を使用する場合、一部の合成文字で、画面表示時に文字の表示位置とカーソル位置が一致しないことがあります。合成文字の入力や表示は、動作を保証できません。
- (14) ユーザ操作でウィンドウのサイズ等を変更しても、ウィンドウ表示状態に関する設定は、ETOSJX 終了時にクリアされます。現在の表示状態を今後の既定値にしたい場合は、Ctrl+S キーを押して設定を保存してください。
- (15) ETOSJX のエラーメッセージ等を表示した時に、ETOSJX のウィンドウがアクティブ状態にならない場合があります。
- (16) マクロ(WIN_ACTIVATE, ON)を使用しても、ETOSJX のウィンドウをアクティブ状態にできない場合があります。

A 5 COMI-2 パスファイル転送を行う場合の注意事項

- (1) COMI-2 パスファイル転送では、端末側で扱うファイル形式は、Unicode となります。
データ受信：JIPS コードを Unicode へ変換し、受信データをファイルへ書き込みます。
データ送信：Unicode を JIPS コードへ変換し、ホストへ送信します。
ホストより受信したデータを別アプリケーションにて利用される運用を行っている場合は、注意願います。
- (2) ファイル情報定義のファイル名を変更する場合は、64 文字以内で指定してください。
- (3) ファイル情報定義で指定するレコード長は、JIPS コードへ換算した長さになります。
Unicode では、ANK 文字コードも漢字コード同様 2 バイトで扱われるため、コード変換によって端末側ではレコード長が変わることがあります。
その結果、固定長でファイル転送したファイルが端末側では固定長になっていない場合がありますのでご注意ください。
上記理由より、可変長でのファイル転送をお勧めいたします。
- (4) 文字セットが異なる環境で作成したファイルは互換性がありません。異なる文字セット環境で受信したファイルを使用した場合の動作は保証できませんので、注意願います。

A 6 ファイル転送全般に関する注意事項

- (1) 同一ファイルに対して同時にアクセスを行った場合(同一ファイルに対して書き込みと読み込みを同時に行う場合等)の動作は保証できません。

A 7 プリンタ出力に関する注意事項

- (1) 印刷を行うには「F A JIPS 明朝」もしくは「F A JIPS ゴシック」が必要です。
- (2) 外字を印刷するには、OS(Windows)で「F A JIPS 明朝」または「F A JIPS ゴシック」に外字を関連付けるか、標準の外字として登録する必要があります。詳細は、OS 添付の外字エディタの利用方法を確認してください。
- (3) 出力先のプリンタ名に、シフト JIS 範囲外の文字を指定しないでください。
- (4) ETOSJX 画面のハードコピーを行う時、垂直タブ(VT)は、プリンタの設定に係わらず常に 6 行固定となります。
- (5) COMI-2 パスによるプリンタ出力においてデータをチャンネル指定によってファイルへ出力した場合、このファイルを PC のプリンタへ出力することはできません(オフラインプリンタ出力(ETOS52CP)未サポートのため)。印刷が必要な場合は、プリンタに直接出力するように設定してください。
- (6) COMI-2(KB/PR)モードのプリンタ同時出力指定でプリンタ出力を行う場合、画面表示とプリンタへの印刷は同時に行われません。プリンタへの印刷は、ETOSJX-PG の COMI-2 パス拡張機能のプリンタタイム監視時間が経過した後に行われます。
- (7) ホスト側の業務アプリケーションは文字コードを JIS78 で扱いますが、N5200 系コードおよび従来変換はプリンタのフォント体系に従って動作します。そのため動作結果が異なることがあります。この場合、プリンタの設定にてフォント体系を変更するか、「FontAvenue UniAssist JIPS 文字セット」にてコード変換テーブルを作成し、出力文字コードを正しい文字コードに変更してください。
- (8) 印刷開始または終了時にホストから受信したデータに追加してデータファイル(追加コード)を出力することができます。詳細は、「**第 4 章 PG パラメータ設定**」、「**第 5 章 UA パスプリンタ設定**」および操作ガイドの「**端末システムの使用形態を変更する**」、「**UA パスでプリンタ出力する**」を参照してください。
- (9) N5200 系コードでプリンタ出力を行う場合、以下の点に注意してください。
 - ・N5200 系コード対応プリンタについては、「**付録 C N5200 系コード対応プリンタ**」を参照してください。
 - ・本体のプリンタインタフェースにプリンタ切替器やプリンタバッファ等を接続すると、障害通知機能に制限を受ける場合があります。
 - ・「障害通知する」を設定した場合、PC 本体の平行ポートにプリンタを接続する必要があります。ネットワークプリンタや USB 接続プリンタで印刷する場合、「通知しない」に設定するか、「PrintBridge」を導入(詳細は「**8.4 PrintBridge を経由して印刷する**」を参照)してください。
 - ・「障害通知する」を設定した場合、電源断やプリンタケーブル抜けが、用紙切れや DSEL として通知される場合があります。この場合、電源を入れ直したり、ケーブルを接続し直しても正常に印字できない(印字ズレが発生する)ため、印刷の操作を最初からやり直す必要があります。
 - ・「障害通知する」を選択した場合、プリンタケーブル抜け発生時に、印字データ抜けとなる場合があります。
 - ・「障害通知する」を設定した場合、印刷が終了するまでの間、プリンタを占有します。このため、複数の ETOSJX(マルチホストやマルチ LU)から同時に印刷を行おうとしたり、UA パスと COMI-2 パスの印刷を同時に行おうとすると、ホストへプリンタ障害を通知します。
 - ・障害通知の有無にかかわらず、プリンタ装置のリセットは検出できません。
 - ・シリアルプリンタで印刷を行う場合、ETOSJX-PG、DCS プリンタおよびプリンタのプロパティで設定する印刷の向き(縦/横)は反映されません。常に縦方向で印刷されます。
 - ・シリアルプリンタで印刷を行う場合、ETOSJX-PG および DCS プリンタの N5200 系コード詳細設定で印字位置を左端に設定してください(初期値は左端になっています)。中央を設定する場合、ホスト側プリンタデータの修正が必要となります。
 - ・追加コード、PTOS 移行外字、フォームパスを指定する場合、パスおよびファイル名にシフト JIS 範囲外の文字を指定しないでください。

- (10) 従来変換でプリンタ出力を行う場合、以下の点に注意してください。
- ・ETOSJX-PG、DCS プリンタおよびプリンタのプロパティで設定する印刷の向き(縦/横)は反映されません。プリンタ本体の設定で印刷されます。
 - ・従来変換を使用したフォーム印刷を行う場合、使用する OS に対応した帳票作成支援ソフトウェア『帳楽』/『帳楽印刷キット』(別売)が必要です。
 - ・フォーム印刷を行う場合、フォーム名に長いファイル名は使用できません。「8文字以内+ピリオド(.)+3文字以内」でファイル名を設定してください。
 - ・フォーム印刷に使用するプリンタを変更した場合、プリンタに合わせてフォームオブジェクトの作り直しが必要な場合があります。詳細は、帳楽のマニュアルを参照して下さい。
- (11) イメージ変換でプリンタ出力を行う場合、以下の点に注意してください。
- ・イメージ変換を使用して印刷を行う場合、ETOSJX 内部で PC-PR201 プリンタをエミュレートし、印刷イメージデータを出力します。このため、ホストからプリンタを直接制御するコード(ホッパ切り替え、プリンタ内蔵文字の印字、フォントカートリッジの指定等)は使用できません。
 - ・8ビットコードのCGグラフィック文字および、7ビットコードは使用できません。
 - ・印字処理中に用紙サイズを変更するコードを受け付けた場合、一旦スプールファイルをクローズし、印刷を行います。

A 8 オフラインビューに関する注意事項

- (1) オフラインビューは、N5200系コード印刷でのみ利用可能です。PC系コード印刷はサポートしておりません。
- (2) シフト JIS 範囲外の文字を含むパスに存在するオフライン印刷データファイルは利用できません。
- (3) 印刷データの最後が改ページコード(0x0C)もしくは改行コード(0x0A)で終了していない場合、最後の行がビューおよびプリンタに出力されないことがあります。
- (4) 異なる OS で出力したオフライン印刷データファイルを印刷する場合(たとえ同一プリンタでの印刷である場合も)、オフライン印刷を行うプリンタの指定を再度行って下さい。本操作は OS 毎に異なるプリンタ情報の整合性を取るための手続きであり、本操作を行わない場合の印刷結果は保証されません。
- (5) 追加コード(データファイル)をフルパスで指定した場合、追加コードファイルはオフライン印刷データファイル出力時と同一ディレクトリに存在する必要があります。追加コード(データファイル)を相対パスで指定した場合、オフラインビューが存在するフォルダ配下に相対パスが存在する必要があります。

A 9 グラフ表示に関する注意事項

ETOSJX は、Windows の GDI の機能を使用して TGL を実現しているため、以下の点に注意してください。

- (1) 直線、円、円弧の線パターンについて (LINE 文)
 - ・線パターンの反転はできません(反転を指定しても無視されます)。
 - ・表示できる線種に制限があります(描画モードが高速モードの場合)。
- (2) 画面のクリア (GCLR 文、ERASE 文)
 - ・ペン番号 1~6 を指定してもペン番号 7 として処理されます(全プレーンを消去します)。
- (3) 塗りつぶしパターン (PAT 文)
 - ・塗りつぶしパターンの拡大はできません。
常に MAG=0 として処理します。
- (4) ディスプレイの初期化と解放 (DEVICE 文)
 - ・ACT=0, ACT=2 はサポートしていません。指定しても処理しません。
- (5) グラフテキスト及びラベルの大きさと傾き度合い (CSIZE 文)
 - ・斜字はサポートしていません。
SLANT=1 を指定しても SLANT=0 として処理されます。
- (6) 文字(グラフテキスト)列展開の描画方向 (LDIR 文)
 - ・グラフテキストの描画方向は 90° 単位です。
ANG=1, 3, 5, 7 はそれぞれ ANG=0, 2, 4, 6 として処理されます。
 - ・イタリックを指定した場合、フォントによっては描画方向 (ANG=2, 4, 6) を指定しても 0° として描画されることがあります。
- (7) 文字(グラフテキスト)列展開の基準点 (LORG 文)
 - ・グラフテキスト描画時の基準点、レターフェース左下点はサポートしていません。
MD=0 は MD=1 として処理されます。
- (8) 連続ベクトル描画による多角形、折れ線表示値 (CDRAW 文)
 - ・動作モード "F"、"A" では DMODE 文の影響を受けない場合があります。
- (9) グラフカーソルの移動 (POINT 文)
 - ・移動後のマウスカーソル非表示はサポートしていません。
常に MOD=0 (表示する) として処理します。
- (10) 円、円弧、扇形の描画 (CIRCLE 文)
 - ・内部を塗り潰す指定をしたときの輪郭は、DMODE 文の影響を受けません。
- (11) 矩形の描画 (RECT 文)
 - ・内部を塗り潰す指定をしたときの輪郭は、DMODE の影響を受けません。
- (12) 色の重ね合わせ方の指定 (DMODE 文)
 - ・描画動作モード「1 (Complement)」は無効となり、「0 (Replace)」として扱われます。
- (13) グラフ表示領域について
グラフ面定義テキスト中に定義されているグラフ表示領域が、DIM 領域より大きいと DIM 領域がグラフ表示領域となります。

(14) グラフ表示色／背景色について

ETOSJX のグラフ表示画面の表示色は、ETOSJX-PG のグラフ表示色指定で指定したグラフ表示色や背景色と異なる場合があります。

グラフ表示色と背景色は、DMODE 文の指定により次のように表示されます。

モード	グラフ表示色	グラフ背景色
DMODE 0、0 (REPLACE、不透明)	SRC	黒色
DMODE 2、0 (RESET、不透明)	黒色	SRC AND DEST
DMODE 3、0 (SET、不透明)	SRC	SRC AND DEST
DMODE 0、1 (REPLACE、透明)	SRC OF DEST	NOT(SRC) AND DEST
DMODE 2、1 (RESET、透明)	NOT(SRC) AND DEST	DEST
DMODE 3、1 (SET、透明)	SRC OR DEST	DEST

SRC : ETOSJX-PG で指定したグラフの表示色

DEST : ETOSJX-PG で指定したグラフの背景色

(15) ウィンドウサイズによる影響

- ・ウィンドウサイズにより、90 度、270 度の描画角度文字の表示位置がずれることがあります。
- ・ウィンドウサイズを大きくした場合、グラフの目盛が大きくなることがあります。

(16) 再描画用ファイルについて

TGL では、再描画用にファイルを作成するため、メモリとディスクの空き容量がそれぞれ 100K バイト以上必要になります。

(17) グラフのプリンタ出力について

グラフをプリンタに出力すると、色の塗りつぶしの処理がプリンタドライバにより異なるため、画面通りの印刷結果が得られない場合があります。

(18) クリップボード転送について

- ・データ連携時、フォントの大きさの情報はメタファイルに格納できないため、グラフ内の文字の拡大／縮小はできません。
- ・グラフ領域外に描画した図形や文字は、ETOSJX の画面には表示されませんが、メタファイルには格納されるため、データ連携時には、貼り付け先に描画されます。
- ・90 度、270 度の描画角度文字の文字幅が、画面のイメージと異なることがあります。

(19) その他

- ・ETOSJX の通常の文字表示と TGL のグラフは同一のウィンドウにグラフィックとして描画されるため、後から描いたものが優先されて表示が行われます。
ウィンドウの再描画時には、グラフはグラフで、文字は文字でまとめて描画されます(グラフを描いた後で文字を描画します)。
再描画時の表示の順番がももとの表示の順番と異なる場合、重なり方が変わります。
- ・1 つの TGL 文のパラメータ総バイト数が 257 バイト以上のものを受信した場合、その TGL 文を含むグラフ表示テキストは無効となります。
- ・グラフ描画の通信テキストに誤りがあった場合、エラーメッセージを表示します。
- ・「一部の TGL コマンドが実行されませんでした。」というエラーを表示した場合、グラフの表示が不正となることがあります。

A 1 0 分散処理機能に関する注意事項

- (1) 分散アプリケーションは、32bit 分散 API・64bit 分散 API で作成可能です。なお、分散アプリケーションの作成には、以下のソフトウェア(コンパイラ)を使用してください。

C 言語	: Visual C++ 2012(Visual Studio 2012)以降	*1*2*3
COBOL 言語(32bit)	: Open COBOL Factory 21/COBOL85 Ver6.x および Open COBOL Factory 21/COBOL85 Pro Ver8.x	*1*2*3*4
COBOL 言語(64bit)	: COBOL Standard Edition Developer Ver1.0 以降	*1*2*3*4*5

- *1 ユーザプログラムは、指定されたバージョンで作成してください。
 - *2 指定以外のコンパイラで作成済みのユーザプログラムは、指定バージョンで再コンパイルすることを推奨します。
 - *3 指定以外のコンパイラで作成したユーザプログラムは、動作を保証できない場合があります。ユーザプログラムが正常に動作しない場合は、指定バージョンで再コンパイルしてください。
 - *4 システムサブルーチン(32bit:CSETOS.OBJ、64bit:CSETOS64.OBJ)は、本製品添付のものを使用してください。
 - *5 Visual Studio 2015 以降を使用する場合は、Visual Studio が提供する以下のライブラリをリンクする必要があります。
 - ・ legacy_stdio_definitions.lib
 - ・ legacy_stdio_wide_specifiers.lib
- (2) 分散アプリケーション使用時、分散 AP が ET_ENA コマンドを発行する前に、操作員が ETOSJX を終了すると、ETOSJX は終了しますが分散アプリケーションは終了しません。
- (3) 分散アプリケーションのウィンドウをアクティブ状態にできない場合があります。
- (4) ETOS 制御機能を利用するアプリケーションとの同時動作は保証していません。

A 1 1 ETOS 制御機能に関する注意事項

- (1) ETOS 制御機能を使用するアプリケーションの作成には、以下のソフトウェアを使用してください。UNICODE インタフェースのみのサポートとなりますのでご注意ください。

C 言語	: Visual C++ 2012(Visual Studio 2012)以降	*1*2*3
------	---	--------

- *1 ユーザプログラムは、指定されたバージョンで作成してください。
 - *2 指定以外のコンパイラで作成済みのユーザプログラムは、指定バージョンで再コンパイルすることを推奨します。
 - *3 指定以外のコンパイラで作成したユーザプログラムは、動作を保証できない場合があります。ユーザプログラムが正常に動作しない場合は、指定バージョンで再コンパイルしてください。
- (2) ETOS 制御機能は、JIS2004 に対応していません。JIS2004 文字を含む画面データの取得、キー入力、文字検索等は正常に動作しません。
- (3) 同じプロセスから同じ ETOSJX に複数接続した場合、ホストとのセッション切断は接続している識別 ID 全てに対して行ってください。
- (4) コマンドの終了を待機関数で待ち続けないようにしてください。OS に処理を渡すようにプログラミングしてください。
- (5) ETS_WINDOWCTRL コマンドを使用しても、ETOSJX のウィンドウをアクティブ状態にできない場合があります。
- (6) 分散アプリケーションとの同時動作は保証していません。
- (7) 文字の長さがバイト長から文字数に変更になります。ご注意ください。

A 1 2 マクロコンバータに関する注意事項

- (1) 簡易操作コマンドファイルの変換において、セッション切り替えコマンドが存在した場合、マクロコンバータでは、セッション接続、セッション切断の判断ができません。セッション接続/セッション切断の選択ダイアログでセッション切替動作を確定して下さい。

- (2) /MOD N が指定されている簡易操作コマンドファイルを変換する場合、コマンド同期のために/PUT コマンドの前に RECV WRT コマンドを付加する動作を行います。

処理によっては、最初の/PUT の前に RECV WRT が不要場合があります。変換されたマクロファイルを実行した際、処理が止まり動作しない場合、追加された RECV WRT コマンドを削除願います。

(例)セッション接続処理の直前で/DSP を実行するコマンドの変換結果

(変換前)		(変換後)
/MOD N		RECVMODE SYNC
/DSP XXXXXXXXXXXX	→	DISP XXXXXXXXXXXX
/PUT::SR:ET:ED::		RECV WRT (※)
		SEND INIT

※本来は不要なため、削除してください。

- (3) /PUT コマンド中に CM ニーモニックが指定されている場合、コマンド入力ダイアログボックスを表示しますが、コマンド内容はダイアログボックスに入力されません。手作業でコマンド内容を入力するか、マクロファイルを同等のマクロコマンドに書き直してください。
- (4) /PUT コマンド中に PF16~PF24 が指定されている場合、キー入力コマンドに変換されます。IBM エミュレートモードで送信キーとして運用する場合は、マクロファイルを書き直してください。
- (5) 変換結果はログに出力します。エラー情報も出力しているため、変換後は必ずログを確認してください。

A 1 3 ローカル画面に関する注意事項

- (6) ローカル画面ファイル機能関連のローカルユーティリティ (ETOS52FG) はサポートしていません。
- (7) 同一ローカル画面ファイルに対して同時にアクセスを行った場合 (同一ファイルに対して書き込みと読み込みを同時に行う場合等) 動作は保証されません。

A 1 4 オンライン FORMS に関する注意事項

- (1) 網掛けパターンの登録は出来ません。
- (2) イメージ変換、無変換ではオンライン FORMS 機能は使用できません。
- (3) フォームの開始/終了は単一データとしてホストより送信して下さい。制御シーケンス以外にデータが付加されていた場合、制御シーケンスは認識されません。

A 1 5 コード変換に関する注意事項

- (1) UNICODE→JIS コードに変換する場合、2バイト系コードの始まり及び終りにそれぞれ KI コード (1A70₁₆)、KO コード (1A71₁₆) を付加しますが、付加される位置は固定ではありません。

2バイト系のコード列があった場合、その先頭と最後に KI コードと KO コードが付加されますがコード列の途中にも KO コード、KI コードが付加される可能性があります。

例えば、漢字フィールドが連続している場合には、送信データは連続する漢字フィールド単位に KI, KO で区切られ送信されます。

- (2) コード変換テーブルを使用する場合は、「FontAvenue UniAssist JIPS 文字セット」で作成してください。なお、ANK 文字コードと ANK 文字以外の文字コードを関連付けた場合の動作は、保証いたしません。

A 1 6 ファイルに関する注意事項

文字セットが異なる環境で作成したファイルは、互換性がありません。異なる文字セットで使用する場合は、ファイルを変換する必要があります。変換方法については、「FontAvenue UniAssist JIPS 文字セット」のマニュアルを参照してください。

付録B 障害発生時のお願い

障害発生時には、次ページ以降の「障害報告書調査項目チェックシート」に記入し、販売店、当社担当営業、当社担当 SE までお渡し願います。

チェックシートがない場合、障害対応を迅速に行えない場合がありますので、御協力の程、お願いいたします。

販売店、担当営業、担当 SE は、チェックシートを添付の上、障害報告書を発行するよう願います。

受注番号	※				第1版	1 / 2
障害報告書調査項目チェックシート (Ver1.8)						
障害・調査件名			障害報告書発行番号		対応者	
※					※	
受付日	連絡先 所属	氏名	電話番号	FAX番号		
※	※	※	※	※		
障害内容： ※						
ソフトウェア： <input type="checkbox"/> ETOSJX for UNICODE Version [.] 文字セット： <input type="checkbox"/> JIPS G0/G1/G2 集合 (JIS2004) <input type="checkbox"/> JIPS G0/G1 集合 (JIS90) ETOSJX のシステム形態 PC 通信サーバ形態使用時は以下の項目も記入してください。 サーバマシン機種 [] OS [Windows] Ver. [.] ネットワークマネージャの Ver. [.] 使用手順： <input type="checkbox"/> TCP/IP <input type="checkbox"/> その他 []						
使用マシンの設定： マシン機種 [] CPU [] CPU クロック数 [MHz] メモリ [MB] ディスク容量 [MB] 画面解像度 [×] OS [Windows] [32bit・64bit] Ver. [.] Service Pack [] 適用済み ビルド番号 []						
環境設定ファイル：(資料として、以下のファイルをコピーして添付して下さい) <input type="checkbox"/> ETOSJX の SG ファイル (「*.PG」、「リソース名.PGD」及び「リソース名.ETS」及び「リソース名.WS」) <input type="checkbox"/> レジストリ情報ファイル						
分散 AP：(ETOS の分散 I/F を使用する MML あるいはコンパイラ名) プログラム言語： <input type="checkbox"/> C 言語 コンパイラ名 [] Ver [.] <input type="checkbox"/> COBOL 言語 コンパイラ名 [] Ver [.] <input type="checkbox"/> MML ソフト名 [] Ver [.]						
ホストマシンの設定： マシン機種 [] OS [] Ver. [.]						

※の付いた項目は、記入しないでください。

障害メッセージ：（ETOSJX や Windows が表示するメッセージ） <input type="checkbox"/> ETOSJX のエラーメッセージ メッセージ番号 [] メッセージ内容 [] <input type="checkbox"/> Windows エラーメッセージ メッセージ内容 []
ダンプ等：（以下の資料は必ず添付してください） <input type="checkbox"/> ETOSJX のログ（注1） <input type="checkbox"/> ホスト側の回線トレース <input type="checkbox"/> ネットワークマネージャのトレースファイル（注2） <input type="checkbox"/> ダンプ採取不可 理由 []
その他の資料： <input type="checkbox"/> ETOSJX の画面コピー <input type="checkbox"/> ETOSJX の印刷結果 <input type="checkbox"/> その他 []
備考：（その他、何かお気づきの点がありましたら記入してください）

(注1)

1. ETOSJX のログ採取方法

ETOSJX ログファイルは、以下の①、または②の方法で採取します。①、②を実行すると、ETOSJX インストールディレクトリ配下の「¥LOG」ディレクトリにログファイルが作成されます。このディレクトリ配下のすべてのファイルと、PG ファイル(*.PG)、ETS ファイル(*.ETS)、PGD ファイル(*.PGD)、WS ファイル(*.WS)を zip 等で圧縮してコピーしてください。

- ① 障害発生のタイミングが限定できない場合
ETOSJX を終了する(メニューの「閉じる」を選ぶ)。
- ② 障害発生のタイミングが限定される場合(画面が乱れる等)
Ctrl+@を押下、またはツールバーのログ採取ボタンをクリックしてスナップショットダンプを採取する。
(注意)スナップショットダンプを採取した場合は、ETOSJX を終了する前に、下記のログファイルをコピーしてください(ETOSJX を終了すると、スナップショットで採取したこれらのログファイルが上書きされてしまいます)。

※①、または②の方法でログファイルを採取する前に、ディスクの空き容量が十分あることを確認してください(2MB 以上)。ディスク容量が不足しているとログファイルが出力できません。

2. 採取されるログファイル

ETOSJX の起動ディレクトリ下の¥LOG ディレクトリに、以下の規則によりログファイルは作成されます。

①ETOSJX ログファイル

ファイル名 = リソース名(最大 16 文字). <u>拡張子</u>

拡張子	内 容
L0x	ログトレース
F0x	関数トレース
D0x	送受信データ
K0x	キー入力データ
T0x	ETOSJX テーブル
I0x	ICP ログ
S0x	スナップショットダンプ
M0x	ウィンドウメッセージトレース
DCS	DCS のログ
DCM	DCS のウィンドウメッセージトレース
PRL	DCS プリンタのログ
PRM	DCS プリンタのウィンドウメッセージトレース

※x は何個目の ETOSJX かを示す。

②プリンタ出力(ハードコピーを除く)のログファイル

ファイル名	プリンタ制御コードの設定
WN201A0x.LOG	201系コード/従来変換
WNGDIA0x.LOG	201系コード/イメージ変換
WNTHRA0x.LOG	201系コード/無変換
WNINFA0x.LOG	情処系コード

③分散 AP 使用時のログファイル(ETOSJX 起動ディレクトリ下の¥LOG ディレクトリ)

ファイル名	内容
ETSMMLxx.LOG	ログトレース
ETSMMLxx.TBL	分散 API テーブル
ETSMMLxx.ICP	ICP ログ

④ETOS 制御機能使用時のログファイル

ファイル名	内容
WNDATxxx.GAD	ETOS 制御機能のログ、関数、テーブルトレース
WNETCxxx.GAD	
WNPNCxxx.GAD	
WNAPITBL.GAD	

⑤ETOSJX ヒストリファイル

ファイル名	内容
ETOSHIST.LOG	ETOSJX の動作履歴トレース

(注 2)

採取方法は、ネットワークマネージャのマニュアルを参照願います。

付録C N5200 系コード対応プリンタ

N5200 系コードの印刷を行う場合、以下に掲載する PC-PTOS 対応プリンタが必要です。

ETOSJX シリーズ(<http://www.nec.co.jp/pfsoft/etosjx/>)

－動作環境

－サポートプリンター一覧

－[PC-PTOS 対応プリンタ](#)

なお、9 ポイント文字の印刷は、掲載されているページプリンタでのみ印刷が可能です(シリアルプリンタでは印刷できません)。

※9 ポイント文字の印刷については、「**8.3 9 ポイント文字の印刷設定**」を参照してください。

<注意事項>

- (1) N 型番のプリンタ(N11xx と N78xx)は、Express5800 シリーズに接続されている場合に、ネットワークプリンタとして利用可能です。PC には接続できません。
- (2) PR-L4050、PR-L6050A、N1153-L4050、N1153-L6050A をご使用になる場合、1999 年 7 月 1 日以降に出荷された装置である必要があります。
出荷時期が不明な場合は、プリンタファームウェアのレビジョンをご確認ください。

【サポート対象プリンタのファームウェア (FW) レビジョン】

プリンタ FW は、以下のレビジョン以降のものが該当します。

PR-L4050、N1153-L4050 : レビジョン 12.41 以降

PR-L6050A、N1153-L6050A : レビジョン 10.35 以降

※プリンタ FW は、小数点以下 2 桁が版数を表します。

- (3) PR-D700EX は ETOSJX のサポートプリンタではありません。